

琵琶湖博物館業績目録

第 24 号

2019 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2020 年 8 月

Performance Records of the Lake Biwa Museum, No. 24

From April 2019 to March 2020

Edited by the Lake Biwa Museum (Chief editor: HASHIMOTO, Michinori)

Published by the Lake Biwa Museum

Oroshimo-cho 1091, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan

© Lake Biwa Museum, August 2020

All rights reserved

目 次

収録内容		3
館長		
高橋 啓一	TAKAHASHI, Keiichi	5
上席総括学芸員		
山川 千代美	YAMAKAWA, Chiyomi	9
亀田 佳代子	KAMEDA, Kayoko O.	12
環境史研究係		
里口 保文	SATOGUCHI, Yasufumi	16
橋本 道範	HASHIMOTO, Michinori	19
山中 大輔	YAMANAKA, Daisuke	22
楊 平	YANG, Ping	24
林 竜馬	HAYASHI, Ryoma	27
渡部 圭一	WATANABE, Keiichi	30
大久保 実香	OKUBO, Mika	35
妹尾 裕介	SENOO, Yusuke	37
田畑 諒一	TABATA, Ryoichi	40
島本 多敬	SHIMAMOTO, Kazuyuki	44
生態系研究係		
松田 征也	MATSUDA, Masanari	48
桑原 雅之	KUWAHARA, Masayuki	51
八尋 克郎	YAHIRO, Katsuro	54
芳賀 裕樹	HAGA, Hiroki	57
中井 克樹	NAKAI, Katsuki	60
榊永 一宏	MASUNAGA, Kazuhiro	71
スミス, ロビン J.	SMITH, Robin James	74
下松 孝秀	KUDAMATSU, Takahide	76
片岡 佳孝	KATAOKA, Yoshitaka	78
山本 綾美	YAMAMOTO, Ayami	80
鈴木 隆仁	SUZUKI, G. Takahito	82
大槻 達郎	OHTSUKI, Tatsuo	85
博物館学研究係		
大塚 泰介	OHTSUKA, Taisuke	89
戸田 孝	TODA, Takashi	94
奥野 知之	OKUNO, Tomoyuki	96
由良 嘉基	YURA, Yoshiki	99
芦谷 美奈子	ASHIYA, Minako	101

金尾 滋史	KANA O, Shigefumi	104
中村 久美子	NAKAMURA, Kumiko	116
松岡 由子	MATSUOKA, Yuko	120
嘱託員		
大喜 のぞみ	DAIKI, Nozomi	122
細川 眞理子	HOSOKAWA, Mariko	123
三桝 友梨香	MIMASU, Yurika	125
渡辺 圭一郎	WATANABE, Keiichiro	126
名誉学芸員		
川那部 浩哉	KAWANABE, Hiroya	127
布谷 知夫	NUNOTANI, Tomoo	130
中島 経夫	NAKAJIMA, Tsuneo	133
前畑 政善	MAEHATA, Masayoshi	134
用田 政晴	YODA, Masaharu	135
グライガー, マーク J.	GRYGIER, Mark Joseph	137
特別研究員		
池田 勝	IKEDA, Masaru	140
北村 美香	KITAMURA, Mika	143
辻川 智代	TSUJIKAWA, Tomoyo	145
黒岩 啓子	KUROIWA, Keiko	146
柏尾 珠紀	KASHIO, Tamaki	149
廣石 伸互	HIROISHI, Shingo	150
中野 聡志	NAKANO, Satoshi	151
天野 一葉	AMANO, Hitoha	152
藤岡 康弘	FUJIOKA, Yasuhiro	153
中野 正俊	NAKANO, Masatoshi	155
寺本 憲之	TERAMOTO, Noriyuki	156
岩木 真穂	IWAKI, Maho	158
山本 充孝	YAMAMOTO, Michitaka	159
鈴木 真裕	SUZUKI, Masahiro	160
根来 健	NEGORO, Takeshi	162
今井 一郎	IMAL, Ichiro	165
柏谷 健二	KASHIWAYA, Kenji	168
左子 芳彦	SAKO, Yoshihiko	169
総合研究・共同研究による印刷物		171
2019年度の研究活動をふりかえって		172

収録内容

1. この業績目録には、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸職員および嘱託員、特別研究員等の2019年4月から2020年3月までの内容が収録されています。
2. この業績目録には、次の項目に該当する業績を収録しました。

一年間の研究

印刷物

- 【学術論文】（査読を受けて掲載された論文）
- 【専門分野の著作】（査読を経ないが、専門性の高い内容の著作）
- 【一般向けの著作】
- 【これまでの業績目録に掲載されていない著作】

研究活動に関する業績

- 【学会・研究会での発表】
- 【インターネットページでの公表】
- 【研究プロジェクト等への参加】
- 【学会等の役職・運営、論文の査読など】
- 【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】
- 【受賞など】

博物館事業に関する業績

- 【交流・サービス事業】
 - 琵琶湖博物館の主催行事
 - 他の博物館・機関等の主催行事
 - 視察等への対応
 - メディアへの対応
- 【情報整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他の博物館・機関等の活動
- 【資料整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他の博物館・機関等の活動
- 【展示活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他の博物館・機関等の活動

【企画調整活動】

【広報営業活動】

【新琵琶湖博物館創造室活動】

【研究部関連事業】

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

【海外渡航】

【館外の活動】

館長

本年度は博物館館長に就任し、博物館の運営全般についての指示、来訪者対応、メディアを通じての琵琶湖博物館の魅力発信、企業や博物館関係団体との連携活動などを行った。特に、今年は館長1年目として、メディアで取り上げられることも度々あったほか、企業や博物館関係団体の方々の交流を活発に行った。また、琵琶湖博物館と海外の博物館との交流事業の一環として定例化している、「日韓合同セミナー」が今年度は韓国洛東江生物資源館で開催されたことから、生物資源館を訪問し、研究発表や今後の連携の在り方についての協議を行った。

研究面では、代表となっている科学研究費基盤（B）「東アジアの古代湖『琵琶湖』の固有種成立過程の解明のための総合的研究」を中心に、科学研究費補助金（新学術領域研究）「パレオアジア文化史学—アジア新人文化形成プロセスの総合的研究—」（研究代表者：西秋良宏）（2016～2020年度）の研究協力者、さらには国立歴史民俗博物館共同研究「直良コレクションを構成する更新統産動植物化石の分類学的検討と現代的評価」（研究代表者：甲能直樹）の共同研究者として、国内外の5万年以降の動物相の変遷と動植物相、人類活動との関係性について調査を行った。また、中国雲南大学で開催された「日中湖沼シンポジウム」には、オーガナイザーとして参加し、雲南省の湖の汚染の現状なども視察した。

印刷物

【学術論文】

Watanabe, J., Koizumi, A., Nakagawa, R., Takahashi, K., Tanaka, T. and Matsuoka H. (2020) Seabirds (Aves) from the Pleistocene Kazusa and Shimosa groups, central Japan. *Journal of Vertebrate Paleontology*, Society of Vertebrate Paleontology, U.S.A. e1697277-2, DOI: 10.1080/02724634.2019.1697277.

【専門分野の著作】

高橋啓一（2019）中国旧石器時代における人とスイギュウの関係性をさぐる。In: 門脇誠二（編），パレオアジア文化史学 2019年度A02班研究報告, pp.31-35.

【一般向けの著作】

高橋啓一（2019）湖岸より 341 開館3理念をさらに。中日新聞, 中日新聞社, 4月13日.

高橋啓一（2019）ごあいさつ。琵琶湖博物館第27回企画展示解説書「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」: 1.

高橋啓一（2019）—私の京都新聞評— 被害者傷つける取材望まず。京都新聞, 京都新聞社, 12月22日.

高橋啓一（2020）湖岸より 361 恐る恐る自然と向き合う。中日新聞, 中日新聞社, 1月11日.

高橋啓一（2020）—私の京都新聞評— 地方が輝く具体的方法を。京都新聞, 京都新聞社, 1月26日.

高橋啓一（2020）—私の京都新聞評— 少数や反対意見報道を。京都新聞, 京都新聞社, 2月23日.

高橋啓一（2020）—私の京都新聞評— 科学記事朝刊も掲載を。京都新聞, 京都新聞社, 3月22日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

高橋啓一（2019年11月24日）瀬戸内海からの脊椎動物化石と日本の第四紀哺乳動物相。国立歴史民俗博物館共同研究「直良コレクションを構成する更新統産動植物化石の分類学的検討と現代的評価」研究集会（研究代表者：甲能直樹），明石市立文化博物館（兵庫県），[口頭発表]。

平山 廉・高橋啓一・中川良平・河部壮一郎・遠藤秀紀・安藤佑介（2020年2月8日）日本の鮮新統産スッポン科に関する考察，日本古生物学会 第169回例会，東京大学駒場キャンパス（東京都目黒区），[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業（新学術領域研究）「パレオアジア文化史学—アジア新人文化形成プロセスの総合的研究—」（研究代表者：西秋良宏），研究協力者（2016～2020年度）．

国立歴史民俗博物館共同研究「直良コレクションを構成する更新統産動植物化石の分類学的検討と現代的評価」（研究代表者：甲能直樹），共同研究者（2017～2019年度）．

科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖『琵琶湖』の固有種成立過程の解明のための総合的研究」（研究代表者：高橋啓一），研究代表者（2018～2022年度）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

VIIIth International Conference on Mammoth and their Relatives, International Steering Committee, 2020年1月1日～．

地質学雑誌（日本地質学学会），査読，1件．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，11回．

2019年4月20日，ゾウがいた、ワニもいた琵琶湖のほitori，琵琶湖博物館サイエンスセミナー，ここ滋賀（東京都中央区），講演．

2019年7月27日，ナイトミュージアム 高橋館長と行く A 展示ツアー，琵琶湖博物館，解説案内．

2019年10月27日，高橋館長と行く A 展示室見納めツアー，A・B展 クロージングイベント，琵琶湖博物館，講師，2件．

2020年1月25日，新琵琶湖学セミナー「湖の400万年と私たち—かわる大地・気候・生き物—」，琵琶湖博物館，開講挨拶．

他の博物館・機関等主催行事

2019年9月13日，講演「ゾウがいた、ワニもいた琵琶湖のほitori」，立命館大学総合科学技術研究機構 琵琶湖Σ 研究センター第10回シンポジウム，立命館大学びわこ・くさつキャンパス（草津市），講師．

2019年9月26日，講演「地域の博物館をめざして歩む琵琶湖博物館」，三重県私学高校理科職員研修会（三重県私学協会），琵琶湖博物館，講師．

2019年11月2日，講演「忠類に生き、忠類によみがえったナウマンゾウ」，忠類ナウマン象化石骨発見50周年記念事業（幕別町・幕別町教育委員会），忠類ナウマン象記念館（北海道幕別市），講師．

2019年11月6日，京セラ CSR 経済・社会環境報告会（京セラ株），京セラ株滋賀蒲生工場（東近江市），講評．

2019年12月22日，地域連携セミナー（総合地球環境学研究所），琵琶湖博物館，開会挨拶．

2020年1月17日，講演「琵琶湖のおいたちとそこにいた動物たち」，滋賀県レイカディア大学令和元年度前期必修講座，滋賀県レイカディア大学草津校（草津市），講師．

2020年2月20日，講演「琵琶湖のおいたちとそこにいた動物たち」，滋賀県レイカディア大学令和元年度前期必修講座，滋賀県レイカディア大学米原校（米原市），講師．

視察対応

2019年4月12日，挨拶，ブラジル・リオグランデドスル州滋賀友会 会長．

2019年7月27日，挨拶，中国全国人民代表大会環境自然保護委員会 委員長．

2019年8月27日, 挨拶, 中国科学院昆明動物研究所昆明動物博物館 副館長.
2019年10月17日, 挨拶, 中国全国政治協商會議人口資源環境委員会 副主任他.
2019年12月4日, 挨拶, 中国湖南省市長訪問団.
2019年12月12日, 挨拶と館内案内, 中国雲南大学 張虎才教授.
2019年12月22日, 挨拶と館内案内, 北村地方創生担当大臣.

メディアへの協力

2019年6月8日, 毎日新聞, 湖国の人たち, インタビュー, (5月31日取材).
2019年6月12日, 京都新聞, 時のひと, インタビュー, (4月16日取材).
2019年6月28日, 朝日新聞, 360万年前の伊賀化石が魅せる, インタビュー, (6月25日取材).
2019年7月14日・21日, KBS 京都テレビ放送, 比叡の光, 番組出演, (6月11日撮影).
2019年7月21日, 滋賀民報, 湖国の人, インタビュー, (7月10日取材).
2019年10月15日, しごとこ, ネット公開 https://shigatoco.com/toco/biwakofourmillion_02/, インタビュー, (5月16日取材).
2019年12月13日, びわこ放送, 海と日本海プロジェクト関連インタビュー, (11月27日取材).
2020年1月17日, NHK WORLD JAPAN, Think Globally, Act Locally, 日本生物多様性アワード関連インタビュー, (12月7日取材).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 1回 (4日).

【企画調整活動】

琵琶湖博物館 第27回企画展示, オープニング式典挨拶 (2019年7月20日, アトリウム).
琵琶湖博物館 博物館実習修了式, 修了証書授与 (2019年8月30日, 会議室).
琵琶湖博物館 第27回企画展示関連シンポジウム, 開会挨拶 (2019年9月14日, セミナー室).
琵琶湖博物館 来館者1100万人達成記念セレモニー, 挨拶 (2019年9月27日, アトリウム).

【広報営業活動】

琵琶湖の総合保全活動に対する寄贈贈呈式 (伊藤園), 贈呈目録授与 (2019年4月12日, 特別応接室).
伊藤忠商事感謝状贈呈式, 2019年5月14日, 県庁.
感謝状贈呈式, 挨拶・感謝状贈呈, 5件 (7月19日, 9月19日, 9月20日, 1月31日, 3月19日, セミナー室).
企業交流会, 講演「琵琶湖博物館と私、そして皆様と」, 講演 (2019年11月8日, 琵琶湖博物館ホール).
企業訪問, 53件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2019年5月21日～5月24日, 洛東江生物資源館 (韓国), 韓日合同セミナー, 講師.
2019年6月12日～6月17日, 雲南大学 (中国), 日中湖沼シンポジウム, オーガナイザーと科研費研究.

【館外の活動】

西日本自然史系博物館ネットワーク, 標本救済ネットワーク (2012年9月1日～2020年2月9日).
名古屋大学博物館, 研究協力員 (2017年4月1日～).
琵琶湖環境研究推進機構, 研究推進顧問 (2019年4月1日～).

日本博物館協会，参与（2019年4月1日～）。

海と日本プロジェクト in 滋賀実行委員会，委員長（2019年4月1日～）。

雲南大学，客員教授（2019年6月13日～）。

国際湖沼環境委員会，理事（2019年7月1日～）。

第67回全国博物館大会，決議起草委員（2019年9月5日）。

研究テーマは、「新生代の大型植物化石の研究」とし、植物化石の分類学的な視点で化石植物群の組成解析による古植生の復元、古植物相の変遷、古環境を明らかにすることを目的にしている。

今年度は、これまでの古琵琶湖層群の植物化石を研究してきた成果を、第3期展示リニューアル (A 展示室) の実施設計に反映させ、展示による研究成果を公表する作業を進めた。共同研究「古琵琶湖誕生期における化石林に基づく水辺植生と古環境の解明」では、約 410 万年前の水辺の森林植生の復元を検討するため、これまで行ってきた野外調査のデータを確認し、試料処理を進めて化石の同定作業を行った。これまでに約 2.6Ma, 1.8Ma, 0.8Ma の古植生復元に加え、古琵琶湖誕生期の水辺古植生を明らかにすることで、鮮新-更新世の水辺植生とその環境の変遷を捉えることになる。

また、科学研究費補助金 (基盤 B) 「東アジアの古代湖『琵琶湖』の固有種成立過程の解明のための総合的研究」 (研究代表者: 高橋啓一) において、植物化石による研究史をまとめている。専門研究「古琵琶湖層群産クルミ属堅果類化石の形態からみた種の再検討について」では、高島市長尾の安曇川の河床に分布する堅田層相当層から得られたクルミ属堅果化石のほか、化石種オオバタグルミの産出層準の確認などを行い、データを整理した。

その他、多賀町立博物館による古代ゾウ発掘プロジェクトによる約 180 万年前の古植生・古環境の検討を行うため、琵琶湖博物館はしかげグループ「古琵琶湖発掘調査隊」とともに植物化石資料の同定や整理を進め、日本植生史学会で発表を行った。さらに、現生種の DNA 分析によるヒシ属の系統進化の研究を行っている研究者と情報交換を行い、古琵琶湖層群産の化石ヒシ果実から見た変遷の検討を行なった。

印刷物

【一般向けの著作】

山川千代美 (2019) 湖岸より 350 氷期から続く山門湿原. *中日新聞*, 中日新聞社, 8月10日.

山川千代美 (2020) 湖岸より 367 琵琶湖を取り巻く森のものがたり. *中日新聞*, 中日新聞社, 3月28日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

山川千代美・神谷悦子・多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト (2019年12月7日) 滋賀県犬上郡多賀町四手における古琵琶湖層群産植物化石に基づく古植生の復元. 第34回日本植生史学会大会, 豊橋市立自然史博物館 (愛知県), [口頭発表].

山川千代美・ジョン ウキョン・小林真生子・松本みどり (2019年10月18日) 三重県伊賀市市部の木津川河床の化石林. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「古琵琶湖層群産クルミ属堅果類化石の形態からみた種の再検討について」, (2019年度).

琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖誕生期における化石林に基づく水辺植生と古環境の解明」 (研究代表者: 山川千代美), 研究代表者 (2017~2019年度).

科学研究費助成事業 (基盤 B) 「東アジアの古代湖『琵琶湖』の固有種成立過程の解明のための総合的研究」 (研究代表者: 高橋啓一), 研究分担者 (2018~2022年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本植生史学会, 会計幹事, 2018年度~.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，8件。

はしかけグループ「古琵琶湖発掘調査隊」，担当。

2019年8月25日，博物館の設立と理念，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等の主催行事

2019年4月21日～4月30日，古代ゾウ発掘プロジェクト第7次発掘，多賀町立博物館（滋賀県犬上郡），専門班（大型植物化石担当）。

視察等への対応

2019年10月31日，館内案内，豊田市役所都市整備部公共建築課。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

古琵琶湖層群産化石標本，受け入れ対応・標本整備推進。

他の博物館等の活動

多賀町立博物館 古代ゾウ発掘プロジェクト第7次発掘，資料整理・化石同定。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，1回（4日）。

【企画調整活動】

マネジメント会議，構成員。

琵琶湖博物館協議会，出席。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第3期リニューアル A 展示室「変わる気候と森林」，担当。

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員（川那部浩哉・用田政晴），受入担当。

研究部代表者会議，構成員。

地学研究発表会，開催，2020年2月16日，滋賀大学サテライト（大津市）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

中日新聞掲載記事，添削。

衛生委員。

【館外の活動】

全国植樹祭，式典専門委員（2019年3月～）.

守山市埋蔵文化財，審議員（2019年4月～）.

西日本自然史系博物館ネットワーク，理事（2020年2月～）.

西日本自然史系博物館ネットワーク 標本救済ネット，ケースワーカー（2020年2月～）.

2019年度は、新たな研究プロジェクトの開始、国際会議を契機とした国内外の博物館との交流の深化、そして研究部長就任による様々な館内業務など、多くの新たな活動が始まる年だった。

研究においては、総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」を立ち上げ、共同研究者との研究会を2回行い、情報交換と今後の進め方の議論を行った。それに関連した研究成果の発信として、山階鳥類学雑誌と近畿大学民俗学研究所発行の「民俗文化」に共同研究論文が掲載された。また、共同研究者が企画した環境社会学会第59回セミナー企画セッション「野生動物と人の森林環境史—森林を衰退させる鳥・カワウと人はいかに関わってきたか—」で口頭発表を行い、今後のまとめに役立つ議論を行うことができた。館外の研究では、委員を務める岐阜市長良川鶺鴒習俗総合調査専門委員会および関市小瀬鶺鴒習俗総合調査委員会専門部会が行う「全国鶺鴒習俗基礎調査」に参加し、鳥の視点からの鶺鴒の鶺と人との関わりについての調査を開始した。

一方、他の博物館との連携や国際交流の一環として、京都で開催されたICOM (国際博物館会議) 京都大会2019に参加し、国際委員会の一つであるNATHIST (自然史の博物館・コレクション国際委員会) のセッションにおいて、C展示室担当コーナーのリニューアル後の展示について発表を行った。ICOM-NATHISTにおいては、現地委員会の一員として琵琶湖の自然と文化を巡るエクスカーションを担当し、運営の一部を担った。また、ICOMの関連行事として開催された企画展「JAPAN COLOR Where culture meets nature～日本文化を育んだ自然～」の開催に、自然史レガシー継承・発信実行委員会の委員として参加・協力を行った。これらの機会を通して、国内外の博物館関係者との交流が一気に深まった。

館内の業務としては、2019年度に研究部長に就任したことから、博物館全体の研究活動の総括や推進、審査会の対応、予算の検討などの新たな業務に取り組むこととなった。またあわせて、上席総括学芸員という立場で博物館全体の運営や広報営業、企業連携などの検討や対応の業務にも関わることとなった。次年度に策定を予定している博物館の次期中長期計画の検討にも加わった。

館外の活動としては、引き続き、県内や関西地域、さらには全国的なカワウの管理に関わる計画や対策の検討および研修、そして具体的な現場の対応への協力と助言を行った。

印刷物

【学術論文】

藤井弘章・亀田佳代子・牧野厚史・前迫ゆり (2019) 琵琶湖地域におけるサギ類・カワウをめぐる民俗—江戸時代から現代までの鳥類利用の文化—。山階鳥類学雑誌, 51 : 1-28.

【一般向けの著作】

亀田佳代子 (2019) 野鳥トピックス キジバトはなぜ2個しか卵を産まないのか?。おおりり (日本野鳥の会栃木県支部), 260 : 10.

亀田佳代子 (2019) 湖岸より 360 専門超えた研究交流の醍醐味。中日新聞, 中日新聞社, 12月14日.

【これまでの業績目録に掲載されていない著作】

【専門分野の著作】

藤井弘章・亀田佳代子・牧野厚史・前迫ゆり (2018) 竹生島における山林資源の利用と保全—社寺林の歴史民俗学的考察—。民俗文化, 30 : 33-71.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 亀田佳代子（2019年4月19日）カワウと森と人の150年史ー竹生島の森林保全の視点からー。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].
- 亀田佳代子（2019年6月9日）森林へのカワウの影響とカワウにとっての森林。環境社会学会第59回セミナー企画セッション「野生動物と人の森林環境史ー森林を衰退させる鳥・カワウと人はいかに関わってきたかー」，明治学院大学（東京都港区），[口頭発表].
- Kameda, K. O. (2019年9月3日) Exhibition for Understanding the Historical and Cultural Relationships and Current Situation of Native Wildlife and People in Japan: Challenge in the Renewal of the Permanent Exhibition of Lake Biwa Museum. ICOM-NATHIST 2019 Annual Conference, ICOM-NATHIST, 京都学・歴彩館（京都市），[口頭発表].
- 亀田佳代子（2020年2月13日）ICOM 京都大会 2019 NATHIST（自然史の博物館・コレクション国際委員会）参加報告。令和元年度第2回全国科学博物館協議会総会，オーテピア・高知みらい科学館（高知市），[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」（研究代表者：亀田佳代子），研究代表者（2019年度～2023年度）.
- 琵琶湖博物館専門研究「ウ類と人との軋轢と軽減に関する国際比較：カナダの事例に関する情報収集」（2019年度）.
- 岐阜市長良川鵜飼習俗総合調査委員会・関市小瀬鵜飼習俗総合調査委員会「全国鵜飼習俗基礎調査」（事務局：岐阜市教育委員会・関市協働推進部），調査者（2019年度～2024年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本鳥学会，評議員，2006年1月～2021年12月.
- 日本鳥学会，和文誌編集委員，2014年1月～2021年12月.
- 日本鳥学会，基金運営委員，2016年1月～2019年12月.
- 日本鳥学会員近畿地区懇談会，世話人，2000年1月～.
- 日本生態学会，近畿地区会自然保護専門委員，2008年1月～2020年12月.
- 生き物文化誌学会，BIOSTORY，査読，1件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2019年7月29日，滋賀県立守山中学校3年生総合的な学習の時間「日本と私」，琵琶湖の水鳥と人間生活との関係についての取材対応，琵琶湖博物館，質問対応.
- 2019年10月16日，滋賀県立虎姫高校 令和元年度SSH講演会～自然科学から学ぶ～，カワウが教えてくれること～鳥を通して自然と人とのかかわりを考える～，滋賀県立虎姫高校（長浜市），講師.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク，11件.
- 質問対応，琵琶湖博物館，4件.
- 2019年8月26日，研究部概要説明，博物館実習，琵琶湖博物館，講師.

2020年1月11日、水鳥を観察しよう！、わくわく探検隊、琵琶湖博物館、講師。

他の博物館・機関等主催行事

2019年6月16日、講演「琵琶湖でのカワウと人との歴史的関わり」、日本野鳥の会滋賀交流行事、琵琶湖博物館、講師。

2020年1月25日、講義「烏丸半島周辺で見られる冬の水鳥」、水鳥観察会（愛荘町教育委員会事務局生涯学習課）、琵琶湖博物館、講師。

2020年2月24日、【1部】＜レガシー事業とICOM報告会＞、自然史レガシー継承・発信実行委員会、公開シンポジウム「Where Culture Meets Nature ～日本文化を育んだ自然をいかに魅せるか～」、京都国立博物館 平成知新館ホール（京都市）、司会。

視察対応

2019年7月2日、展示室見学案内、メキシコ行政関係者。

2019年6月21日、カワウの生態及び環境保全に係る展示の紹介、かが市民環境会議。

2019年12月22日、ご挨拶、地方創生担当大臣視察。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

動物標本の整備および収蔵庫の維持管理に関すること、副担当。

鳥類資料の受入、10件。

鳥類資料の製作、19件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講義、1回（4日）。

展示交流員博物館実習、研究棟案内（2020年3月10日～12日）、琵琶湖博物館、講師。

他博物館・機関の活動

自然史レガシー継承・発信実行委員会、企画展「JAPAN COLOR」Where culture meets nature～日本文化を育んだ自然～（2019年8月30日～9月16日）、展示協力。

岐阜市長良川鵜飼伝承館、第32回特別展示「夏休み企画 What's ukai 鵜飼ってなんだろう？」（2019年7月3日～9月9日）、鳥類映像資料特別観覧対応。

【企画調整活動】

ICOMに関すること、副担当。

新任職員研修、研究部概要説明（2019年4月11日）、講師。

新任職員研修、C展示室概要説明（2019年4月11日）、講師。

新任職員研修、C展示室生きものコレクション鳥類コーナー概要説明（2019年4月18日）、講師。

ICOM 京都大会 2019NATHIST エクスカーション（2019年9月6日）、「琵琶湖の自然と文化をめぐる旅」、ICOM-NATHIST（国際博物館会議 自然史の博物館・コレクション国際委員会）、針江生水の郷、竹生島、琵琶湖博物館（高島市、長浜市、草津市）、運営。

【広報営業活動】

企業訪問、外部資金の調達に関すること、副担当。

シンコーメタリコン感謝状贈呈式、展示案内（2019年9月19日）。

企業交流会、展示案内（2019年11月8日）。

企業感謝状贈呈式、展示案内（2020年1月31日）。

【研究部関連事業】

生態系研究領域の研究推進に関すること，主担当.

研究推進・運営の総括に関すること，主担当.

研究交流の総括に関すること，主担当.

滋賀県試験研究機関連絡会議，幹事.

琵琶湖環境研究推進機構，幹事.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2019年7月30日，女性のためのステップアップセミナー，受講.

【館外の活動】

京都大学生態学研究センター，協力研究員（1997年4月1日～2022年3月31日）.

滋賀県生きもの総合調査委員会鳥類部会，専門委員（2006年8月1日～2021年3月31日）.

滋賀県野生動植物との共生に関する検討会，外来種問題検討委員（2003年5月1日～2020年3月31日）.

農林水産省滋賀森林管理署伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ，委員（2006年7月12日～2022年3月31日）.

滋賀県カワウ総合対策協議会，委員（2010年7月21日～2020年3月31日）.

関西地域カワウ広域保護管理計画の推進に関する検討委員会，委員（2014年1月6日～2020年3月31日）.

関西広域環境保全計画に関する有識者会議，委員（2014年8月18日～2020年3月31日）.

環境省特定鳥獣（鳥類）に係る保護管理検討調査業務に関する検討会，検討委員（2015年9月1日～2020年3月27日）.

岐阜市長良川鵜飼習俗総合調査専門委員会，委員（2016年2月1日～2021年3月31日）.

関市小瀬鵜飼習俗総合調査委員会専門部会，委員（2016年2月1日～2021年3月31日）.

兵庫県コウノトリ野生化対策懇話会，構成員（2016年8月1日～2020年7月31日）.

琵琶湖竹生島タブノキ林の保全・再生事業計画検討会，検討委員（2016年10月18日～2020年3月31日）.

WI-IUCN SSC Cormorant Specialist Group, Commission Member 2017-2020（2017年5月17日～2020年12月31日）.

自然史レガシー継承・発信実行委員会，実行委員（2019年5月21日～2020年3月31日）.

関西広域連合令和元年度カワウ対策推進事業，講師（2019年8月21日，2020年2月6日）.

奥伊吹観光株式会社より三島池鳥獣保護区への建設相談，助言（2020年3月10日）.

地層から過去の地層ができる環境解析を行うことや、地層中の火山灰層から、地層の年代決定や、過去の火山活動の検討を行うことを中心に研究を行っており、これらの研究は、現在の琵琶湖がどのようにできてきたのか？を知る研究に結びついている。

今年度は、古琵琶湖から琵琶湖にかけての周辺地域を含めた水系変化についての検討を行い、現在進行しているA展示室リニューアルの情報へ活かした。この研究内容は、科学研究費基盤研究B（代表者：高橋啓一）における研究の一部として実施している。現在の琵琶湖の堆積物研究は、南湖湖底堆積物を使った過去の環境変動、特に植生生産量変化の研究を前年度から実施しており、その堆積速度変化についての議論を日本第四紀学会で発表した。

琵琶湖地域の研究の他、数年前から関わっている IODP による日本列島周辺の海底コア解析については、日本海コアの研究が、共同研究者によって論文が投稿された。また、地質時代の新生代第四紀更新世前期・中期境界の模式地提案についての研究チーム員としての活動は、模式地提案が IUGS によって採択され、地質時代の GSSP として日本で初めての採択となった。これまで新生代第四紀中期更新世と呼ばれていた時代は、チバニアン期と呼ばれることとなった。

第三期リニューアルが今年度から開始され、対象となる常設展示室のうち、A展示室の担当としてリニューアルの検討を行った。リニューアルに伴うA展示室の工事の前に、地域の人びとがフィールドのおもしろさを紹介する「地域の人びとによる展示コーナー」をこれまでよりも大規模に行う（コレクションギャラリーの展示ケース全部を使った）期間限定の展示を行った。その他、地域の方々と実施する地学研究発表会の運営などを、地学関係学芸職員と行った。

印刷物

【一般向けの著作】

- 里口保文 (2019) びわ博 こだわり展示の裏話 49 琵琶湖の生い立ちを紹介. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 10月1日.
里口保文 (2019) びわ博 こだわり展示の裏話 50 鉱物や化石を楽しむ地域の人々. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 10月22日.
里口保文 (2020) 湖岸より 364 移り変わる大地. *中日新聞*, 中日新聞社, 2月15日.
里口保文 (2020) びわ博 こだわり展示の裏話 56 堅田丘陵もチバニアン. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 3月3日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 里口保文 (2019年7月19日) 琵琶湖南湖堆積物の堆積相と堆積速度. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
里口保文・加三千宣・林 竜馬・芳賀裕樹 (2019年8月24日) 琵琶湖南湖の堆積速度. 第四紀学会2019年大会, 千葉科学大学(千葉県銚子市), [口頭発表].
里口保文・中里裕臣・竹下欣宏 (2019年9月25日) 上総層群国本層におけるテフラ層の層相と粒子方向性からみた堆積環境. 日本地質学会第126年学術大会, 山口大学(山口市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「虫生野火山灰層堆積期の古水系解析」, (2019年度).
琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖誕生期における化石林に基づく水辺植生と古環境の解明」(研究代表者：山川千代美), 研究分担者 (2017年度～2019年度).

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖南湖堆積物からみた過去2000年間の古植生解析」（研究代表者：里口保文），研究代表者（2018年度～2020年度）。

科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖『琵琶湖』の固有種成立過程の解明のための総合的研究」（研究代表者：高橋啓一），研究分担者（2018～2022年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本第四紀学会，領域3領域長。

日本第四紀学会，評議員。

日本第四紀学会，編集委員。

日本地質学会，代議員（地方区）。

日本地質学会，近畿支部幹事長。

日本地質学会，地質学雑誌，査読，1件。

東京地学協会，地学雑誌，査読，1件。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年度前半期集中講義，滋賀県立大学学部学生，「環境地球科学 II」。

2019年度，滋賀県立大学4年生1名，卒業論文指導。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，10件。

はしかけグループ「大津の岩石調査隊」，12回開催。

2020年2月22日，湖を動かした大地のうつり変わりー湖がのこした痕跡を追うー，新琵琶湖学セミナー，琵琶湖博物館，講演。

他の博物館・機関等主催行事

2019年5月15日，講演「琵琶湖のなりたち」，講演会（滋賀県立視覚障害者センター・滋賀県視覚障害者福祉協会女性部），滋賀県立視覚障害者センター（彦根市），講師。

2019年6月15日，講演「粘土をみる」，弥生土器づくり（守山市教育委員会事務局文化財保護課），下之郷史跡公園（守山市），講演。

2019年7月4日，講演「琵琶湖はいつできた？」，わが町再発見（近江歴史回廊倶楽部），琵琶湖博物館，講演。

2019年10月23日，講演「足下に記録された環境変化ー地層から考える過去から未来への環境ー」，図書館サークルまつり（和邇図書館サークル連絡会），和邇図書館（大津市），講師。

2019年10月26日，講演「琵琶湖のおいたち」，市民大学講座（近江八幡市教育委員会），近江八幡市総合福祉センター（近江八幡市），講師。

2019年11月2日，講演「日野町にもあった古琵琶湖～足下から探る土地の歴史～」，ふれあい講演会（西大路地区人権啓発推進協議会），日野町西大路公民館（日野町），講師。

2019年11月4日，講義「500万年前から現在への環境変化」，研修会（塚市地学教育研究会），琵琶湖博物館，講師。

2019年12月6日，講演「琵琶湖のなりたち」，講座（甲賀市視覚障害者福祉協会），甲賀市まちづくり活動センター（甲賀市），講師。

メディアへの協力

2019年，しがトコ，しがトコ（インターネットページ），解説，（5月16日取材）。

2019年9月19日, びわ湖放送, ニュース, 取材対応, (9月14日取材).

2019年10月中旬, FM彦根, 取材対応, (10月3日取材).

2020年2月29日, NHK, ブラタモリ, 地形の成り立ち解説・出演, (2019年～2020年取材・相談).

2020年3月7日, NHK, ブラタモリ, 地形・地質解説, (2019年～2020年取材・相談).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

寄贈資料受入, 担当, 7件.

資料特別観覧, 担当, 1件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

A展示室・地域の人々による展示コーナー, 展示受入, 1件 (湖国もぐらの会と共同).

A展示室・地域の人々による展示コーナー 拡大展示, 展示受入, 1件 (湖国もぐらの会と共同).

モーニングレクチャー, 講義, 1回 (3日).

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第3期リニューアル A展示室, 主担当.

「湖と人間」との関係性総体の歴史を琵琶湖地域に即して諸学統合的に把握するために、地球環境史や一国環境史に対置する「地域環境史」という枠組みを提起し（橋本道範 2016）、17 世紀に地域の基礎単位として確立した「ムラ」（現在の大字）をめぐる二つの仮説、①非力のムラ論（橋本道範 2004 のち 2015 に収録）と②生業の稠密化論（橋本道範 2015）、そして、消費の場における嗜好の変化などの解明から逆照射して生業の変化、環境利用の変質を究明する③環境史的消費論（橋本道範 印刷中）、魚類等の「コード化された自然」の脱コード化から生業や消費の変化を解明しようとする④第三の自然観論（橋本道範未発表）の都合 4 つの仮説からその具体化を目指している。今年度は投稿論文「消費論からみた中世菅浦」の執筆に取り組み、また、終了した総合研究の成果報告書の作成にあたった。さらに、江戸時代のフナズシの「再現実験」にも取り組んでいる。

I、科学研究費補助金基盤研究（A）「菅浦文書」の総合調査及び村落の持続と変容の通時代的研究」（研究代表者青柳周一氏、2016 年度～2021 年度）において、菅浦文書の再翻刻に向けて作業を分担するとともに、2018 年 11 月 25 日に第 116 回史学会大会において報告した「消費論からみた中世菅浦」を『史学雑誌』に投稿し、受理された。

これは、環境史的消費論を構築するために、近江国菅浦の産物の消費実態の考察から生業の構造を解明しようとしたもので、菅浦からの供御のうちコイが 15 世紀には代銭納化していたのに対し、ビワは禁裏に献上され、都市領主社会内部で分配されていたこと、地域内での贈答でも菅浦から贈答されるのはビワとコウジで、反対に菅浦へと贈答されるもののなかに琵琶湖産淡水魚のフナ・ウグイ・塩鮎がみえることから、15 世紀の菅浦の生業の重心は、内水面ではなく、「集落とその背後などの陽当たりのよい傾斜地」に置かれていた可能性が高いと考えた。

II、終了した総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」（研究代表者 橋本道範、2014 年度～2018 年度）及び科学研究費補助金基盤研究（B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」（研究代表者 橋本道範、2015 年度～2018 年度）において、報告書の「はじめに」と「おわりに—琵琶湖地域環境史序説—」を執筆した。

これは、アメリカ環境史やドイツ環境史などに比肩するような日本環境史を構築しようとする試みの一環で、特に日本環境史が決定的に遅れている「自然観 views of nature」という問題を軸に地域環境史を構想してみようとするものである。その際、自然観については鈴木貞美の定義を採用し（鈴木貞美 2018）、「科学史的な自然観論」や「人文系の自然観論」ではない、第三の自然観論を目指した。その結果、「地震と地震観」、「植生と用材観」、「魚類相と魚類観」の分析から、一つの自然に一つの自然観が持続して存在しているといった事実はなく、いくつもの自然観が常に併存しており、そのなかから都合よく選択されていたことが明らかとなった。また、「ムラ」の自立のために、適的な自然観がやはり選択的に導入されていたことも解明できた。つまり、「自然を伴侶とし、自然の中に没入し、自然とひとつになろうとする日本人の伝統的な自然観」（渡辺正雄 1976）といったものは存在しない。このことは、地域の創造のために伝統にとらわれず新しい自然観を創造することをためらう必要は全くないことを示していると考えた。

III、共同研究「フナズシの歴史的展開についての研究—古フナズシ」の復元実験—」（研究代表者 橋本道範、2019 年度～2021 年度）において、江戸時代の料理書『合類日用料理抄』に記載された製法の実験を行っている。

これは、環境史的消費論構築の一環として、「科学的に検証しながら過去の料理・加工法の再現を試みることによって、料理・加工法の歴史的実態とその特質、そして変遷を理解しようとする作業」と定義した「再現実験」という手法で、17 世紀におけるフナズシの技術的飛躍の歴史的意義を解明しようとするものである。

その他事業については下記に示すが、特筆すべき点として野洲市歴史民俗博物館との共催展「人と魚の歴史学」（10 月 5 日～11 月 24 日）を開催したことを挙げたい。

印刷物

【一般向けの著作】

橋本道範 (2019) 湖岸より 357 これで見納めA・B展示. *中日新聞*, 中日新聞社, 11月9日.

橋本道範 (2019) びわ博 こだわり展示の裏話 51 普段は見られない史料紹介 収蔵庫 のぞいてみよう. *毎日新聞*. 毎日新聞社, 11月19日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

橋本道範 (2019年6月21日) 中世菅浦のビワ—環境史的消費論の構築に向けて—. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

橋本道範 (2019年10月12日) フナズシ研究最前線—環境史的消費論に向けて—. カントリーサイド生業史研究会第1回フォーラム「水辺と魚の環境史」, 大阪市立大学 (大阪市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

三菱財団 人文科学研究助成「日本中世淡水魚消費の研究」(研究代表者: 橋本道範), 研究代表者 (2019年10月～2021年9月).

琵琶湖博物館専門研究「地域環境史の理論的構築」, (2019年度).

琵琶湖博物館共同研究「フナズシの歴史的展開についての研究—「古フナズシ」の復元実験—」(研究代表者: 橋本道範), 研究代表者 (2019年度～2021年度).

科学研究費助成事業 (基盤 A) 「「菅浦文書」の総合調査及び村落の持続と変容の通時代的研究」(研究代表者: 青柳周一), 研究分担者 (2016年度～2021年度).

京都大学人文科学研究所研究班「生と創造の探究—環世界の人文学」(班長: 岩城卓二), 班員 (2017年度～2019年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年度春学期, 佛教大学, 「前近代の世界H」.

2020年1月9日, 滋賀県立大学, 講義「博物館資料保存論」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2019年10月19日, なれずしの中から飛躍したふなずし, 「人と魚の歴史学」記念講演会 (野洲市歴史民俗博物館 主催・琵琶湖博物館共催), 野洲市歴史民俗博物館 (野洲市), 講師.

2019年11月4日, ○○をさがせ! 絵解きで見る瀬田の唐橋, A・B展 クロージングイベント, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

他の博物館・機関等主催行事

2019年5月18日, 講演「フナズシにみる琵琶湖地域固有の文化と生態系」, 琵琶湖・淀川流域圏シンポジウム in 大阪—治水・環境・文化について考えよう— (琵琶湖・淀川流域圏シンポジウム実行委員会), 大阪工業大学梅田キャンパス (大阪市北区), 講師.

- 2019年7月24日，講演「わかってきたフナズシの歴史」，近江八幡市教育委員会，近江八幡市総合福祉センター（ひまわり館）（近江八幡市），講師。
- 2019年8月17日，講演「賀茂社と琵琶湖」，上賀茂神社歴史講座第二回（賀茂別雷神社），上賀茂神社（京都市北区），講師。
- 2019年11月12日，講演「わかってきたフナズシの歴史」，研究会（滋賀県高等学校社会科教育研究会），琵琶湖博物館，講師。
- 2020年3月27日，講演「変わり続けるフナズシ」，第2回フナズシサミット2020（フナズシサミット実行委員会），湖舟（大津市），講師。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

歴史資料整備，収蔵庫維持管理，担当。

歴史資料貸し出し，1件。

歴史資料特別観覧対応，4件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

トピック展示「第82回収蔵庫をのぞいてみよう！「湖を渡る神輿一日吉山王祭」」（2019年5月14日～6月16日），補助。

トピック展示「第83回収蔵庫をのぞいてみよう！「屏風を読む－江戸時代の地理空間情報」」（2019年6月18日～7月7日），補助。

トピック展示「第84回収蔵庫をのぞいてみよう！「縁起の世界－石山寺縁起絵巻をよむ」」（2019年7月9日～9月8日），補助。

トピック展示「第85回収蔵庫をのぞいてみよう！「江戸時代の風景－琵琶湖真景図をよむ」」（2019年9月14日～10月20日），補助。

トピック展示「第86回収蔵庫をのぞいてみよう！「収蔵庫をのぞいてみよう！ザ・ファイナル」」（2019年10月22日～11月24日），担当。

野洲市歴史民俗博物館共催展「人と魚の歴史学」（2019年10月5日～11月24日・会場：野洲市歴史民俗博物館），琵琶湖博物館側担当。

【企画調整活動】

新任職員研修，B展示室について（2019年4月11日），講師。

博物館実習，受け入れ担当（2019年8月26日～30日）。

【新琵琶湖博物館創造活動】

第3期リニューアル B 展示室，副担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

神奈川大学日本常民文化研究所，客員研究員。

研究活動としては、愛知川の総合土砂管理をテーマとして研究を行っている。河川上流にあるダムや堰などの河川横断構造物に土砂が堆積することにより、その下流への土砂供給が量的・質的に阻害される。細粒土砂の供給が阻害されると、河床構成材料のうち細粒分が流水によって流出し、その結果として河床が粗い礫のみから構成される層で覆われ粗粒化した状態（アーモコート化）が全国的に見られる。当県においても例外ではなく、愛知川において河床粗粒化が見られる区間がある。河床の粗粒化が起こると砂州・濬筋の固定化等が進み、砂州の樹林化や濬筋の深掘れが生じ、更なる砂州・濬筋の固定化が起こることとなる。これらは、河床低下による護岸の根入れ不足や河積阻害などを招くこととなるため、治水上の問題につながる事となる。愛知川中流域において、総合的な土砂管理を考慮した維持管理対策の既往の検討結果では、自然の営力によって河床下層の堆積土砂を下流に流下させ、下流に細粒土砂を供給し適切な粒度分布とするためのアーモコート破壊が提案されている。この手法の効果を検証するため、河床の表層と下層を混合する河床耕耘（うん）の試験施工を行い、その効果の把握のためのモニタリング調査を実施した。事業地において当施工により河床が混合され細粒化し、その後の出水により細粒土砂が流出し河床粗粒化が見られたとともに、事業地の上流側砂州の一部において細粒土砂が流出し、一部において河床の攪乱が確認された。また、施工後に河床流水部において生物の生息環境の改善が見られ、河床耕耘が寄与した可能性があることが示唆された。河床耕耘は、出水という自然の営力を活用した手法であるため、その事業効果の発現は出水状況に左右される。今後の出水状況を注視しつつ、モニタリング調査を継続し、当手法の効果を検証する予定である。この試験的な取組は、愛知川における総合的な土砂管理に係る課題の1つであり、中流域の河床細粒分不足に対する維持管理手法についてのものであるが、愛知川上下流域においても土砂管理に関する諸課題があり、長期的な課題として検討を進めていきたい。

事業活動では、常設展示維持管理業務委託を監督し、展示造形物の補修等を随時行った。また、屋外展示維持管理業務委託を監督し、樹木剪定と除草等を行ったほか、園路橋改修業務を監督し、園路橋の改修および園路の補修・整備を行った。園路橋改修業務は、9月補正予算を受けての対応であり、限られた期間での業務内容の調整、発注作業であった。また、園路橋は新設でなく改修であったため、これに伴う施工の時期、内容、計画において工夫・調整を行い、期日内に無事に完了することができた。

印刷物

【専門分野の著作】

山中大輔・水野敏明（2019）愛知川における河床耕耘試験施工結果について（中間報告）. 令和元年度（第41回）滋賀県土木技術研究発表会論文集, pp. 1-6.

【一般向けの著作】

山中大輔（2019）空中遊歩道『樹冠トレイル』から琵琶湖を展望しよう！. かわの情報誌“さらさ”（国土交通省近畿地方整備局）, 106 : 11.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

山中大輔・水野敏明（2019年12月20日）愛知川における河床耕耘試験施工結果について（中間報告）. 滋賀県土木技術研究発表会, 滋賀県建設技術センター（草津市）, [口頭発表].

山中大輔（2020年2月21日）愛知川における河床耕耘試験施工結果について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「高頻度高精細な河川環境情報の収集と分析手法の検討」, (2019 年度).

琵琶湖博物館総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 研究協力者 (2019 年度).

琵琶湖環境研究推進機構「在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究 ②流域環境研究「在来魚の保全に向けた水系のつながり再生に関する研究」(研究代表者: 水野敏明), 研究分担者 (2017 年度~2019 年度).

東京大学空間情報科学研究センターにおける研究用空間データ基盤の利用を伴う共同研究「高頻度・高精細地形情報を用いた河床における地形変化解析方法および地域住民への空間情報発信方法についての研究」(研究代表者: 早川裕式), 共同研究員 (2018 年度~2019 年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 11 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示維持管理, 主担当.

常設展示維持管理委託, 主担当.

屋外展示維持管理委託, 主担当.

園路橋改修業務委託, 主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2019 年度, 滋賀県土木交通部流域政策局 河川・港湾室河川環境係, 主査を兼務.

科研研究分担である新学術領域研究(研究領域提案型)「物質文化の変遷と社会の複雑化」では、水田稲作にかかわる資源利用の複雑化と伝統的生業の復興による地域社会の活性化の側面から聞き取りと資料収集を進めた。2019年はこれらの資料と現地調査をもとに琵琶湖地域と江南地域を比較考察し、出版計画の『河姆渡と良渚 稲作文明の起源』(仮)(雄山閣出版)の一部執筆を行った。また、専門研究では琵琶湖湖西地域における地域再生研究を行うため、フィールドで継続かつ定点調査を進め、地域の人々と共に議論や意見交換などを行うことに重点を置いた。

事業活動においては、事業部交流係で交流事業である観察会・見学会・講座等のイベント、質問コーナー、一般質問クエリ、フィールドレポーター等の全体業務を担当したとともに、地域とつなぐ博物館活動へ支援のため、琵琶湖博物館への視察に対する館内案内のほか、はしかけ「水と暮らし研究会」活動やフィールド調査他、大学講義においても博物館交流活動を盛り込んで実施した。

印刷物

【専門分野の著作】

楊 平 (2019) 中国黒竜江省ハルビン市周辺のマンモス動物群を訪ねてー中国東北地域の後期更新世哺乳動物群から日本のマンモス動物群を考えるー. *化石研究会会誌*, 51 : 43-52.

【一般向けの著作】

楊 平 (2019) 湖岸より 351 水遊びから学ぶ多彩な知恵. *中日新聞*, 中日新聞社, 8月17日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

久保田慎二・小柳美樹・榎林啓介・楊 平ほか (2019年5月19日) 長江下流域における物質文化の変遷と社会の複雑化(新学術領域研究「稲作と中国文明」). 第85回日本考古学協会大会, 駒澤大学(東京都), [口頭発表].

楊 平 (2019年6月15日) Lake Biwa and environmental policy. Sino-Japan joint workshop on plateau lakes' eutrophication and ecosystem restoration, 雲南大学(雲南省昆明市), [口頭発表].

楊 平 (2019年11月15日) 水辺と暮らしーコミュニティの力. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「自然資源の利用と管理」, (2019年度).

科学研究費助成事業(新学術領域研究(研究領域提案型))「物質文化の変遷と社会の複雑化」(研究代表者: 中村真一), 研究分担者(2017年度~2019年度).

【大学・学校の講義・実習・学生・生徒の指導など】

2019年度前期, 天理大学文学部, 「博物館教育論」.

2019年度後期, 龍谷大学社会学部, 「びわ湖・滋賀学」.

2019年度, 大阪産業大学人間環境学部, 「特別講義A」.

修士論文・卒業論文作成に関する問い合わせ対応, 2件.

2019年12月7日, 追手門学院大学社会学部, 「基礎演習」フィールドスタディ (前半).
2019年12月15日, 追手門学院大学社会学部, 「基礎演習」フィールドスタディ (後半).
2019年12月19日, 滋賀県立大学キャリア形成「博物館実習」, アドバイス.

博物館事業に関する業績

【交流サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 10件.
交流イベント・クエリ・フィールドレポーター・質問コーナー, 担当.
はしかけグループ「水と暮らし研究会」, 運営.
インターネットを通じた質問への対応, 2件.
2019年5月26日, はしかけ登録講座, 対応.
2019年8月3日, わくわくお宝さがし (展示室探検), 琵琶湖博物館イベント, 担当.
2019年8月5日, フィールドレポーター調査対応.
2019年8月25日, わくわくお宝さがし (展示室探検), 琵琶湖博物館イベント, 担当.
2019年10月20日, びわ博フェス2019, 展示室対応.
2019年10月24日, 展示室クローズイベント対応.
2019年11月14日, はしかけ調査対応.
フィールドレポーター定例会, 対応 (11月16日・12月21日・2020年1月18日・2月1日・2月15日), 5件.
2019年12月22日, しめ縄づくり, 琵琶湖博物館イベント・田んぼ体験, 生活実践工房, 対応.
2020年2月9日, わら細工, 琵琶湖博物館イベント・田んぼ体験, 生活実践工房, 記録撮影.
2020年2月12日, はしかけ「水とくらしの研究会」活動の対応.

他の博物館・機関等の主催行事

2019年8月29日・10月2日・10月24日・2020年2月28日, 近江八幡市環境審議会部会, 対応, 4件.

視察等への対応

2019年10月17日, 展示案内, 雲南省社会科学院.
2019年12月13日, 行政と地域活動に関する助言, 加賀市役所.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

問い合わせの回答, 1件.
地域資料の整理, 3件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室 (富江家), 資料説明, 2件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ナイトミュージアム (2019年7月27日), 対応.
繁忙期C展示室 (2019年8月14日), 対応.
琵琶湖博物館第27回企画展示 関連シンポジウム (2019年9月14日), 対応.
常設展示・C展示室, 展示物の維持管理, 2019年度.

常設展示・C展示室，生体展示の管理，2019年度.

【企画調整活動】

2019年8月28日，巢湖環境管理委員会意見交換会，対応.

2019年9月6日，ICOM京都大会 NATHIST エクスカーション，対応.

2019年9月7日，ICOM 関連行事，フィールド対応.

2019年9月14日，国際シンポジウム講演者対応，講演通訳対応.

【研究部関連事業】

研究審査会，対応，2019年6月1日，琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

近江八幡市環境審議会，委員（副部会長）（2018年度～）.

琵琶湖の湖底堆積物を中心とした花粉分析に基づいて、東アジア地域における過去数十万年間の森林植生の変遷と気候変動、さらには人間活動との関連についての研究を進めている。

本年度は、西の湖ヨシ群落で継続して調査を実施してきた花粉生産量の計測成果について、日本花粉学会会誌に筆頭著者として公表することができた。また、多賀町で実施されている古代ゾウ発掘プロジェクトの成果として、珪藻化石に関する論文を共著者の一人として公表することができた。また、琵琶湖博物館総合研究および共同研究の中で、琵琶湖周辺における過去 150 年間の森林景観の復元を行うことを目的として、琵琶湖地域を含んだ全国的な林業および森林利用統計データの収集と整理、さらに琵琶湖南湖堆積物の花粉分析を実施した。さらに、科学研究費助成事業の代表研究者として、日本海および東シナ海堆積物の花粉分析に基づく日本海環境の変化と陸上植生との応答関係の解明を進めるとともに、共同研究者として、日本各地での花粉生産量推定のための調査を実施した。琵琶湖博物館申請専門研究では、琵琶湖と猪苗代湖周辺における森と人との相互関係史の比較のため、福島県における遺跡の花粉分析結果の収集と整理を進めた。これらの研究成果の一部については、琵琶湖博物館研究セミナーや新聞連載、地域連携講義などをおして、一般に向けた紹介にも努めた。

博物館事業に関しては、資料活用係の一員として映像資料、図書資料、温湿度管理担当として業務を実施した。また、新琵琶湖博物館創造室の中で、第 3 期リニューアルにおける A 展示室および音声ガイドの担当として、展示制作を進めた。

館外での活動としては、本年度の日本植生史学会大会の実行委員として、豊橋市自然史博物館における大会の運営を行った。また、日本花粉学会および日本植生史学会の編集委員をつとめた。

印刷物

【学術論文】

林 竜馬・和田 周・佐々木直子・竹田勝博（2019）滋賀県西の湖におけるヨシ群落の花粉生産量－イネ科草本群落の相対的花粉生産量推定に向けて－. *日本花粉学会会誌*, 65 : 11-20.

富 小由紀・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・堂満華子（2019）古琵琶湖層群蒲生層最上部から産出した化石珪藻フロラ. *Diatom*, 35 : 1-17.

【専門分野の著作】

林 竜馬（2019）西の湖および琵琶湖周辺のヨシ群落における冬季地上部現存量調査報告書（2016～2019年）. *滋賀県調査報告書*, 15pp.

【一般向けの著作】

林 竜馬（2019）びわ博 こだわり展示の裏話 47 こだわりづくし樹冠トレイル. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 8月20日.

林 竜馬（2019）びわ博 こだわり展示の裏話 48 みんなでつくった樹冠トレイル. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 9月3日.

林 竜馬（2020）湖岸より 365 繰り返す気候と森の物語. *中日新聞*, 中日新聞社, 2月29日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

林 竜馬・上中央子・廣瀬孝太郎・長橋良隆（2019年9月12日）猪苗代湖と周辺遺跡の花粉分析からみる過去1700年間の植生変遷. 日本花粉学会第60回大会. 高知大学（高知市）, [ポスター発表].

林 竜馬（2019年10月18日）滋賀県西の湖におけるヨシ花粉生産量推定と市民参加型調査による冬季のヨシ地上部生物量の測定. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

斎藤俊彦・竹谷尚樹・三宅悠平・高原 光・佐々木尚子・中村琢磨・林 竜馬・杉田真哉（2019年12月8日）マツ科3属7種の花粉生産量の推定一定量の植生復元の基礎資料として. 第34回日本植生史学会大会, 豊橋市自然史博物館（愛知県）, [ポスター発表].

Hayashi, R., Sagawa, T., Irino, T. and Tada, R. (2019年12月12日) Orbital-scale vegetation-ocean linkages in western Japan during the last 500,000 years based on a new pollen record from the Japan Sea. American Geophysical Union Fall Meeting. Moscone Center (San Francisco, CA), [ポスター発表].

林 竜馬・山田直明・太田俊浩・竹田勝博（2020年3月6日）産学官で琵琶湖のヨシ刈りの炭素回収量を考える：参加型現存量調査と群落高法から. 第67回日本生態学会大会, 名城大学（名古屋市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「照葉樹林帯ーブナ帯における里山生態系の成立維持過程の解明ー滋賀と福島における遺跡花粉分析データの悉皆調査からー」, (2019年度).

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖南湖堆積物からみた過去2000年間の古植生解析」(研究代表者：里口保文), 研究副代表者 (2018年度～2020年度).

琵琶湖博物館共同研究「バイカル湖堆積物研究成果の集約・管理・公開へ向けた総合研究ーバイカル資料・研究発信センターを目指してー」(研究代表者：柏谷健二), 研究副代表者 (2019年度～2020年度).

琵琶湖博物館共同研究「近江の森と人の関係史ー人は森をどう利用してきたのか」(研究代表者：妹尾祐介), 共同研究者 (2019年度～2020年度).

琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者：亀田佳代子), 共同研究者 (2019年度～2023年度).

科学研究費助成事業（基盤C）「東シナ海の花粉分析からみる40万年間の植生の温暖化応答と海流・モンスーンとの因果」(研究代表者：林 竜馬), 研究代表者 (2019～2021年度).

科学研究費助成事業（基盤B）「東アジアの古代湖『琵琶湖』の固有種成立過程の解明のための総合的研究」(研究代表者：高橋啓一), 研究分担者 (2018～2022年度).

科学研究費助成事業（基盤B）「現植生分布の基となる最終氷期最盛期における植生の定量的復元」(研究代表者：高原 光), 研究分担者 (2019～2022年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本花粉学会, 評議員, 2015年～.

日本花粉学会, 編集委員会, 副編集委員長, 2015年～.

日本植生史学会, 編集委員, 2016年～.

日本植生史学会, 行事副幹事, 2017年～.

第四紀研究, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，11件。

はしかけグループ「森人」・「湖をつなぐ会」，担当。

2019年9月14日，わくわく探検隊 葉っぱの形に注目しよう！，琵琶湖博物館，講師。

2019年10月20日，樹冠トレイルガイドツアー，びわ博フェス2019，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2019年9月25日，講演「屋外展示と森の歴史」，地域連携講義（京とおうみ自然文化クラブ），琵琶湖博物館，講師。

メディアへの協力

2019年5月20日，京都新聞，大津シイノキ記事，取材対応。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

地学標本整備，収蔵庫維持管理，担当。

映像資料整備，主担当。

図書資料整備，副担当。

収蔵庫温湿度管理，主担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，1回（4日）。

展示交流員博物館実習，樹冠トレイル解説（2020年3月17日～19日），講師。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第3期リニューアル A 展示室，担当。

第3期リニューアル 音声ガイド，担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2019年12月8日～15日，アメリカ サンフランシスコ モスコニーセンター，AGU Fall Meeting 2019 への参加。

基盤研究(C)「低植生環境における村の生存維持に関する研究」の2年目に入り、近江国蒲生郡南津田村(近江八幡市南津田町)をフィールドとして、共有山の里山植生の変遷、およびこれに関連する内湖沿岸の資源管理史の研究を継続した。近世～明治初期の文書(国文学研究資料館所蔵南津田村文書ほか)と聞き取りから、当該期の植生の荒廃と回復過程がほぼ明らかになったことをうけ、いくつかの口頭報告・論文の形で成果の公表を始めた。

湖東の内湖一帯のほか、沖島(近江八幡市沖島町)をはじめ県内各地の漁撈用具・習俗の調査の成果は、京都新聞滋賀版の連載「おうみ漁具図鑑ーびわ博コレクション」にコンスタントに公表した。

今年度は、湖東平野とは対照的な立地にある湖西・比良山麓の近江国滋賀郡北比良村(大津市北比良)における資源管理史の調査も本格化させた。聞き取り・石工用具の受け入れと並行して、近世～近代の北比良村文書・絵図類の分析を行い、いくつかの口頭報告・論文として公表した(この調査の一部は、研究分担者となっている基盤研究(B)「里山における自然資本の意識化とネットワークのための地域参加型研究」、および共同研究者となっている人間文化研究機構総合地球環境学研究所「人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災(Eco-DRR)の評価と社会実装」の一環として行われた)。

村の森林資源は、「格差」と「移動」を抜きに考えることはできない。近江盆地では湖西と湖東で山の植生に西高東低というべき差があり、西の林産物(割り木・柴・杭など)が湖東側に大量に移出されていた。令和2年度は、中間地点にあたる沖島(近江八幡市沖島町)の燃料材需要の動向も踏まえ、広域を移動する資源としての燃料材とその市場形成に関する視点も取り込んだ研究成果のとりまとめと発信を目指す。

研究分担者となっている基盤研究(B)「東北型社会の特質に関する史的研究」の成果として、近世後期～明治初年の地方名望家による山村の開発とこれをもとにした由緒書をテーマとした論考が印刷された。副代表となっている共同研究「近江の森と人の関係史」では、近江の森林資源を奈良県大和盆地・吉野郡川上村と比較することを視野におさめた共同調査等を企画運営し、総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」では、主として行政系資料を活用した近代の環境史構築をめざす共同討議に参加した。

前年度から継続していた東近江市今堀町の宮座習俗の調査、および社務所保管の近世～近代文書の調査の成果は、琵琶湖博物館研究調査報告第32号(春田直紀氏との共編)として刊行した。このほか調査委員等として参画している各地の祭礼行事調査・自治体史調査に関連し、滋賀県多賀町(多賀大社)、奈良県御所市、奈良県天理市、福井県小浜市、千葉県市川市、東京都立川市の刊行物が出版されたか、まもなく出版される。御所市と天理市の調査報告書には、平成30年度までの科研費の一環で実施した近世祭祀組織に関する論考が含まれる。

事業面では、第3期リニューアルを迎えた新琵琶湖博物館創造室に所属し、歴史展示(B展示室)の施工段階の総括にあたった。上述した科研費による湖東(南津田)、湖西(北比良)、今堀、沖島および近江一円の漁撈用具習俗の研究成果は、新B展示のコンテンツに直結している。次年度も最終段階の施工の業務にあたるとともに、展示の基礎となった知見の公表を急ぐ。

印刷物

【学術論文】

加藤衛弘・羽賀和樹・渡部圭一(2020)近代移行期における山村の開発と由緒―秋田藩領荒瀬村肝煎・湊家文書の解題と翻刻一. *研究紀要(徳川林政史研究所)*, 54: 143-164. (『金鯪叢書』第47輯所収)

渡部圭一(2020)万延元年上妙典村「異流ケ間敷法門」一件―妙好寺住職の江戸出訴日記『荒塵記』翻刻と解題(三). *市史研究いちかわ(市川市役所文化スポーツ部文化振興課)*, 12: 45-54.

【専門分野の著作】

渡部圭一・三樹友梨香(2019)比良山麓の「石屋」用具調査. *地域の歴史から学ぶ災害対応―比良山麓の伝統知・地域知*. 総合地球環境学研究所 Eco-DRR プロジェクト, 京都, pp. 38-41.

- 渡部圭一 (2019) 旧津田内湖のアンコ鰻漁. *淡海文化財論叢*, 淡海文化財論叢刊行会, 11 : 249-254.
- 渡部圭一 (2019) 書評 伊藤廣之著『河川漁撈の環境民俗学』. *京都民俗*, 京都民俗学会, 37 : 21-80.
- 渡部圭一 (2019) 多賀の祭りを支えた人びと 第1回. *多賀*, 多賀大社, 62 : 6-7.
- 渡部圭一 (2020) 多賀の祭りを支えた人びと 第2回. *多賀*, 多賀大社, 63 : 4-5.
- 春田直紀・渡部圭一 (編) (2020) *中世惣村の現在—近江国今堀郷故地の現地調査 (琵琶湖博物館研究調査報告第32号)*. 滋賀県立琵琶湖博物館, 草津, 128pp.
- 渡部圭一 (2020) 兵庫町. 天理市教育委員会事務局文化財課 (編), *大和神社ちゃんちゃん祭り調査報告書*, 天理市文化遺産活性化委員会・天理市教育委員会, 奈良県天理市, pp. 80-101.
- 渡部圭一 (2020) 「座筋」の成立と長老衆. 天理市教育委員会事務局文化財課 (編), *大和神社ちゃんちゃん祭り調査報告書*, 天理市文化遺産活性化委員会・天理市教育委員会, 奈良県天理市, pp. 181-195.
- 渡部圭一 (2020) 広峰区の諸相. 小浜市教育委員会 (編), *小浜放生祭総合調査報告書*, 小浜市教育委員会, 福井県小浜市, pp. 64-74.
- 渡部圭一 (2020) 第二章 社会 第一節 自治会と自治会記念誌, 第二章 社会 第二節 明治～戦前・戦中期の町内, 第二章 社会 第三節 自治村落と戦後の自治会, 第二章 社会 第四節 戦後の自治会の展開, 第七章 信仰 第一節 寺社 二 諏訪神社. 立川市史編さん民俗部会 (編), *新編立川市史資料編 柴崎の民俗*, 立川市, 東京都立川市, pp. 25-62, pp. 298-306.

【一般向けの著作】

- 渡部圭一 (2019) おうみ漁具図鑑 27 三枚小糸網 大量水揚げで使用拡大. *京都新聞*, 京都新聞社, 4月18日.
- 渡部圭一 (2019) おうみ漁具図鑑 28 カーバイドランプ 携帯「灯り」夜の漁で重宝. *京都新聞*, 京都新聞社, 5月2日.
- 渡部圭一 (2019) おうみ漁具図鑑 29 藻搔き 風が大敵 手際よく収穫. *京都新聞*, 京都新聞社, 5月16日.
- 渡部圭一 (2019) おうみ漁具図鑑 30 釣り針 狙うは大物「ギャング」. *京都新聞*, 京都新聞社, 5月30日.
- 渡部圭一 (2019) おうみ漁具図鑑 31 ドジョウ叩き 初夏の夜の水田 針刺す. *京都新聞*, 京都新聞社, 6月13日.
- 渡部圭一 (2019) おうみ漁具図鑑 33 漬け柴漁の鍬 太い幹や枝 引き上げる. *京都新聞*, 京都新聞社, 7月11日.
- 渡部圭一 (2019) おうみ漁具図鑑 34 鶺鴒文書 明治期まで命脈保つ. *京都新聞*, 京都新聞社, 7月25日.
- 渡部圭一 (2019) おうみ漁具図鑑 35 引っ掛け 夏休みの子 アユ取り. *京都新聞*, 京都新聞社, 8月8日.
- 渡部圭一 (2019) おうみ漁具図鑑 36 地曳網の足縄 頑丈な構造 重りにも. *京都新聞*, 京都新聞社, 8月22日.
- 渡部圭一 (2019) おうみ漁具図鑑 37 シジミカキのタモ網 長い柄付け 底かきとる. *京都新聞*, 京都新聞社, 9月5日.
- 渡部圭一 (2019) おうみ漁具図鑑 38 プラスチック製エビタツベ 需要に合わせ「改造」も. *京都新聞*, 京都新聞社, 9月19日.
- 渡部圭一 (2019) おうみ漁具図鑑 39 船名板 比良の産物 湖東へ運び. *京都新聞*, 京都新聞社, 10月3日.
- 渡部圭一 (2019) おうみ漁具図鑑 40 蓑 すぐ乾く雨具、前掛けも. *京都新聞*, 京都新聞社, 10月17日.
- 渡部圭一 (2019) おうみ漁具図鑑 41 ワカサギ小糸網 丈短く改造 真冬の湖底. *京都新聞*, 京都新聞社, 10月31日.
- 渡部圭一 (2019) おうみ漁具図鑑 42 一本釣 竿ごと水中に立てる. *京都新聞*, 京都新聞社, 11月4日.
- 渡部圭一 (2019) おうみ漁具図鑑 43 両口タツベ 堅型を横に 効率上げる. *京都新聞*, 京都新聞社, 11月28日.
- 渡部圭一 (2019) おうみ漁具図鑑 45 クサリ 漁師と地曳網をつなぐ. *京都新聞*, 京都新聞社, 12月26日.
- 渡部圭一 (2020) おうみ漁具図鑑 46 板図 船大工の頭中の「設計図」. *京都新聞*, 京都新聞社, 1月9日.
- 渡部圭一 (2020) おうみ漁具図鑑 47 田船 農作業や漁 身近な足. *京都新聞*, 京都新聞社, 1月23日.
- 渡部圭一 (2020) 湖岸より 363 リニューアルイヤーの学芸員のお正月. *中日新聞*, 中日新聞社, 2月1日.
- 渡部圭一 (2020) おうみ漁具図鑑 48 ウナギ筒 シンプルに竹を束ね. *京都新聞*, 京都新聞社, 2月6日.
- 渡部圭一 (2020) おうみ漁具図鑑 49 サデ網 濁流の魚 待ち続ける. *京都新聞*, 京都新聞社, 2月20日.

渡部圭一（2020）おうみ漁具図鑑 51 コールタール鍋 役割転用 生活見届け. 京都新聞, 京都新聞社, 3月19日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

渡部圭一（2019年6月21日）里山の近代史：近江湖東における「はげ山」の植生回復過程. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

渡部圭一（2019年7月15日）かくれ、あらわす—民俗信仰における内面化と顕在化コメント. 日本民俗学会905回談話会（日本民俗学会第71回年会プレシンポジウム）, 神奈川大学横浜キャンパス3号館205号室（横浜市）, [口頭発表].

渡部圭一（2019年10月13日）石工の採石労働にみる山の環境と資源管理：近江国滋賀郡北比良村を事例に. 日本民俗学会第71回年会, 筑波大学春日キャンパス（茨城県つくば市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「漁業組合文書の基礎的研究」,（2019年度）.

琵琶湖博物館共同研究「近江の森と人の関係史」（研究代表者：妹尾裕介）, 副代表（2019～2020年度）.

琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」,（研究代表者：亀田佳代子）, 共同研究者（2019～2023年度）.

科学研究費助成事業（基盤C）「低植生環境における村の生存維持に関する研究」（研究代表者：渡部圭一）, 研究代表者（2018～2020年度）.

科学研究費助成事業（基盤B）「里山における自然資本の意識化とネットワークのための地域参加型研究」（研究代表者：深町加津枝）, 研究分担者（2018～2020年度）.

科学研究費助成事業（基盤B）「東北型社会の特質に関する史的・地域資源の開発・管理・利用との関係を重視して」（研究代表者：加藤衛弘）, 研究分担者（2015～2019年度）.

科学研究費助成事業（基盤B）「生活変化/生活改善/生活世界の民俗学的研究—日中韓を軸にした東アジアの比較から」（研究代表者：小島孝夫）, 研究分担者（2017～2020年度）.

人間文化研究機構総合地球環境学研究所「人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災（Eco-DRR）の評価と社会実装」（研究代表者：吉田丈人）, 共同研究者（2018～2019年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本民俗学会, 評議員・理事（編集委員）.

京都民俗学会, 理事（編集委員）.

現代民俗学会, 編集委員.

日本民俗学会, 第71回年会実行委員会, 委員・座長.

京都民俗学会, 京都民俗, 査読, 3件.

日本民俗学会, 日本民俗学, 査読, 4件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年5月11日, 国立民族博物館友の会「琵琶湖と生きる—刺し網漁とモンドリ漁」, 講師.

2019年5月18日, 京都造形芸術大学「芸術分野特論Ⅲ」（伊達仁美氏担当）, 講師.

2019年5月18日, 龍谷大学「博物館実習」（神田雅章氏ほか担当）, 講師.

2019年5月19日, 京都造形芸術大学「文化財保存修復基礎演習Ⅰ」（伊達仁美氏担当）, 講師.

2019年5月26日, 京都文教大学「博物館資料保存論」（伊達仁美氏担当）, 講師.

2019年6月8日, 大林賢太郎氏（京都造形芸術大学歴史遺産学科教授）, 館内絵図熟覧および顔料調査.

2019年6月30日, 京都造形芸術大学「文化財保存修復基礎演習Ⅰ」（伊達仁美氏担当）, 講師.

2019年7月3日, 国立民族学博物館友の会体験セミナー参加者による質問対応, 1件.
2019年7月31日, 仏教大学「博物館実習2」(大野哲氏担当), 講師.
2020年1月15日, 草津市常盤小学校見学会, 収蔵庫解説.
2020年1月25日, 守山里山の会「滋賀県立琵琶湖博物館の研究・展示と文化財IPM」, 講師.
2019年度後期, 龍谷大学社会学部, 「びわ湖・滋賀学」(5回分), 非常勤講師.
修士論文・卒業論文作成に関する問い合わせ対応, 3件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 1回.
はしかけグループ「近江はたおり探検隊」, 担当.
インターネットを通じた質問への対応, 3件.

他の博物館・機関等主催行事

2019年7月11日, 「歴史文化プロジェクト」企画『八楽溜』と『湖東の溜池』シンポジウム(湖東地区まちづくり協議会), 大沢町公民館沢のハウス(東近江市), コメンテーター.
2019年9月7日, 講演「魚が結ぶカミと人」, 鈴鹿山麓混成博物館フォーラム2019, 大津市勤労福祉センター5階大ホール(大津市), 講師.
2019年11月15日, 講演「甲賀の民俗と祭り」, 第6回全体学習会(甲賀市シルバー大学), かふか生涯学習館2階研修室(甲賀市), 講師.

視察等への対応

2019年11月19日, 琵琶湖博物館諸施設・体験施設・リニューアル事業について, 蘇理剛志氏(和歌山県立紀伊風土記の丘主査学芸員).
2020年2月15日, 民俗資料の保存・活用について, 厚香苗氏(大東文化大学文学部准教授)・野中健一氏(立教大学文学部教授).

メディアへの協力

2019年4月8日, 京都新聞「琵琶湖の伝統漁具多彩」, 取材対応.
2019年4月26日, NHK 大津放送局, おうみ発630, 助言・出演.
2019年5月8日, 読売新聞「琵琶湖伝統の漁具紹介」, 取材対応.
2019年5月14日, NHK 大津放送局, おうみ発630, 助言.
2020年1月15日, びわ湖放送 キラりん滋賀, 草津市立常盤小学校リニューアル工事現場見学会, 取材対応.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗資料整備, 収蔵庫維持管理, 担当.
環境資料整備, 収蔵庫維持管理, 担当.
歴史資料整備, 新規データベース構築, 担当.
民俗資料寄贈受入, 8件.
収蔵庫見学対応, 11件.
民俗収蔵庫特別観覧対応, 2件.

他の博物館・機関等の活動

武田久吉メモリアルホール（福島県桜枝岐村）に対する図書資料寄贈にかかる助言。
千葉県立関宿城博物館，令和元年度企画展「オビシヤは続くよ 400 年～年のはじめの村まつり～」(担当：榎美香氏)，2019 年 6 月 27 日，東近江市今堀日吉神社文書の資料調査立ち合い・助言。
東近江市今堀町日吉神社，2019 年 7 月 5 日，『今堀日吉神社概要』編集にかかる助言，校正。
日本民具学会第 44 回大会「民具の生き残りをかけて」，2019 年 8 月，関係者に対する情報提供。
人見佐知子氏（近畿大学文芸学部），当館収蔵文書にかかる情報提供。
テイケイトレード株式会社埋蔵文化財事業部，2019 年 10 月，当館収蔵漁具にかかる情報提供。
大津市歴史博物館，重要文化財「大津百艘船関係資料」指定記念企画展「江戸時代の琵琶湖水運—大津百艘船の航跡—」(担当：高橋大樹氏)，情報提供。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ギャラリー展示「琵琶湖 漁具図鑑—魚つかみの道具のヒミツ」(2019 年 3 月 23 日～5 月 6 日)，担当。
古文書トピック展示「いっちょもんさん物語 その二」(2019 年 3 月 26 日～5 月 12 日)，補助。
B 展示室，維持管理，資料の撤収・移設等。
C 展示室，研究スタジアム，映像・展示。
モーニングレクチャー，講義，1 回 (4 日)。
展示交流員と話そう，内容指導。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第 3 期リニューアル B 展示室，担当 (総括)。

【研究部関連事業】

特別研究員受け入れ，2 名。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

奈良県御所市献灯行事・習俗に関する記録作成・調査事業，調査委員 (2014 年 4 月～)。
奈良県天理市ちゃんちゃん祭り記録作成事業，調査委員 (2014 年 4 月～)。
福井県小浜放生祭総合調査委員会，調査委員 (2015 年 8 月～)。
東京都立川市史民俗部会，編集委員 (副委員長) (2015 年 8 月～)。
滋賀県多賀大社祭礼調査委員会，委員 (副委員長) (2016 年 4 月～)。
奈良県五條市文化遺産活用実行委員会，委員 (2016 年 4 月～)。

研究に関しては、科学研究費若手(B)「他出者・他出二世による山村集落継承の可能性」を開始した。本研究における重要な概念である家や村の継承、存続、消滅に関しては、農村社会学、農村計画学や関連領域で近年活発に議論されている。2019年度は文献調査を行い、集落の継承、存続とは何かを検討することで、本研究の分析の視点を再考した。また、予備調査として、複数の集落で伝統行事の実施状況などに関する情報収集を行い、その担い手の在り方が様々であることが明らかになった。

新琵琶湖博物館創造室におけるリニューアル業務に関しては、B展示室のリニューアルに向け、現地調査等を行った。

印刷物

【専門分野の著作】

大久保実香 (2019) 聞き書き的な手法を用いた映像展示の作成—滋賀県立琵琶湖博物館—。佐野直子・浜本篤史 (編), 「聞き書き」で地域をつくる～聞く人がいて、話す人がいる～ (1.2版) (名古屋市立大学人間文化研究科佐野直子研究室), pp. 60-61.

中尾京子・大久保実香 (2019) 聞いたお話をもとに展示を作る—琵琶湖博物館はしかけ暮らしをつづる会—。佐野直子・浜本篤史 (編), 「聞き書き」で地域をつくる～聞く人がいて、話す人がいる～ (1.2版) (名古屋市立大学人間文化研究科佐野直子研究室), pp. 62-63.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業 (若手 B) 「他出者・他出二世による山村集落継承の可能性」 (研究代表者: 大久保実香), 研究代表者 (2019年度～2022年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年5月9日, 京都精華大デザイン学部プロダクトデザイン学科, 課題製作に関する情報提供 (飛び出し坊やについて).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

視察対応

2019年5月21日, 展示案内, きんき環境館.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

環境収蔵庫, 資料整理.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

研究最前線コーナー，内容更新および展示，担当.

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

第3期リニューアル B 展示室，担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2019年4月1日～2019年4月14日，育児休業取得.

2019年6月7日～2020年3月31日，産前産後休暇・育児休業取得.

琵琶湖周辺地域を中心とした原始・古代の人びとの暮らしについて、土器資料を対象に考古学的研究をすすめている。2019年度は、(1) 縄文時代の土器製作技術と胎土の関係、(2) 弥生時代から古墳時代の遺跡動態、(3) 弥生時代から奈良時代の米調理の実態解明という3つテーマについて研究をすすめた。

(1) 2019年度の専門研究課題「焼成実験からみた粘土の特質と琵琶湖周辺地域の縄文土器の製作技術との相関」として、縄文中期土器を対象に、胎土を観察した結果と、滋賀県各地で採集した粘質土の内容物を比較した。さらに焼成実験を実施し、採集した粘質土が土器として利用できることを確認した。その成果は、当館の研究セミナーで発表し、①滋賀県下では露頭が多く、いくつかの場所では古琵琶湖層に由来する粘質土が比較的容易に取れること、②実際の縄文土器の胎土の含有物と、採取した粘質土の内容物が似ること、③採集粘土は少なくとも800度まで耐えることを研究結果として示した。

(2) 2019年度より共同研究「近江の森と人の関係史一人は森をどう利用してきたのか」を立ち上げ、研究をすすめた。野洲川流域の弥生時代から古墳時代の遺跡動態に着目し、①弥生時代中期(前1世紀)に、集落遺跡が増加し開発がすすむこと、②古墳時代前期(3世紀後半)に、弥生時代の方形周溝墓群を引き継ぐ形で、平野部で古墳造営が始まること、③古墳時代中期(5世紀中ごろ)に、古墳造営の中心地が三上山周辺に移り、首長墓である前方後円墳が造られ始めること、④古墳時代後期(6世紀)に、群集墳が鏡山周辺まで広がり、山の周縁部が古墳群となり墓域開発がすすんでいくこと、また須恵器生産が鏡山で本格化するという変遷を提示した。とくに6世紀における人間活動の活発化は広範囲におよび、森資源の変化の画期となることが示唆される。

(3) 近畿地方を中心に、調理容器の使用痕分析から2世紀から7世紀の米調理方法の移り変わりを探った。結果、使用調理容器の形態変化と使用痕跡から、①時期的変遷による米品種の粘り気の変化、②新米品種の導入による粘り気のちがう米品種の混在、③米品種の特性の統一といった流れに合わせて、炊飯、蒸し米調理が変化してきたという変遷を提示した。とくに二つの画期を見出した。ひとつは浮置炊飯期(5世紀)で、側面加熱蒸らしを伴う湯取り法炊飯方法が、強火の加熱時間を短縮し、オキビ上転がしによる蒸らしの時間が多くしている(炊飯時間の短縮)ことから、より生産を高めようと、たとえば不適地で、短期間のイネ育生を試みた結果、米品種の粘り気が強まったことが要因となり、炊飯時間が短縮した結果である。もうひとつは竈出現期(6世紀)で、炊飯から蒸し調理に調理方法が変化するが、この要因は、弥生時代以来の米品種と、韓半島からの新米品種が混在しても失敗しない蒸し調理を選択した結果である。なお一連の研究は、科学研究費補助金基盤研究(B)「和食の成立過程の解明」の成果である。

このほか2019年度は、京都文化博物館で保管されている鴨沂高校所蔵滋賀里遺跡出土資料の分析をすすめ、縄文土器の内容について報告書を執筆した。戦前に滋賀県をフィールドに学校教育のなかで、実施されていた考古学調査の実態解明が進み、当時の高校の考古クラブが周辺の大学教員の監修のもと高度な調査をすすめていたことが明らかとなった。また、滋賀県は考古学の学術調査の場として活発であり、多くの研究者によって調査がすすめられていたことを把握した。近代の学校教育の内容は、地域によって多種多様であり、独自のアクティブラーニングの開発を求められる今日、現代教育に活かせる点が多い。

事業面では、総務部新琵琶湖博物館創造室に所属し、第3期リニューアルのB展示室を担当した。前年度に設計した実施設計にしたがい、導入部分と森ゾーンをおもに総括し、具体的な展示設計をすすめた。また、展示評価を担当し、アンケート調査(1回)を企画運営した。

事業部展示係では、ディスカバリールームを担当した。ディスカバリールームは前年度リニューアルオープンを終えて、はじめて一年間通じて開室する年度となり、リニューアル中に中止していた上半期のイベントの再開、およびリニューアルに合わせた内容変更をすすめた。また五感で体感する展示をテーマとして新たにスタートした展示趣旨に合わせ、季節ごとのおい展示更新を計画し、実施した。また、第3期リニューアルでB展示室がリニューアルされることと関連して、連動した展示となるように人形劇場に新規パペットを制作した。

印刷物

【専門分野の著作】

妹尾裕介・大石雅興・村野正景（2020）Ⅲ03「鴨沂高校地歴研究部」の考古学調査－滋賀県滋賀里遺跡－. In: 村野正景（編），*学校の文化資源の「創造」*，pp. 34-74.

妹尾裕介（2020）第3章 調査の概要 第1節(2)①京都大学総合博物館収蔵資料の概要. *津雲貝塚総合調査報告書*（笠岡市教育委員会），岡山笠岡市，pp. 28-113.

【一般向けの著作】

妹尾裕介（2020）滋賀県立琵琶湖博物館に勤務して. *学芸員 NEWS LETTER*（立命館大学文学部），京都京都市，p. 8.

妹尾裕介（2020）湖岸より 366 龍の棲む国、近江. *中日新聞*，中日新聞社，3月14日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

妹尾裕介（2019年4月19日）胎土からみた琵琶湖周辺地域の縄文土器の地域性. 琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

妹尾裕介（2019年5月19日）近畿地方における2世紀から7世紀の米調理方法の移り変わり. 日本考古学協会第85回（2019年度）総会，駒澤大学（東京都世田谷区），[ポスター発表].

妹尾裕介（2019年6月12日）近江の森と人の関係史－人は森をどう利用してきたのか. 2019年度第1回琵琶湖博物館共同研究「森人」研究会，奈良文化財研究所（奈良市），[口頭発表].

中村久美子・妹尾裕介・森 智美・南 悠穂・片淵綾香（2019年6月23日）琵琶湖博物館ディスカバリールームのリニューアルについて. 全日本博物館学会第45回研究大会，新潟県立歴史博物館（長岡市），[口頭発表].

南 悠穂・森 智美・大槻達郎・妹尾裕介（2019年12月15日）他機関を巻き込んだ期間限定展示が生み出す新たな交流. 第60回日本動物園水族館教育研究会，東京大学大気海洋研究所（千葉県柏市），[ポスター発表].

妹尾裕介（2020年3月14日）琵琶湖周辺地域における弥生古墳期の集落・生産遺跡の動態. 2019年度第2回琵琶湖博物館共同研究「森人」研究会，琵琶湖博物館，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「焼成実験からみた粘土の特質と琵琶湖周辺地域の縄文土器の製作技術との相関」，（2019年度）.

琵琶湖博物館共同研究「近江の森と人の関係史－人は森をどう利用してきたのか」（研究代表者：妹尾裕介），研究代表者（2019年度～2020年度）.

科学研究費助成事業（基盤B）「和食の成立過程の解明」（研究代表者：小林正史），研究分担者（2018年度～2021年度）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，3件.

ウェブサイト、メールによる質問対応，10件。

はしかけグループ「ザ！ディスカバはしかけ」, 担当.

2019年8月28日～30日, ディスカバボックス作成, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 指導.

他の博物館・機関等の主催行事

2019年9月28日, 弥生土器の魅力再発見！一使い方との関連からみた深鍋の製作技術－, 弥生人養成講座－「弥生の技」－ (守山市教育委員会), 下之郷遺跡公園 (守山市), 運営.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

考古資料整備, 収蔵庫維持管理, 担当.

考古資料貸し出し, 1件.

考古収蔵庫特別観覧対応, 3件.

防虫トラップ調査, 3回.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ディスカバリールーム, 担当.

トピック展示「第82回収蔵庫をのぞいてみよう！「湖を渡る神輿－日吉山王祭」」(2019年5月14日～6月16日), 担当.

トピック展示「第83回収蔵庫をのぞいてみよう！「屏風を読む－江戸時代の地理空間情報」」(2019年6月18日～7月7日), 担当.

トピック展示「第84回収蔵庫をのぞいてみよう！「縁起の世界－石山寺縁起絵巻をよむ」」(2019年7月9日～9月8日), 担当.

トピック展示「第85回収蔵庫をのぞいてみよう！「江戸時代の風景－琵琶湖真景図をよむ」」(2019年9月14日～10月20日), 担当.

トピック展示「第86回収蔵庫をのぞいてみよう！「収蔵庫をのぞいてみよう！ザ・ファイナル」」(2019年10月22日～11月24日), 担当.

モーニングレクチャー, 講義「おとなのディスカバリーの考古展示」, 1回(4日).

展示交流員と話そう, 内容指導など, 2件.

【企画調整活動】

新任職員研修, 考古展示について・B展示室(2019年4月18日), 講師.

新任職員研修, ディスカバリアルームについて・ディスカバリアルーム(2019年4月18日), 講師.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第3期リニューアル B展示室, 担当.

第3期リニューアル 展示評価, 担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2019年4月～2020年3月, ショップ・レストラン会議.

【館外の活動】

京都大学総合博物館, 研究協力者(2015年10月～現在).

近畿弥生の会, 滋賀県世話人(2017年12月～現在).

分子遺伝解析を用いて、琵琶湖の魚類の起源、歴史、進化に関する研究を進めている。本年度は、科研費若手「淘汰・浸透を経験したミトゲノムと核ゲノム内関連遺伝子の共進化プロセスの解明」、共同研究「RAD-seq データに基づく歴史人口学解析による琵琶湖魚類相形成史の解明」として、次世代シーケンシングやサンガーシーケンシングによる DNA 配列分析を中心に行い、琵琶湖の魚類の進化史の推定や希少淡水魚の保全遺伝解析を実行し、その内の一部を日本魚類学会年会にて口頭発表を行ったり、論文として公表した。また、これまでに研究成果として公表した分子遺伝解析に基づく固有種を中心とした琵琶湖の魚類の起源や進化史、タニガワナマズの記載に関連して、2020年3月に琵琶湖博物館ブックレット「ナマズの世界へようこそ—マナマズ・イトコ・タニガワ—」を出版した。さらに上記の研究成果の中でビワマスに関する一部のことについては、副担当を務めた第27回企画展示「海を忘れたサケ—ビワマスの謎に迫る—」、第31回水族企画展示「ビワマスと仲間たち」にて展示された。

博物館事業に関しては、資料活用係として、資料の活用の推進、IPM (防虫) の推進に努めた。本年度も昨年度に引き続き他の職員と協力して、環境整備に努めることができたため、被害が出ることなく、収蔵庫空間の維持ができた。水族展示についても、水族展示の維持管理、水族資料収集に努め、今年度はビワオオウズムシやアナンデールヨコエビの展示、展示水槽照明へのLED導入などが行われた。

印刷物

【学術論文】

Watanabe, K., Tabata, R., Nakajima, J., Kobayakawa, M., Matsuda, M., Takaku, K., Hosoya, K., Ohara, K., Takagi, M. and Jang-Liaw, N.-H. (2020) Large-scale hybridization of Japanese populations of *Hinamoroko*, *Aphyocypris chinensis*, with *A. kikuchii* introduced from Taiwan. *Ichthyol. Res.*
Doi:10.1007/s10228-019-00730-9

【専門分野の著作】

田畑諒一 (2019) サケ科魚類の中でのサクラマス群の位置づけ. 第27回企画展示「海を忘れたサケ—ビワマスの謎に迫る—」展示解説書, 琵琶湖博物館, pp. 36-37.
田畑諒一 (2019) サクラマス群の遺伝的関係. 第27回企画展示「海を忘れたサケ—ビワマスの謎に迫る—」展示解説書, 琵琶湖博物館, p. 38.
金尾滋史・田畑諒一 (2019) 湖魚奇観に描かれた生き物の解説. 令和元年度秋期企画展「人と魚の歴史学」展示図録, 野洲市歴史民俗博物館 (銅鐸博物館), pp. 12-21.

【一般向けの著作】

田畑諒一 (2019) 琵琶湖にしかない生き物～固有種～. どうぶつのくに, 123:10-11.
田畑諒一 (2019) 日本産ナマズ属新種 ”第4のナマズ” タニガワナマズとは何者か?. 月刊アクアライフ, 8月号, 株式会社エムピージェー.
田畑諒一 (2019) 日曜日に知る 琵琶湖の魚たち 3種に分かれたカマツカ. 産経新聞, 産経新聞社, 12月8日.
田畑諒一 (2020) 湖岸より 362 DNA が物語る琵琶湖の魚たちの歴史. 中日新聞, 中日新聞社, 1月25日.
前畑政善・田畑諒一 (2020) ナマズの世界へようこそ—マナマズ・イトコ・タニガワ—. 琵琶湖博物館ブックレット, 11, サンライズ出版, 122pp.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 田畑諒一（2019年5月17日）琵琶湖産魚類のミトコンドリアゲノムにおける自然淘汰の痕跡. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- サゴン ジン・キム サンギ・チェ ビュンソ・田畑諒一・大槻達郎・リュ シヒョン・ユ ジョンナム（2019年8月12~14日）韓国産テナガエビの遺伝的集団構造. 韓国分類学会年会, 大韓民国. [ポスター発表].
- 田畑諒一・富永浩史・中島 淳・鬼倉徳雄・Sang-Ki KIM・Jeong-Nam YU・日比野友亮・柿岡 諒・渡辺勝敏（2019年9月22日）ニゴイとコウライニゴイの遺伝的集団構造と系統地理. 日本魚類学会年会, 高知大学朝倉キャンパス（高知市）. [口頭発表].
- 田畑諒一（2019年9月23日）分子遺伝解析に基づく固有種を中心とした琵琶湖産魚類の起源. 日本魚類学会年会公開シンポジウム「古代湖における魚類の適応進化と種多様性創出」, 高知大学朝倉キャンパス（高知市）. [口頭発表].
- 福家悠介・Prachya Musikasinthorn・鹿野雄一・松井彰子・田畑諒一・岩田明久・渡辺勝敏（2019年9月27日）ミャンマーの古代湖・インレー湖における固有淡水魚類の起源. 日本陸水学会第84回大会, 金沢大学角間キャンパス（石川県金沢市）. [ポスター発表].
- 岸本 友・奥山 永・田畑諒一・伊知地 稔・勝又啓史・川内智裕・中野江一郎・高橋純一（2019年11月27・28日）日本産ナマズ属魚類の種判定およびマイクロサテライトDNA マーカーの開発. 第28回日本DNA多型学会学術集会, 京都大学吉田キャンパス（京都市）. [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「3D スキャンによる魚類液浸標本の三次元形態計測」, (2019年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「RAD-seq データに基づく歴史人口学解析による琵琶湖魚類相形成史の解明」(研究代表者: 田畑諒一), 代表者 (2018年度~2019年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖種とされるピワマスにおける遺伝的多様性の変化」(研究代表者: 桑原雅之), 副代表者 (2018年度~2019年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「淡水クラゲ類の性決定の要因を探る」(研究代表者: 鈴木隆仁), 分担者 (2018年度~2020年度).
- 科学研究費助成事業(若手)「淘汰・浸透を経験したミトゲノムと核ゲノム内関連遺伝子の共進化プロセスの解明」(研究代表者: 田畑諒一), 代表者 (2018年度~2020年度).
- 科学研究費助成事業(基盤 B)「東アジアの古代湖『琵琶湖』の固有種成立過程の解明のための総合的研究」(研究代表者: 高橋啓一), 研究分担者 (2018~2022年度).
- 科学研究費助成事業(基盤 B)「古代湖・琵琶湖における湖沼適応の起源と集団ゲノミクス」(研究代表者: 渡辺勝敏), 研究協力者 (2017年度~2019年度).
- 科学研究費助成事業(国際共同研究加速基金(国際共同研究強化 B))「アフリカの二つの古代湖におけるシクリッド科魚類の摂食戦略の多様化と多種共存機構」(研究代表者: 丸山 敦), 研究協力者 (2018年度~2021年度).
- 科学研究費助成事業(基盤 C)「ゲノム情報で解き明かすジュズカケハゼ種群の多様性と進化プロセス」(研究代表者: 千葉 悟), 分担者 (2019年度~2021年度).
- 生きもの総合調査委員会 魚類部会「滋賀県内に生息するサワガニの遺伝的系統解析」, (2019年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本生態学会, Ecological Research, 論文の査読, 1件.
Animals, 論文の査読, 1件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年、京都産業大学大学院修士課程学生、ナマズ類におけるDNA分析
2019年、京都大学大学院理学研究科修士課程学生、ヨシノボリ類におけるDNA分析。
2019年、京都大学大学院理学研究科修士課程学生、琵琶湖産魚類における三次元形態計測。
2019年、京都大学大学院理学研究科博士課程学生、ミャンマーの古代湖インレー湖産固有魚類の遺伝解析。
2019年、滋賀県立大学大学院修士課程学生・学部学生、イブキノエンドウの分子遺伝解析。

【受賞など】

日本陸水学会ポスター発表優秀賞，2019年9月27日，「ミャンマーの古代湖・インレー湖における固有淡水魚類の起源。」(福家悠介・Prachya Musikasinthorn・鹿野雄一・松井彰子・田畑諒一・岩田明久・渡辺勝敏)。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，12件。(内1件は新型コロナウイルスで中止)
インターネットを通じた質問への対応，魚類に関する質問への対応，8件。
2019年7月27日，ナイトミュージアム・企画展受付業務，琵琶湖博物館。
2019年8月27日，資料整備実習 IPM について，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。
2019年11月23日，DNA からみた琵琶湖の魚たちの歴史ー湖魚奇観の魚を中心にー，「人と魚の歴史学」記念講演会(野洲市歴史民俗博物館主催・琵琶湖博物館共催)，野洲市歴史民俗博物館，講師。
2020年1月25日，DNA からみる魚の進化のものがたり，新琵琶湖学セミナー，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2019年10月18日，講演「琵琶湖固有種の歴史と起源」，生態研セミナー(京都大学生態学研究センター)，京都大学生態学研究センター(大津市)，講師。

メディアへの対応

2019年8月26日・9月2日・9月18日，びわ湖放送，研究スタジオ用映像撮影。
2020年3月9日，乃村工藝社，A展示リニューアル用映像撮影。
2020年3月9日，びわ湖放送，博物館PR用映像撮影。
2020年3月12日，びわ湖放送，総合学習番組「キョウミまんさい！」(3月9日撮影)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集，担当。
水族資料維持管理，担当。
魚類標本，担当。

他の博物館・機関等の活動

関西学院高等学校，魚類液浸資料特別観覧。
龍谷大学・愛媛大学，魚類液浸資料特別観覧。
京都大学，魚類液浸資料特別観覧。
韓国洛東江川生物資源館，資料交換。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族企画展示，担当.

水族トピック展示，担当.

大人のディスカバリー魚類コーナー，主担当.

モーニングレクチャー，講義，1回（4日）.

展示交流員博物館実習，水族展示室およびバックヤードツアー（2020年3月12・25・26日），講師.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第3期リニューアル A 展示室魚類コーナー，担当.

【研究部関連事業】

外部研究資金，主担当.

韓国洛東江生物資源館との交流，担当.

バイカル博物館との交流，担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

野洲市歴史民俗博物館の企画展，琵琶湖博物館側担当.

水族トピック展示，担当.

【海外渡航】

2019年9月29日～10月3日，ロシア，バイカル博物館との協力協定に関する協議.

【館外の活動】

園城寺に生息する亀の生息域外保全，アドバイザー（2019年4月～2020年3月）.

2019年12月に当館に着任した。現在は主に、(1)江戸時代における絵図・地図の出版過程とそれが地域表象に与えた影響、そして、(2)江戸時代の河川管理制度とそれがもたらした河川周辺の景観の変化について、研究を進めている。そうした研究を通じて、近世を中心とした琵琶湖集水域・淀川流域における景観の実態と認識の変遷過程を解明することを当面の目標としている。

本年度の研究活動について、(1)に関しては、これまでの出版地図研究を総括する準備段階として、近世の金毘羅大権現／金刀比羅宮（香川県）参詣に関わる絵図資料の大規模な資料調査に着手し、年度内にその分析の途中経過を学会で報告した。近世の旅に関わる絵図の出版事例の分析結果は、今後の、湖上・陸上交通に関わる近江の絵図・地図等の視覚資料の検討にも応用し得るものである。(2)に関しては、京都・鴨川の古写真データベースを構築し古写真を用いて当時の鴨川の河川環境とその変化を明らかにする研究プロジェクトに参加した。その中で、近代の京都・鴨川における河川管理、そして、鴨川運河敷設がもたらした京都市街地の河川沿岸の景観の変化（河道直流化以前・以後の堤外地の変化など）について、共同研究者とともに分析し、その知見を共有した。これとは別に、琵琶湖博物館の共同研究および外部委員として参画している景観調査事業において、絵図資料や関連史料を用いた中近世の山林利用に関する事例分析を進めている。

博物館事業に関わる活動について、本年度は資料活用係として、主に燻蒸等の業務を補助した。また、歴史資料担当として特別収蔵庫とその収蔵資料の維持管理を行った。

新琵琶湖博物館創造室第3期リニューアルの業務として、B展示室のコーナーの企画、キャプション執筆、展示利用に関わる各種事務などを担当した。この業務の一環で、展示予定である近代の琵琶湖観光に関わる絵図等の資料について、表現内容や出版元等に関する調査と分析を進めることができた。これは、個人の研究テーマ(1)の方法論に基づくものであると同時に、そのテーマの研究内容にフィードバックし得る知見を多数含むものであった。また、今後同種の館蔵資料を調査研究し活用するための足がかりにもなったことを付記しておく。

印刷物

【これまでの業績目録に掲載されていない著作】

【学術論文】

- 島本多敬（2013）近世刊行大坂図の展開と小型図の位置付け．*人文地理*, 65（5）：1-20.
- 島本多敬（2016）池尻田中家文書「河州狭山池水掛り口河筋土砂改之義二付鈴木飛驒守殿并岡部内膳正殿家来江往答之扣」．*洛北史学*, 18：90-107.
- 島本多敬（2017）享保期の上方における幕府広域支配と大名預所—狭山藩の狭山池預所を事例に一．*史林*, 100（2）：268-302.
- 島本多敬（2019）19世紀初頭の災害図出版における書肆の役割—1802年淀川水害の事例から—．*人文地理*, 71（1）：7-28.

【専門分野の著作】

- 島本多敬（2012）難波野地区聞き取り調査報告．上杉和央（編），*京都府立大学文化遺産叢書第5集 丹後・宮津の街道と信仰*，京都府立大学文学部歴史学科，京都：25-28.
- 島本多敬（2012）西谷道・大谷道（上部）街道調査報告．上杉和央（編），*京都府立大学文化遺産叢書第5集 丹後・宮津の街道と信仰*，京都府立大学文学部歴史学科，京都：49-57.
- 島本多敬（2012）宮津市街道調査報告—文珠～山王宮日吉神社—．上杉和央（編），*京都府立大学文化遺産叢書第5集 丹後・宮津の街道と信仰*，京都府立大学文学部歴史学科，京都：69-76.

- 川口成人・島本多敬 (2014) 大田市馬路地区における生業に関する調査報告—友集落を中心に—. 上杉和央 (編), *京都府立大学文化遺産叢書第8集 石見銀山城の歴史と景観—世界遺産と地域遺産—*, 京都府立大学文学部歴史学科, 京都: 290-304.
- 島本多敬 (2015) 刊行大坂図の地誌情報と板元. 脇田 修 (監修), 小野田一幸・上杉和央 (編), *近世刊行大坂図集成*, 創元社, 大阪: 38-55.
- 島本多敬 (2016) 近世地誌・名所案内記にみえる屋島表現. 高松市教育委員会・京都府公立大学法人 (編), *屋島名勝調査報告書*, 高松市教育委員会, 高松: 62-73.
- 島本多敬 (2016) 絵図・地図に描かれた屋島. 高松市教育委員会・京都府公立大学法人 (編), *屋島名勝調査報告書*, 高松市教育委員会, 高松: 85-100.
- 島本多敬 (2017) 国郡・藩領編. 舞鶴市市民文化環境部地域づくり・文化スポーツ室文化振興課 (企画), *舞鶴の絵地図*, 舞鶴市, 舞鶴: 9-16.
- 島本多敬 (2017) 絵図による舞鶴の海の把握. 舞鶴市市民文化環境部地域づくり・文化スポーツ室文化振興課 (企画), *舞鶴の絵地図*, 舞鶴市, 舞鶴: 64-67.
- モリッシー J. (島本多敬 訳) (2017) アイデンティティとネイション. モリッシー J.・ナリー D.・ストロメイヤー U.・ウィーラン I. (上杉和央監訳), *近現代の空間を読み解く*, 古今書院, 東京: 51-63.
- ストロメイヤー U. (島本多敬 訳) (2017) 自然と環境. モリッシー J.・ナリー D.・ストロメイヤー U.・ウィーラン I. (上杉和央 監訳), *近現代の空間を読み解く*, 古今書院, 東京: 98-104.
- ナリー D. (島本多敬 訳) (2017) グローバリゼーション. モリッシー J.・ナリー D.・ストロメイヤー U.・ウィーラン I. (上杉和央監 訳), *近現代の空間を読み解く*, 古今書院, 東京: 166-175.
- ナリー D. (島本多敬 訳) (2017) 統治性. モリッシー J.・ナリー D.・ストロメイヤー U.・ウィーラン I. (上杉和央 監訳), *近現代の空間を読み解く*, 古今書院, 東京: 176-184.
- ナリー D. (島本多敬 訳) (2017) 自然—文化. モリッシー J.・ナリー D.・ストロメイヤー U.・ウィーラン I. (上杉和央 監訳), *近現代の空間を読み解く*, 古今書院, 東京: 185-196.
- モリッシー J. (阿部美香・網島 聖・上杉和央・春日あゆか・島本多敬 訳) (2017) 証拠と表象. モリッシー J.・ナリー D.・ストロメイヤー U.・ウィーラン I. (上杉和央 監訳), *近現代の空間を読み解く*, 古今書院, 東京: 213-220.
- 島本多敬 (2019) 書評 『古地図で楽しむ伊予』『伊予史談会創立一五〇年記念 伊予の古地図～国絵図から村絵図まで～』. *伊予史談*, 392: 30-35.

【一般向けの著作】

- 島本多敬 (2015) 近世狭山池関連絵図の作製と蓄積過程. 大阪府立狭山池博物館 (編), *近世狭山池絵図—水 downstream 民の狭山池改修史—*, 大阪府立狭山池博物館, 大阪狭山: 66-75.
- 三輪眞嗣・島本多敬 (2016) 「日本のふるさと大丹後展」展示解説について. *京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報*, 2: 33-38.
- 島本多敬 (2016) 信仰と生業のつながりから見た丹後—丹後地域現地調査報告—. *京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報*, 2: 57-62.
- 島本多敬 (2017) 地図作者・澤田員矩の資料紹介. 公益財団法人三井文庫 (編), *三井文庫論叢 50 号別冊 三井文庫史料私の一点*, 公益財団法人三井文庫, 東京: 122-123.
- 島本多敬・阿部美香・春日あゆか・網島 聖 (2017) 海外の歴史地理学とその社会的役割. *地理 (古今書院)*, 62 (4): 62-69.
- 島本多敬 (2018) 大坂本屋仲間. 都市史学会 (編), *日本都市史・建築史事典*, 丸善出版, 東京: 555.
- 島本多敬 (2018) 武鑑. 都市史学会 (編), *日本都市史・建築史事典*, 丸善出版, 東京: 555.
- 島本多敬 (2018) 播磨屋九兵衛. 都市史学会 (編), *日本都市史・建築史事典*, 丸善出版, 東京: 555.
- 島本多敬 (2019) 「京都」なる領域を描く. 上杉和央・加藤政洋 (編), *地図で楽しむ京都の近代*, 風媒社, 名古屋: 18-21.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

島本多敬（2019年5月19日）伊予吉田藩による裁許絵図関連資料の保管と領域管理. 第62回歴史地理学会大会, 立命館アジア太平洋大学（大分県別府市）, [口頭発表].

島本多敬（2019年11月17日）金毘羅参詣関係絵図の出版をめぐる大坂の書肆の活動. 2019年人文地理学会大会, 関西大学（大阪府吹田市）, [口頭発表].

飯塚隆藤・谷端 郷・大邑潤三・佐藤弘隆・島本多敬（2020年3月31日）「鴨川古写真 GIS データベース」の構築と河川環境の変遷分析—四条大橋を中心に—. 日本地理学会 2020年春季学術大会, 駒澤大学（東京都世田谷区）, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「近江の森と人の関係史—人は森をどう利用してきたのか」（研究代表者：妹尾裕介）, 研究分担者（2019年度～2020年度）.

立命館大学アート・リサーチセンター 文部科学省共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ 研究拠点」共同研究「鴨川古写真 GIS データベース」の構築と河川環境の変遷分析に関する研究（研究代表者：飯塚隆藤）, 研究分担者（2018年度～2019年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

洛北史学会, 編集委員, 2019年6月～.

人文地理学会歴史地理研究部会, 世話人, 2019年11月～.

『洛北史学』（洛北史学会）, 査読, 1件.

『京都歴史災害研究』（立命館大学歴史都市防災研究所）, 査読, 1件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年度春学期, 立命館大学, 「地域調査入門（LF）」.

2019年度秋学期, 立命館大学, 「地域観光学特殊講義（LC）」.

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

IPM 生物環境調査, 1件.

二酸化炭素燻蒸, 副担当, 2件.

エキヒュームS 燻蒸, 副担当, 1件.

特別収蔵庫維持管理, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

トピック展示 2020 干支展「ねずみ！子！ネズミ」（2020年1月2日～19日）, 歴史資料展示担当.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第3期リニューアル B 展示室, 担当（2019年12月～）.

【研究部関連事業】

研究セミナー，副担当（2019年12月～）.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

愛媛県北宇和郡松野町教育委員会 目黒地区文化的景観調査指導委員会，歴史部会員（2017年4月～）.

令和元年度（2019年度）環境学習センターの活動では、立命館大学（HAKONIWA）と連携した「環境・ほっと・カフェ」を開催し、環境学習活動に携わる学生指導者のスキルアップを図った。また、3才児から高校生までの環境学習活動を支援する、こどもエコクラブ活動では、12月8日に「淡海こどもエコクラブ活動交流会」を開催した。今年の交流会では、絵日記の募集やポスター発表のみの参加も可能にし、ヨシ笛コンサートを開催するなど、より多くのこどもたちが楽しく参加できるよう改善を図った。この他、企業の環境保全活動に関するCSR活動担当者、環境学習指導者、環境活動を実践している学生を対象とした活動者交流会を企業の敷地内で開催する「環境学習活動者交流会」と、環境活動を実践している県内大学の大学生が一堂に集まり、横の繋がりをつくる「びわはく学生ミーティング」を環境学習推進員とともに企画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「環境学習活動者交流会」を延期し、「びわはく学生ミーティング」は中止とした。

研究では、滋賀県ではじめて確認されたヒメマルマメタニシについて共同で報告したほか、ヒナモロコの近縁種であるキクチヒナモロコとの交雑による遺伝子攪乱に関する共著論文では、現在、各施設で飼育されている域外保全個体の由来を調査するとともに、福岡県大牟田市でヒナモロコの保全に携わっている研究者から、これまでの保全に関わる活動について聞き取り調査を行い、保全されていた個体を貰い受けDNA解析に供した。

印刷物

【学術論文】

- 松田征也・石田未基（2019）滋賀県近江八幡市で確認されたヒメマルマメタニシ. *ちりばたん*（日本貝類学会研究連絡誌）, 3-4（49）: 89-91.
- Watanabe, K., Tabata, R., Nakajima, J., Kobayakawa, M., Matsuda, M., Takaku, K., Hosoya, K., Ohara, K., Takagi, M. and Jang-Liaw, N.-H. (2020) Large-scale hybridization of Japanese populations of *Hinamoroko*, *Aphyocypris chinensis*, with *A. kikuchii* introduced from Taiwan. *Ichthyol. Res.*
Doi:10.1007/s10228-019-00730-9

【専門分野の著作】

- 松田征也（2019）ヤリタナゴ・アブラボテ・カネヒラ・イチモンジタナゴ（共著：タナゴ類担当）. *滋賀県立大学研究成果 水田地域における生態系保全のための技術指針*. <https://www.usp.ac.jp/info>

【一般向けの著作】

- 松田征也（2019）日曜日に知る 琵琶湖の魚たち 美しすぎる淡水魚 イチモンジタナゴ. *産経新聞*, 産経新聞社, 5月19日.
- 松田征也（2019）日曜日に知る 琵琶湖の魚たち カネヒラ 貝の中で越冬. *産経新聞*, 産経新聞社, 9月8日.
- 松田征也（2019～2020）そよかぜ「きまぐれ通信」. *滋賀の環境学習メールマガジン*, 4月20日・5月18日・6月15日・7月22日・9月21日・10月19日・11月16日・12月23日・1月18日・2月15日・3月20日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 松田征也（2019年8月16日）希少淡水魚の保全. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「希少淡水魚における性決定について」，（2019年度）。

琵琶湖博物館共同研究「湖沼における淡水クラゲの雌雄入れ替わりの謎にせまる」（研究代表者：鈴木隆仁），共同代表者（2019～2021年度）。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年9月25日，龍谷大学，「びわ湖/滋賀学」。

2019年10月2日，龍谷大学，「びわ湖/滋賀学」。

2019年10月23日，龍谷大学，「びわ湖/滋賀学」。

2020年1月26日，同志社中学校，「琵琶湖の外来生物と希少生物」，琵琶湖博物館，講師。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の活動

質問コーナー・フロアトーク，10件。

はしかけグループ「うおの会」，担当。

2019年5月26日，魚類採集法，環境・ほっと・カフェ，立命館大学サークル HAKONIWA，指導。

2019年7月28日，初心者のためのふなずし作り体験，博物館で楽しもう！，琵琶湖博物館，講師（片岡佳孝・金尾滋文と共同）。

2019年8月10日，環境ほっとカフェ「びわ湖の魚と漁法について」，大学生の環境学習リーダー養成講習会，琵琶湖博物館，企画・運営。

他の博物館・機関等主催行事

2019年6月18日，エコ・スクール支援委員会，大津市立逢坂小学校，委員。

2019年7月21日，講演「田んぼとびわ湖はつながっている」，研修会（こだわり滋賀ネットワーク 湖北・湖東支部），琵琶湖博物館，講師。

2019年10月4日，第26回「よりよい水環境づくり」ポスターコンクール。審査員。

2020年2月18日，エコ・スクール支援委員会，大津市立逢坂小学校，委員。

視察対応

2019年12月22日，水族展示案内，北村誠吾地方創生大臣。

メディアへの協力

2020年3月2日，BS日テレ，名勝平安神宮神苑・絶滅危惧種を救え，取材協力（2月19日）。

2020年3月14日，朝日新聞社，天声人語，取材協力（3月4日）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

大牟田市在住，ヒナモロコ 14 個体，受贈。

水産大学校，カワシンジュガイ科貝類標本 73 個体，貸出。

（株）ダイフク，ヤマトサンショウウオ 90 個体，受贈。

京都市動物園，イチモンジタナゴ 50 個体，分譲。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員博物館実習，市民参加型の希少淡水生物の保全（2020年3月17日～19日），講師。
モーニングレクチャー，講義，1回（4日）。

【研究部関連事業】

調査船「うみんど」管理，副担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

動物取扱責任者。

【館外の活動】

守山湖岸再生部会，委員（1999年～）。

木浜内湖再生部会，委員（2000年～）。

淀川水系アユモドキ連絡協議会（環境省），委員（2004年～）。

（公社）日本動物園水族館協会生物多様性委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，アユモドキ種別計画管理者（2011年～）。

（公社）日本動物園水族館協会生物多様性委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，イチモンジタナゴ種別計画管理者（2011年～）。

大津市立逢坂小学校エコスクール支援委員会，委員（2012年～）。

（公社）日本動物園水族館協会 生物多様性委員会・保全戦略部，部員（2013年～）。

亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム（仮称）に係る環境保全専門家会議，委員（2013年～）。

亀岡市アユモドキ再生検討委員会，委員（2019年～）。

環境省近畿地方環境事務所 淀川水系アユモドキ生息域外保全検討委員会，委員（2014年～）。

亀岡中部土地改良事業検討会，委員（2014年～）。

滋賀県生き物調査生きもの総合調査委員会，魚貝類部会長（2015年～）。

草津市こども環境会議実行委員会，委員（2017年～）。

野洲市環境審議会，委員（2017年～）。

滋賀のオオサンショウウオを守る会，理事（2017年～）。

しが生物多様性取組認証制度審査会，委員（2018年～）。

名勝「平安神宮神苑」の池底土の浚渫検討委員会，委員（2018年～）。

うみのこ，プロポーザル審査員（2019年度）。

ハカタスジシマドジョウの生息域外保全の実施に向けた連絡会，委員（2019年度）。

タンゴスジシマドジョウの生息域外保全の実施に向けた連絡会，委員（2019年度）。

2019年度は、「第27回企画展示 海を忘れたサケビワマスの謎に迫る」および「第31回水族企画展示 ビワマスと仲間たち」と2つの企画展示を主担当として開催した。企画展示の方は、写真家の廣田利之氏の協力を得て、イントロにビワマスの生き様を映像でダイナミックに表現し、来場者にビワマスの素晴らしさを感じてもらい、その後これまで培ってきたビワマス研究の最新のデータをふんだんに盛り込んで、ややもすればステレオ的に考えられるビワマスについて、その実際の生態と進化の様子を紹介した。また、ビワマスは古くから人々の生活に密接に関係し、その関係は時代と共に変化しながら現在も続いている。そのことについて、漁師や料理人、漁業関係者等多くの方々の協力を得て紹介した。本企画展示ではそれを受けて、将来にわたって私達がビワマスとのよりよい関係を築き、維持していく方策を来場者と共に考えていくことを目的に、一般財団法人全国科学博物館振興財団の助成を受けて開催した。その一つとして、来場者にアンケート形式と自由記述によりビワマスへの思いや意見等を書いていただき、それを自身でメッセージボードに展示して、他の来場者と共有していただく展示のフォーラム化の試みを行った。これに加えて、9月14日には「ビワマスとその仲間たちをもっと身近に」と題し、企画展示関連シンポジウムを開催した。本シンポジウムでは、先の展示のフォーラム化を保管するため、研究者だけではなく展示に協力していただいた漁師や料理人にも参加していただき、展示を見た来場者と共にビワマスとの将来に向けて議論を行った。後者の水族企画展示については、ビワマスを含むサクラマス群3亜種と湖沼性のサケ科魚類3種を生体展示した。また、人との関わりを紹介するために、放流で作られた経緯が明らかな中禅寺湖のホンマスや、滋賀県で主要な養殖種となっているイワナとニジマスも生体展示を行った。加えて、人の活動で本来の生息地である田沢湖で絶滅し、2011年に西湖で放流由来の子孫の生息が確認されたクニマスについて、両方の標本を展示した。これらを補完するために、前者の企画展示と共にビワマスと人の関係やビワマスの進化をパネルや映像を使って紹介した。

研究活動では、共同研究「琵琶湖固有亜種とされるビワマスにおける遺伝的多様性の変化」において、1963年のBST当時の標本からのDNAの抽出が成功し、1991-1992年に採集したビワマスおよび2006-2009年に採集したビワマスと併せて、次世代シーケンサーによる分析を行ったところ、時代を経るにつれて遺伝的多様性が減少する傾向のあることがわかった。専門研究については、サンプリングを行うことのできる時期を全て企画展示に費やす必要のあったことから、まったく進めることができなかった。今後は、何らかのファンドを利用して進めていくこととしたい。また、年度終盤からは、中坊徹次氏および藤岡康弘氏と共同で、ビワマスの記載に向けた作業を開始した。これについては、まずビワマスのサンプリングをやり直し、必要となる形態計測とDNA分析を行うこととなった。サンプリングについてはすでに終了し、分析用の全DNAの抽出もほぼ完了している状況であり、なんとか来年度中には記載を進める計画である。

もう一点、今年度末で定年退職を迎えることから、水族の展示に協力していただいているロシアのバイカル博物館との協力関係を引き継ぐために、9月29日から10月3日にかけて田畑学芸技師と共に渡航し、今後の協力関係の継続について依頼すると共に、引き継ぎを行ってきた。また、フィアルコフ氏に代わって新しく館長となられたクプチンスキー氏とも面会協議することができた。

印刷物

【学術論文】

桑原雅之 (2019) 琵琶湖水系におけるビワマスとアマゴの共存可能性. *水産育種*, 49: 1-5.

【一般向けの著作】

桑原雅之・廣田利之・藤岡康弘・亀甲武志・光永 靖・天野洋典・田畑諒一・片岡佳孝・佐藤祐一 (編) (2019) *琵琶湖博物館 第27回企画展示「海を忘れたサケビワマスの謎に迫る」展示解説書*. 琵琶湖博物館, 59pp.

- 桑原雅之（編）（2019）琵琶湖博物館第27回企画展示 関連シンポジウム「ビワマスとその仲間たちをもっと身近に」講演要旨集，琵琶湖博物館，10pp.
- 桑原雅之（2019）琵琶湖水系にすむビワマスとアマゴ．琵琶湖博物館第27回企画展示 関連シンポジウム「ビワマスとその仲間たちをもっと身近に」講演要旨集，琵琶湖博物館，p. 5.
- 桑原雅之（2019）海を忘れたサケビワマスの謎に迫る－．新琵琶湖学を拓く情報誌 びわはく（琵琶湖博物館），3：1-2.
- 桑原雅之（2019）湖岸より 348 海を忘れたサケビワマスの謎に迫る－．中日新聞，中日新聞社，7月13日．
- 桑原雅之（2019）日曜日に知る 琵琶湖の魚たち ビワマスは意外としたたか．産経新聞，産経新聞社，7月14日．
- 桑原雅之（2020）琵琶湖の魚の不思議と謎5 アマゴとヤマメ．Walton (Walton 舎)，Vol. 09：16-21.
- 桑原雅之（2020）日曜日に知る 琵琶湖の魚たち アマゴ、ビワマスと共存の謎．産経新聞，産経新聞社，3月15日．

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 桑原雅之（2020年3月20日）琵琶湖水系におけるビワマスとアマゴの共存可能性．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖水系に生息するアマゴの遺伝的由来に関する情報の収集」，（2019年度）．
- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖固有亜種とされるビワマスにおける遺伝的多様性の変化」（研究代表者：桑原雅之），研究代表者（2018年度～2019年度）．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，10件．

フィールドレポーター，副担当．

2019年7月28日，第3回 ここ滋賀 サイエンスセミナー，「海を忘れたサケビワマスの謎に迫る－」，滋賀県情報発信拠点「ここ滋賀」2階「日本橋 滋乃味」，講演．

2019年8月28日，企画展示案内，博物館実習，琵琶湖博物館，講師．

2019年9月14日，琵琶湖水系にすむビワマスとアマゴ，琵琶湖博物館第27回企画展示関連シンポジウム ビワマスとその仲間たちをもっと身近に，琵琶湖博物館，講演．

他の博物館・機関等主催行事

2019年4月28～29日，講演「川にすむ生き物と私たちの暮らし」，広河原里山フェスティバル（広河原自治振興会），講師．

2019年8月27・29日，講演「淡水魚の生態と分類」，淡水魚①（シニア自然大学），NS21ビル（大阪市），講師．

2019年9月2・5日，実習指導「淡水魚の採集と同定」，淡水魚②（シニア自然大学），大戸川（津市），講師．

2019年11月14日，見学案内，琵琶湖博物館見学会（シニア自然大学），琵琶湖博物館，講師．

メディアへの協力

2019年7月7日，京都新聞，凡語．

2019年7月19日, 朝日新聞, 遊・You・友 企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」.
2019年7月23日, 中日新聞, ビワマスの謎の生態パネルや剥製で迫る 琵琶湖博物館展示.
2019年8月2日, 読売新聞, 海を忘れたサケ〜ビワマスの謎に迫る〜.
2019年8月22日, 読売新聞, ビワマスの生態に迫る.
2019年8月22日, 滋賀報知新聞, 県立琵琶湖博物館 ビワマスの謎に迫る企画展.
2019年8月30日, 京都新聞, 琵琶湖博物館で企画展 ビワマス 30年の研究成果紹介 交雑の実態や遡上調査.
2019年9月10日, 滋賀プラス1 Vol. 181, 企画展示関連シンポジウム「ビワマスとその仲間たちをもっと身近に」.
2019年9月27日, 読売新聞 (しが県民情報), 企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」.
2019年10月9日, 産経新聞, 県立琵琶湖博物館で企画展 ビワマスの謎に迫る.
2019年10月9日, 毎日新聞, なるほど! ビワマスの生態はどこまでわかってるの? 帰ってくる場所「大体この辺り」個性さまざま近年の研究で判明.
2020年3月2日, NHK, ワイルドライフ「今森光彦とめぐる 巨大水系に命あふれる」, 出演.
2020年3月12日, 琵琶湖放送, きょうみまんさい, 出演.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集, 担当.

水族資料維持管理, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理, 担当.

第27回企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」(2019年7月20日〜11月24日), 主担当.

第31回水族企画展示「ビワマスと仲間たち」(2019年7月20日〜9月8日), 主担当.

モーニングレクチャー, 講義, 1回(4日).

展示交流員と話そう, 内容指導.

【広報営業活動】

企画展示案内, ダイフク株式会社, 2019年9月19日, 案内.

【研究部関連事業】

第27回企画展示関連シンポジウム「海を忘れたサケービワマスの謎に迫る」, 企画・運営, 2019年9月14日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2019年9月29日〜10月3日, ロシアイルクーツク リストヴィヤンカ(バイカル博物館), 水族関係展示生物捕獲依頼および引き継ぎ.

【館外の活動】

米原市ビワマスプロジェクト, 生態アドバイザー.

大津市科学館運営協議会, 委員.

オサムシ科を中心に昆虫の系統進化および生物地理を明らかにすることを研究目標としている。また、地域の人たちとともに滋賀県の昆虫相を解明することを目指している。

研究活動では、琵琶湖博物館ブックレット『琵琶湖のまわりの昆虫—地域の人びとと探る—』を出版した。この本は、地域の人たちと一緒にいった琵琶湖とそのまわりの昆虫に関する研究や、おもしろいと思っている話題をトピック形式で紹介したものである。第1章では、「昆虫を調べる」と題して、地域の人たちと一緒に研究してきた成果を中心に執筆した。第2章の「昆虫の移り変わり」では、過去には生息していたが、現在は絶滅した昆虫、逆に過去にはいなかったが現在は増えている種類など、琵琶湖とそのまわりの昆虫相の移り変わりについてのトピックを紹介した。コラムでは、博物館のまわりで見られるおもしろい生態や奇妙な形の昆虫を紹介した。第3章の「昆虫の分布と暮らし」では、琵琶湖とそのまわりの昆虫の分布や暮らしからこの地域がどのようなところかを紹介した。第4章の「昆虫と人」では、琵琶湖とそのまわりの昆虫の研究を支えてきた、また今後支えるだろう人たちを紹介し、昆虫と人との関係について執筆した。この本が、琵琶湖とそのまわりの昆虫の関心を呼び起こし、さらに今後の琵琶湖とそのまわりの昆虫に関する研究の進展につながればと期待している。

専門分野の著述としては、古琵琶湖層群の昆虫化石について、「昆虫と自然」で紹介した。本稿では、古琵琶湖層群から産出した昆虫化石の記録を表にまとめた。琵琶湖博物館の甲虫コレクションについて概要や今後の課題について「さやばねニューシリーズ」に解説記事を執筆した。

事業活動では、交流係長として交流係の分掌事務の総括を担当した。また、生物多様性びわ湖ネットワークが主催のギャラリー展示「トンボ100大作戦 ～滋賀のトンボを救え～」を担当した。滋賀県博物館協議会の広報委員会の幹事を務めとりまとめを行った。毎日新聞の連載「名品手鑑 ～滋賀の博物館・美術館探訪」の担当、新連載「名品手鑑II ～滋賀の博物館・美術館探訪」の企画・立案、県博協だよりの編集を行うなど広報委員会の活動を進めた。

印刷物

【専門分野の著作】

八尋克郎 (2019) 古琵琶湖層群の昆虫化石. *昆虫と自然*, 55 (1) : 16-19.

八尋克郎 (2019) 甲虫コレクションガイド 15 滋賀県立琵琶湖博物館の甲虫コレクション. *さやばねニューシリーズ*, 35 : 8-10.

八尋克郎 (2020) 琵琶湖のまわりの昆虫—地域の人びとと探る—. *琵琶湖博物館ブックレット (サンライズ出版)*, 10, 125pp.

【一般向けの著作】

八尋克郎 (2019) 名品手鑑 ～滋賀の博物館・美術館探訪「醒井木彫美術館」, *毎日新聞*, 毎日新聞社, 6月18日.

八尋克郎 (2019) 湖岸より 355 はしかけ「虫架け」の活動, *中日新聞*, 中日新聞社, 10月12日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

八尋克郎・中西康介・牛島積広 (2019年5月17日) 滋賀県昆虫目録の公開. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「古琵琶湖層群から産出した昆虫化石」, (2019 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本環境動物昆虫学会第 13 期環境アセスメント動物調査手法研究部会, 運営委員, 2010 年 2 月～.

滋賀オサムシ研究会, 事務局, 1997 年度～.

地表性甲虫談話会会報, 編集幹事, 2004 年度～.

Ecological Research, 査読, 1 件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2020 年 1 月 8 日, 滋賀県立大学学芸員資格講義, 「博物館資料保存論」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 10 件.

インターネットを通じた質問への対応, 昆虫に関する質問への回答, 4 件.

2019 年 7 月 6 日, 希望が丘自然観察会 (夏のトンボと昆虫), 薬師 (竜王町), 講師.

2019 年 7 月 15 日, 里山体験教室, 大篠原 (滋賀県野洲市), 講師.

2019 年 7 月 30 日, 昆虫班, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師, (滋賀県中学校理科部会共催).

2019 年 8 月 3 日, フィールドレポーターアカトンボマーケティング調査, 琵琶湖バレイ (大津市), 講師.

2019 年 8 月 27 日, 昆虫乾燥標本の整理と製作, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2019 年 8 月 30 日, 交流事業について, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

2019 年 9 月 6 日, はしかけ制度、おとなのディスカバリーについて, 地底の森ミュージアム.

2020 年 2 月 16 日, はしかけ、フィールドレポーター制度について, 北海道博物館.

2020 年 2 月 19 日, 博物館の概要, 茨城県霞ヶ浦環境科学センター.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫乾燥標本, 貸出し, 1 件.

昆虫乾燥標本, 特別観覧, 2 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ギャラリー展示「トンボ 100 大作戦～滋賀のトンボを救え～」(2020 年 1 月 19 日～2 月 16 日), 展示担当.

モーニングレクチャー, 講義, 1 回 (4 日).

【企画調整活動】

新任職員研修, 交流事業について (2019 年 4 月 11 日), 講師.

新任職員研修, C 展示室生き物コレクション (2019 年 4 月 18 日), 講師.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2018年4月1日～，滋賀県博物館協議会広報委員会，幹事.

【館外の活動】

滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会，部会長（2011年4月1日～）.

野生動植物との共生に関する検討会，委員（2012年4月1日～）.

琵琶湖環境科学研究センター・滋賀県立大学とともに共同研究「琵琶湖南湖において沈水植物の量を適正化するための条件の探索」を開始した。本研究は1930年代後半の沈水植物の生息状況を適正状態と仮定し、その状態を達成するのに必要な光条件・栄養条件・除去圧力（およびその組み合わせ）をシミュレートするものである。私は沈水植物の現存量と分布に関する情報収集を担当している。

2019年は魚探による沈水植物の分布の観測を継続すると共に、2017年度までの魚探観測の結果を取りまとめ論文としてまとめた（投稿中）。

印刷物

【専門分野の著作】

酒井陽一郎・石川可奈子・佐藤祐一・井上栄壮・芳賀裕樹（2019）水草管理による生態系再生に向けた研究。琵琶湖環境科学研究センター研究報告書（平成30年度），15，滋賀県。

www.lberi.jp/wising/file/download/1/363

佐藤祐一・酒井陽一郎・芳賀裕樹（2020）琵琶湖南湖における水草分布の過去と現在～水草消長モデルを用いた再現～。第54回日本水環境学会年会講演集，p. 401.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

里口保文・加三千宣・林 竜馬・芳賀裕樹（2019年8月24日）琵琶湖南湖の堆積速度。第四紀学会2019年大会，千葉科学大学（千葉県銚子市），[口頭発表（共同発表者）]。

酒井陽一郎・芳賀裕樹・石川可奈子（2019年11月7日）琵琶湖南湖における沈水植物の繁茂と湖底栄養塩の関係。第22回自然系調査研究機関連絡会議，三方青年の家（福井県敦賀市），[口頭発表（共同発表者）]。

芳賀裕樹（2019年11月15日）南湖の沈水植物は消えたのか？。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「南湖志那沖の湖底地形の把握」，（2019年度）。

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖南湖において沈水植物の量を適正化するための条件の探索」（研究代表者：芳賀裕樹），研究代表者（2017～2019年度）。

琵琶湖環境科学研究センター政策課題研究6「水草管理による生態系再生に向けた研究」（代表者：酒井陽一郎），研究分担者（2017～2019年度）。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年11月10日，立命館大学理工学研究科環境都市工学科 湖上実習，琵琶湖（浜大津～沖島）。

2019年12月18日，龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科，特別講義「琵琶湖南湖の沈水植物の消長」，龍谷大学瀬田学舎（大津市）。

2019年12月23日・24日，追手門大学附属中学校，サイエンスキャンプ，講師，琵琶湖博物館。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，12件。

2019年8月29日～31日，ユニバーサルデザインと博物館，博物館学実習，琵琶湖博物館，指導。

他の博物館・機関等主催行事

2019年10月18日，講演「琵琶湖における環境の現状や課題について」，研修会（吹田市人権啓発推進協議会），琵琶湖博物館，講師。

2019年11月12日，講演「琵琶湖における環境の現状や課題について」，研修会（吹田市人権啓発推進協議会），琵琶湖博物館，講師。

2019年11月14日，講演「琵琶湖における環境の現状や課題について」，研修会（吹田市人権啓発推進協議会），琵琶湖博物館，講師。

2019年12月19日，講演「琵琶湖の水草について」，琵琶湖遊漁船業協会，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2019年8月2日，琵琶湖について・展示解説，琵琶湖保全再生にかかる関係府県市担当者会議。

2019年8月28日，樹冠トレイルおよび琵琶湖について・展示案内，大阪市交道路室・滋賀県道路課。

2019年11月28日，展示リニューアルについて・展示解説，福井県博物館協議会。

2019年12月10日，琵琶湖博物館の紹介・展示案内，湖南省市幹部研修団。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館情報システム，管理統括。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第27回企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫るー」（2019年7月20日～11月24日），副担当。

モーニングレクチャー，講義，1回（4日）。

他博物館・機関の活動

滋賀県統計課，統計グラフコンクール優秀作品展（2019年12月26日～2020年1月8日），琵琶湖博物館，展示協力。

【企画調整活動】

他機関等との共催事業，調整。

子供ロケット教室（草津未来プロジェクトと共催），運営（2019年4月6日，セミナー室・駐車場）。

株式会社伊藤園「お茶で琵琶湖を美しく。」キャンペーン活動報告と寄付金贈呈式（琵琶湖保全再生課と共催），運営（2019年4月12日，琵琶湖博物館アトリウム）。

講演会「昆虫写真家 海野和夫の生き物写真のススメ」（生き物写真リトルリーグ実行委員会と共催），運営（2019年5月18日・琵琶湖博物館屋外展示・セミナー室）。

子供ロケット教室（草津未来プロジェクトと共催），運営（2019年7月25日，セミナー室・駐車場）。

外輪船ミシガン夏休み展示企画（琵琶湖汽船と共催），設置・運営，（2019年7月13日～9月1日，琵琶湖湖上）。

ICOM 京都大会 NATHIST エクスカーション，企画・統轄（2019年9月6日，県庁→針江→尾上→琵琶湖博物館→県庁）。

子供ロケット教室（草津未来プロジェクトと共催），運営（2019年9月7日，セミナー室・駐車場）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

水草対策チーム（滋賀県），委員（2019年度）。

魚たちのにぎわいを復活させるプロジェクト会議（滋賀県），委員（2019年度）。

南湖湖底環境改善検討会（滋賀県），委員（2019年度）。

2019年度は、2014年度から始まった滋賀県琵琶湖環境部 自然環境保全課 生物多様性戦略推進室の兼務が6年目を迎えた。勤務体制は、前年度と同様に県庁での兼務は週1日、本務の博物館での勤務が週4日と、博物館勤務が主となった。

今年度の研究活動としては、まず、オオクチバス等外来魚に関する研究の成果に関して、主として福島県三春ダム貯水池と岡山県苫田ダム貯水池における成果を水源地生態研究会の報告書に総説としてまとめた。また、前年度招待されたアメリカ水産学会の国際ライギョシンポジウムの論文集に、日本におけるライギョへの対応に関する歴史的経緯をまとめた論文を投稿し、出版された。滋賀県・琵琶湖における外来種の現状と対策に関しては、2012年に出版され改訂・第2版の出版が準備されている「Lake Biwa: Interactions between Nature and People」の分担執筆箇所の原稿3編が印刷中となっている。

今年度から、滋賀県立大学の上河原献二教授を代表者とするオオバナミズキンバイ等の行政対応のあり方を国際比較する文部科学省科学研究費(基盤研究C)に分担者として参加し、研究者の立場で鹿児島県や千葉県、大阪府などオオバナミズキンバイ問題を抱えた地域への視察・調査も行い、情報を共有し、対応方針等の助言を行った。

在来・固有種に関しては、東北大学の平野氏らとともに、琵琶湖産を含めたタニシ科貝類の種分化をDNA分析によって論じた成果を、論文として発表した。地元河川の生物・環境調査を行う「湖南企業生きもの応援団」の活動支援は10年目が終わり、大きな節目を迎えた。

事業活動では、総務部企画調整課への配属が2年目となり、主な分担業務として、業績目録・年報の発行、来館者アンケートの実施等を分掌した。

兼務先の滋賀県自然環境保全課では、過年度に引き続き、侵略的外来水生植物のオオバナミズキンバイ・ナガエツルノゲイトウを主な対象とし、防除事業を戦略的に実施することが主要な業務であった。関係者との連携や普及啓発を深めるとともに、「できるだけ残さない除去」と「できるだけ再生させない管理」を基本方針とする対策事業を進めた。前年度末までは年度末の残存生育面積を3カ年連続で減少させてきたが、今年度は効率的な駆除が可能な大規模群落は矢橋中間水路の1箇所のみとなり、それを完全に駆除したことで、「琵琶湖全体を管理可能な状態(=年度初めの時点で機械駆除が必要な規模の群落が存在しない状態)に置く」という短期目標が達成できる目処が立ってきた。しかし、大規模に生育しながら駆除が困難なヨシ植栽地や浮き産卵床は残されたままであり、石組み護岸や湖岸植物との混生など駆除が技術的に困難な群落への対応方法の開発を含め、今後の大きな課題である。

また、昨年度末改正した「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」に関連して、指定希少野生動植物種4種、指定外来種6種類を追加指定する作業を支援した。また、本条例の運用のための基礎情報として重要な「滋賀県外来種リスト」を時点修正した「滋賀県外来種リスト(2019年12月改訂版)」をウェブ公開した。4年目を迎えた関西広域連合の「関西の活かしたい自然エリアエコツアー」の企画・運営を引き続き支援し、東播磨のため池・湿原をめぐるツアーの添乗解説も行った。

印刷物

【学術論文】

Nakai, K. (2019) Historical review of introduced snakeheads in Japan. In: Odenkirk, J. S. and Chapman, D. C. (eds.) Proceedings of the First International Snakehead Symposium (American Fisheries Society Symposium, 89), *American Fisheries Society*, Bethesda, pp.185-202.

Hirano, T., Saito, T., Tsukamoto, Y., Koseki, J., Prozorova, L., Tu, D. V., Matsuoka, K., Nakai, K. and Chiba, S. (2019) Role of ancient lake for genetic and phenotypic diversification of freshwater snails. *Molecular Ecology*, 28 (23), 5032-5051. DOI: 10.1111/mec.15272.

【専門分野の著作】

中井克樹・沖津二郎・浅見和弘・大杉奉功・笹田直樹 (2020) ダム湖における侵略的外来魚の生息抑制手法. In: 水源地生態研究会 (編) *水源地生態研究会報告書*, (一財) ダム水源地センター, 東京, pp. 2-103-2-110.
源 利文・速水花奈・福岡有紗・池田紗季・後藤成美・坂田雅之・稲川崇史・沖津二郎・片野 泉・土居秀幸・中井克樹・一柳英隆・後藤 亮・宮 正樹・佐藤博俊・山中裕樹 (2020) ダム湖における環境 DNA による生物調査の実装化に向けた検討. 同上, pp. 7-29-7-39.

【一般向けの著作】

中井克樹 (2019) 秋の日の記憶. In: 日比伸子さん追悼録企画編集委員会 (編), *追悼集 日比伸子さんを偲ぶ*, p. 66.
中井克樹 (2019) 湖岸より 356 型破りな台風 思わぬ置き土産. *中日新聞滋賀版*, 中日新聞社, 10月26日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

中井克樹 (2019年5月17日) 湖南企業いきもの応援団との連携. 琵琶湖博物館事業セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
中井克樹 (2019年6月1日) 琵琶湖の外來魚など外來種問題、最近の話題～「シェアリングネイチャー」が難しい外來種. 第20回全国区ネイチャーゲーム研究大会 分科会ワークショップE「見る、感じる、琵琶湖博物館と釣り体験 ((公財) 日本シェアリングネイチャー協会・滋賀県シェアリングネイチャー協会), 琵琶湖博物館, [講師].
中井克樹 (2019年7月27日) 司会・進行 (発表8～10担当). 滋賀自然環境研究会第29回研究発表会, 大学サテライト・プラザ彦根 (彦根市), [座長].
中井克樹 (2019年8月26日) 琵琶湖における侵略的外來水生植物の現状: 対策協議会と滋賀県の取組. 水陸両生の侵略的外來植物の管理に関するワークショップ (滋賀県立大学環境科学部水陸両生外來植物管理研究会), 琵琶湖博物館, [口頭発表].
Kouno, K., Takada, R. and Nakai, K. (2019年9月5日) When an artist meets natural history museums: technical development to create lifelike models of live land snails. ICOM-Kyoto 2019 Off-site Meeting “NATHIST” (International Council of Museums Committee for Museums and Collections of Natural History), 大阪市立自然史博物館 (大阪市), [ポスター発表].
中井克樹 (2019年9月17日) ダム貯水池における侵略的外來魚オオクチバスの繁殖抑制手法としての人工産卵装置の技術開発. WEC 応用生態研究助成発表会 (第13回), (一財) 水源地環境センター (東京都千代田区), [口頭発表].
中井克樹 (2019年9月20日) 自然保護行政を兼務して: 行政における課題と博物館への期待. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
中井克樹 (2019年9月23日) 貝類標本が示す Vega 号の日本での足跡および混在資料の重要性. 2019年度日本魚類学会シンポジウム「スウェーデンの Vega 号が採集した 140 年前の日本産標本群の意義—分類的研究に基づく標本の役割を再考: 過去の生物多様性復元、今日の環境保全、未来世代への記録と保存」, 高知大学朝倉キャンパス (高知市), [口頭発表].
滝川祐子・瀬能 宏・藤田朝彦・川瀬成吾・細谷和海・西野麻知子・中井克樹 (2019年9月23日) Vega 号標本を事例とした総合討論. 2019年度日本魚類学会シンポジウム「スウェーデンの Vega 号が採集した 140 年前の日本産標本群の意義—分類的研究に基づく標本の役割を再考: 過去の生物多様性復元、今日の環境保全、未

来世代への記録と保存」, 高知大学 (高知県南国市), [パネリスト].

Miura, O., Urabe, M., Nishimura, T., Nakai, K. and Chiba, S. (2019年9月26~27日) Recent and rapid radiation of freshwater snails in the ancient Lake Biwa. International Seminar on Biodiversity and Evolution of Mollusks (Russian Far East Malacological Society), Marine Biological Station Vostok (Vladivostok, Russia), [口頭発表].

坂本正吾・稲川崇史・中井克樹・大杉奉功・中川博樹・片寄 仁 (2019年9月27~28日) 三春ダムにおけるブルーギルの試験的防除でみられた確認状況の変化. 応用生態工学会 2019年度 (令和元年度) 第23回全国大会 (広島大会), 広島大学東広島キャンパス (広島県東広島市), [ポスター発表].

石川加奈子・酒井陽一郎・焦春萌・中井克樹 (2019年9月30日) 侵略的外来植物ウズグオオバナミズキンバイ群落の発達に伴う溶存酸素濃度の低下と生物相に関する野外調査研究. 日本陸水学会第84回大会金沢大会, 金沢大学角間キャンパス (金沢市), [ポスター発表].

中井克樹・林 紀男・嶺田拓也・稗田真也・野間直彦 (2019年12月15日) 水田に侵入する特定外来生物指定の「水生」植物: ナガエツルノゲイトウとオオバナミズキンバイ. 第10回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館別館, [口頭発表].

中井克樹 (2020年1月26日) 水辺の外来種問題をめぐる最近の動き. 第15回外来魚情報交換会 (琵琶湖を戻す会), 草津市まちづくりセンター (滋賀県), [口頭発表].

坂本正吾・稲川崇史・中井克樹・大杉奉功・中川博樹・片寄 仁 (2020年1月26日) 三春ダムにおけるブルーギルの試験的防除でみられた確認状況の変化. 同上, [口頭発表].

中井克樹 (2020年2月22日) 滋賀県・琵琶湖の侵略的外来種, 特定外来生物, 指定外来種. 滋賀植物同好会第36回 (2020年) 定期総会/第278回例会「自然セミナー」, コラボしが21 (大津市), [記念講演].

中井克樹・林 紀男・横川昌史・伊藤彩乃・嶺田拓也・日鷹一雅・上河原献二・野間直彦・稗田真也 (2020年3月5日) 侵略的外来植物オオバナミズキンバイの国内主要水気における侵入・定着および対策状況. 第67回日本生態学会大会, 名城大学天白キャンパス (名古屋市), [口頭発表: 非開催ながら実施扱い].

橋本佳延・中井克樹 (2020年3月8日) 「自由集会 W25: 行政の生態学3—愛知目標達成に向けて, 地方行政が生物多様性主流化に果たす役割—」. 同上, [コメント: 非開催ながら実施扱い].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「淡水生物等の保全に関する研究」, (2019年度).

科学研究費助成事業 (基盤C)「侵略的外来生物管理制度における「迅速な対応」成立の社会的条件に関する国際比較研究」(研究代表者: 上河原献二), 研究分担者 (2019年度~2021年度).

環境省生物多様性保全回復施設整備交付金による滋賀県生物多様性保全回復整備事業, 実施担当者 (2017年度~).

環境省生物多様性保全推進交付金および滋賀県侵略的外来水生植物戦略的防除事業費による琵琶湖外来水生植物対策協議会事業、ならびに環境省生物多様性保全回復施設整備交付金による滋賀県事業, 事務局担当者 (2014年度~).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本生態学会自然保護専門委員会 外来種問題検討作業部会, 委員, 2001年3月~.

日本生態学会自然保護専門委員会, 近畿地区選出委員, 2013年1月~.

日本生態学会, 生態学琵琶湖賞選考委員・運営委員, 2016年11月~ (第19回~).

日本生態学会近畿地区会自然保護専門委員会, 委員, 1998年~.

日本魚類学会自然保護委員会, 委員, 2001年2月~.

日本魚類学会自然保護委員会外来魚部会, 部会長, 2014年1月~.

日本貝類学会, 評議員, 2011年1月~.

応用生態工学会普及・連係委員会, 委員, 2009年10月~.

滋賀自然環境研究会, 事務局および会誌編集委員, 2016年7月~.

阪神貝類同好会, 理事, 2000年1月~.

生物多様性ネットワーク新潟, 顧問, 2004年10月~.

全国ブラックバス防除市民ネットワーク，理事，2005年11月～。
ぼてじゃこトラスト イチモンジタナゴ復元放流検討委員会，委員，2017年1月～。
Bioinvasion 誌，投稿論文，査読，1件。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年5月10日，滋賀県立大学大学院環境科学研究科地域デザイン論，「近江の生態的特性」（鶴飼修・准教授）へのスライド提供。滋賀県立大学地域共生センター（彦根市）。

2019年6月22日，桃山学院大学，収蔵庫空間の案内・解説，博物館学実習による現地見学，琵琶湖博物館。

2019年6月23日，京都女子大学，琵琶湖博物館の概要講義，博物館学実習による現地見学，琵琶湖博物館。

2019年9月1日，東京農業大学，外来種対策に関する講義、来館者アンケートの実施協力、展示案内，環境経済研究室琵琶湖フィールドワーク，琵琶湖博物館。

2019年9月18日，滋賀大学教育学部附属中学校，講義「琵琶湖のブルーギル」・水族展示見学，BIWAKO TIME「自然科学」分科会校外学習，琵琶湖博物館。

2019年12月11日，龍谷大学環境ソリューション工学科，2019年度特別講義「生物多様性の保全に向けて：希少種保護と外来種対策」，龍谷大学瀬田学舎（大津市）。

2020年2月3日，甲賀市立綾野小学校5年，環境学習「We love びわ湖～今私たちにできること」，外来魚に関する質問への回答，電子メールでの回答。

2019年度，滋賀県立大学環境科学部4年生，国内外来魚に関する卒業論文製作における助言，質問コーナー来訪時および電子メールでの対応。

2019年度，阪南大学経済学部4年生，水族館施設における運営・管理に関する調査への協力，電話・電子メールでの依頼への対応，[金尾滋史と共同]。

桑名市立大山田南小学校6年生および3年生，カタツムリとナメクジに関する夏休み自由研究への指導・助言（図書館を使った調べる学習コンクール奨励賞受賞）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の活動

質問コーナー・フロアトーク，8回。

2019年5月11日，フィールドレポーター交流会における発表内容に関するコメント，2019年5月フィールドレポータースタッフ定例会議，琵琶湖博物館，コメンテーター。

2019年5月18日，コメント「『オオキンケイギクを調べよう』調査」および「『集まれ！モミジ（カエデ）の仲間たち』調査」，琵琶湖博物館2019年度フィールドレポーター交流会，琵琶湖博物館生活実験工房，コメンテーター。

2019年5月26日，講義「琵琶湖の概要と水生生物」および「意外と知られていないルール：生きものを捕まえるとき、飼うとき」，環境・ほっと・カフェ「大学生の環境学習リーダー養成講習会」（立命館大学 haconiwa），琵琶湖博物館，講師（松田・片岡・鶴飼・山本と共同）。

他の博物館・機関等の主催行事

2019年4月7日，絶滅危惧種の域外保全に関する助言等，希少淡水魚の保存種苗の野外水域への導入（ぼてじゃこトラスト），ため池3箇所（大津市），講師。

2019年4月20日，油日サギスゲ等生息・生育地保護区の保全に関する助言等，現地調査および定例会議（甲賀水源の自然を守る会），油日湿原および水口こどもの森（甲賀市），助言者（大槻達郎・石田未基と共同）。

2019年4月23日，狼川における生物調査の指導と結果総括，第37回調査会（湖南企業いきもの応援団），狼川および草津市南笠東公民館（滋賀県），講師。

- 2019年4月25日、講義「河川に侵入・生育する侵略的外来水生植物」, 2019年度県土木技術職員現場研修 ((公財) 滋賀県建設技術センター), 矢橋中間水路周辺バス車内 (草津市), 講師.
- 2019年5月12日、開会時あいさつおよびオオバナミズキンバイ等の駆除手法に関する指導・実演、知事説明, 第1回瀬田川流域クリーン作戦, 瀬田川 (大津市), 解説者 (自然環境保全課職員と共同).
- 2019年5月18日、サギスゲ標本個体採集確認, 油日湿原定例調査 (甲賀水源の自然を守る会), 油日湿原 (甲賀市), 助言者 (大槻達郎と共同).
- 2019年5月31日、報告「平成30年度の侵略的外来水生植物対策の取組結果」, 令和元年度琵琶湖外来水生植物対策協議会第1回総会, (一社) 環びわ湖大学・地域コンソーシアム (大津市), 報告者 (自然環境保全課職員と共同).
- 2019年6月6日、話題提供「オオバナミズキンバイの大規模群落への対策について」, 令和元年度第1回矢橋帛帆島部会 (琵琶湖流域下水道湖南中部浄化センター運営協議会), 新浜会館 (草津市), 報告者 (自然環境保全課職員と共同).
- 2019年6月6日、講義「滋賀県・琵琶湖における侵略的外来水生植物対策: 積極的駆除から持続的管理へ」, 令和元年度新任職員研修 (滋賀県琵琶湖環境部), 琵琶湖博物館, 講師.
- 2019年6月8日、観察会における質問対応等の支援, 特定外来生物オオキンケイギク学習会 (滋賀県・東近江市), 愛東コミュニティセンターおよび周辺 (東近江市), 講師 (青木 繁氏・自然環境保全課職員と共同).
- 2019年6月15日、エコツアー随行および解説, 高島地方エコツアー2019 (滋賀県自然環境保全課), 朽木生杉原生林・安曇川やな漁・針江生水の郷 (高島市), 随行員 (青木 繁氏・自然環境保全課職員と共同).
- 2019年6月17日、特定外来生物の駆除に関する助言, オオキンケイギク駆除作業 (滋賀県森林保全課), リーフの森 (栗東市), 協力者.
- 2019年7月1日・2日、絶滅危惧種保護と外来種管理の現場体験指導および講義「自然環境保全の現場体験: 希少種の保護と外来種の管理」, 飲食キャリア概論II研修授業活動 (辻調理師専門学校), 東近江市愛知川河辺林・守山川水質浄化施設・琵琶湖博物館, 講師 (自然環境保全課職員等と共同).
- 2019年7月8日、船上調査同行および講義「琵琶湖等におけるオオバナミズキンバイ、ナガエツルノゲイトウの効果的な駆除方法と管理方法について」, 湖沼の外来水生植物対策に関する最新情報交換会 (手賀沼流域フォーラム実行委員会), 手賀沼および我孫子市手賀沼親水広場水の館 (千葉県我孫子市・柏市), 講師.
- 2019年7月17日、講義「外来種問題の考え方と滋賀県・琵琶湖の事例」, 「小牧市自然環境観察人」視察研修 (小牧市環境対策課), 琵琶湖博物館, 講師.
- 2019年7月20日、外来魚釣りの指導および講義, 松元ダム外来魚駆除体験, かがしま環境未来館地域まると共育講座 (水土里ネットまつもと), 松元ダム (鹿児島市), 講師.
- 2019年7月21日、ジェット水流を用いたオオバナミズキンバイの駆除手法に関する指導・実演, 第3回瀬田川流域クリーン作戦, 瀬田川 (大津市), 解説者 (自然環境保全課職員と共同).
- 2019年7月23日、講義「みぢかな生きものたちを大切に」, 令和元年度オープンスクール in 南笠東小: 地域公開講座「狼川学習を楽しもう!」 (コミュニティ・スクール南笠東), 草津市立南笠東小学校, 講師 (湖南企業いきもの応援団と共同).
- 2019年7月25日、狼川における生物調査の指導と結果総括, 第38回調査会 (湖南企業いきもの応援団), 狼川および草津市南笠東公民館 (滋賀県), 講師.
- 2019年7月29日、「琵琶湖の水草を利用して国産小麦や野菜を育てる」研究活動・成果に関する助言, 守山市立守山中学校科学部学習会, 琵琶湖博物館, 助言者 (芦谷美奈子と共同).
- 2019年7月31日、瀧樹神社ユキワライチゲ域外保全会議, 瀧樹神社 (甲賀市), 助言者 (大槻達郎・滋賀県自然環境保全課他と共同).
- 2019年8月2日、関西広域連合エコツアー事前会議, 天満大池 (兵庫県稲美町)・網引湿原・逆池 (兵庫県加西市), 助言者 (滋賀県自然環境保全課職員・(株) 地域環境計画と共同).
- 2019年8月8日、オオバナミズキンバイ駆除イベント準備会, 鴨川五条大橋・七条大橋間 (京都市), 助言者 (京都府自然環境保全課職員と共同).

- 2019年8月19日、講義「鴨川オオバナミズキンバイ駆除活動に向けて」および駆除活動に関する助言、2019年度鴨川オオバナミズキンバイ駆除活動事前説明会（京都府自然環境保全課）、京都府京都土木事務所（京都市）、講師。
- 2019年8月20日、報告「矢橋中間水路における外来水生植物対策」、矢橋帰帆島中間水路の環境改善に向けた検討会議（滋賀県下水道課）、滋賀県南部流域下水道事務所（草津市）、報告者（滋賀県自然環境保全課職員と共同）。
- 2019年8月23日、外来魚釣りとは解剖、プランクトン採集と顕微鏡による観察の指導、コープしが夏休み宿題応援企画「びわ湖の水といきものたち」学習、烏丸半島および琵琶湖博物館、講師。
- 2019年8月24日、現地活動に関する指導・助言、琵琶湖外来水生植物除去大作戦2019事前調査（国際ボランティア学生協会）、深溝湖岸（高島市）、助言者（滋賀県自然環境保全課職員と共同）。
- 2019年8月25日、オオバナミズキンバイ駆除に関する解説・指導、2019年度鴨川オオバナミズキンバイ駆除活動（京都府・鴨川を美しくする会・（一社）鴨川流域ネットワーク）、鴨川左岸五条大橋～塩小路橋（京都市）、講師。
- 2019年9月6日～8日、オオバナミズキンバイ除去作業の支援・助言および閉会あいさつ、琵琶湖外来水生植物除去大作戦2019（国際ボランティア学生協会）、深溝ヨシ植栽地および湖西漁業協同組合針江大川船溜まり（高島市）、支援者（滋賀県自然環境保全課職員・近江ウェットランド研究会等と共同）。
- 2019年9月10日、報告「中間水路におけるオオバナミズキンバイ等への対応」、令和元年度第2回矢橋帰帆島部会（琵琶湖流域下水道湖南中部浄化センター運営協議会）、矢橋総合会館（草津市）、報告者。
- 2019年10月5日、講義「ブラックバス等の侵略的外来種が脅かす水辺の生態系：大池のかいぼりを考える」、上尾丸山公園かいぼりボランティアリーダー「上尾水辺守」第4回研修会（上尾市みどり公園課）、上平公園上尾市民球場会議室（埼玉県）、講師。
- 2019年10月8日、ツアーの企画、全体コーディネートおよびため池の生物多様性問題に関する解説、「関西の活かしたい自然エリア」エコツアー体験学習：東播磨ため池群と低層湿原における水辺環境と生物多様性（関西広域連合）、天満大池・にじいろレストラン（兵庫県稲美町）・逆池・網引湿原（兵庫県加西市）、講師（西堀智子氏と共同）。
- 2019年10月15日、狼川における生物調査の指導と結果総括、第39回調査会（湖南企業いきもの応援団）、狼川および草津市南笠東公民館（草津市）、講師。
- 2019年10月19日、狼川の生きもの展示の準備および解説パネル作成、南笠東学区合同フェスタ2019、南笠東まちづくりセンター（草津市）、事前準備指導者（湖南企業生きもの応援団として）。
- 2019年10月19日 講演「外来種がいる日本の水辺」、総合討論パネリスト、および全体講評、外来種問題シンポジウム「みんなで考えるアカミミガメのこれから」（環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室）、上智大学四谷キャンパス（東京都千代田区）、招待演者。
- 2019年10月20日、講義「Brief Introduction to Lake Biwa Museum」、展示案内および質疑応答。JICA博物館学コース研修員私的訪問団、琵琶湖博物館、講師（芦谷美奈子・戸田 孝・中村久美子と共同）。
- 2019年10月23日、排水機場および水田地帯におけるナガエツルノゲイトウの駆除方針に関する指導、入道沼ナガエツルノゲイトウ緊急対策のための現地視察（（独法）水資源機構・高島市・新旭土地改良区）、滋賀県高島市、講師（県自然環境保全課職員と共同）。
- 2019年10月24日、水質浄化施設におけるオオバナミズキンバイの対策指導と駆除、浮舟水質浄化施設オオバナミズキンバイ緊急駆除対策（草津市環境政策課・農政課・県自然環境保全課）、滋賀県草津市、講師（県自然環境保全課職員と共同）。
- 2019年10月27日、ビオトープ施設の役割や採集された魚類の解説、お魚里帰り大作戦2019（（独法）水資源機構琵琶湖開発総合管理所）、新浜ビオトープ（草津市）、講師（中尾博行氏と共同）。
- 2019年10月29日、講義「侵略的外来魚への対策：琵琶湖の事例と総合的防除の考え方」および水族展示案内、琵琶湖博物館視察研修（大町市漁業協同組合連絡協議会・大北漁業協同組合連絡協議会）、琵琶湖博物館別館、講師。

- 2019年10月30日、水田地帯におけるナガエツルノゲイトウの対策方針と駆除方法に関する解説および駆除、水田侵入したナガエツルノゲイトウ緊急駆除（東近江農業農村振興事務所・東近江市環境政策課・JA能登川）、滋賀県東近江市、講師（森 小夜子氏、県自然環境保全課職員と共同）。
- 2019年11月2日、発表内容の審査、2019年日本生態学会近畿地区会例会研究発表会、京都大学芦生研究林（京都府南丹市）、審査員。
- 2019年11月11日、侵略的外来水生植物2種の解説と駆除活動の支援、イオンリテール（株）による県内6同友店合同クリーン活動（外来水生植物駆除活動）、サンシャインビーチ（大津市）、講師（降雨につき解説のみ実施、駆除作業は中止）。
- 2019年11月12日、滋賀県指定希少野生動植物種ハマエンドウの生育状況確認と対策の助言、琵琶湖北湖西岸（大津市）、助言者（大槻達郎と共同）。
- 2019年11月15日、講演「琵琶湖におけるオオバナミズキンバイ管理の取組み」およびパネルディスカッション、農研機構農業環境技術公開セミナー in 千葉（国立研究開発法人農業・食品産業技術研究機構（農業環境変動研究センター・農村工学研究部門・中央農業研究センター）・千葉県農林水産部）、千葉商工会議所第1ホール（千葉市）、招待演者・パネリスト。
- 2019年11月19日、魚類の採集、特定外来生物の駆除の支援、淡海湖における外来魚駆除活動（高島農業農村振興事務所ほか）、支援者。
- 2019年11月21日、講義「特定外来生物オオバナミズキンバイ：やっかいな特徴と取り扱いの注意」および駆除活動の指導、森づくりサポーターオオバナミズキンバイ除去作業、びわこ地球市民の森・森作りセンターおよび河川（守山市）、講師。
- 2019年11月24日、オオバナミズキンバイ等の駆除作業支援および閉会挨拶、第5回瀬田川流域クリーン作戦、瀬田川（大津市）、解説者（自然環境保全課職員と共同）。
- 2019年12月3日、講義「厄介な水田雑草・オオバナミズキンバイ」および東串良町におけるオオバナミズキンバイ対策に関する助言、オオバナミズキンバイ対策意見交換会（東串良町農林水産係・鹿児島県土地改良事業団連合会・鹿児島県自然保護課）、東串良町役場（鹿児島県）、参加者。
- 2019年12月14日、活動の支援および助言、オオバナミズキンバイ除去活動（NPO法人国際ボランティア学生協会）、芦刈園（守山市）、助言者。
- 2019年12月15日、琵琶湖の外来水生植物対策および駆除作業に関する解説、自然観察会～初冬の湖岸散策～外来水生植物の駆除の体験と見学（滋賀県自然環境保全課）、橋爪樋門周辺（高島市）、講師（青木 繁氏と共同）。
- 2019年12月18日、事例報告「滋賀県・琵琶湖を守る取り組み：生物多様性保全の観点から」およびSDGs実践・交流塾「中小企業が経営にSDGsを落とし込むには？4」同席、滋賀グリーンネット20周年記念SDGs連続講座「これならできる！ここならできる！SDGs」第5回「生物多様性と環境・CSR研究会セミナー『生物多様性で拓く未来～2020愛知目標の10年とこれからの10年～』」（滋賀グリーン活動ネットワーク）、ピアザ淡海（大津市）、招待演者。
- 2020年1月10日、手賀沼オオバナ・ナガエ繁茂状況調査（船上調査）及び勉強会・意見交換会（美しい手賀沼を愛する市民の会）、手賀沼および手賀沼親水広場「水の館」（千葉県我孫子市・柏市）、アドバイザー。
- 2020年1月22日、狼川における生物調査の指導と結果総括、第40回調査会（湖南企業いきもの応援団）、イサム塗料株式会社滋賀支店および狼川（草津市）、講師。
- 2020年1月22日、講義「琵琶湖地域の中小企業連携で進める小規模都市河川での生物多様性保全活動」、(公財)国際湖沼環境委員会2019年度インドネシア湖沼保全研修、イサム塗料株式会社滋賀工場（草津市）、講師。
- 2020年1月28日、講演「滋賀県・琵琶湖における侵略的外来植物オオバナミズキンバイ等への対策の経緯と課題」、令和元年度印旛沼水質保全協議会・手賀沼水環境保全協議会共催勉強会、千葉県東葛飾合同庁舎（松戸市）、招待演者。
- 2020年2月1日、開会挨拶、冬季の侵略的外来水生植物駆除手法の指導、および閉会挨拶、第6回瀬田川流域クリーン作戦、瀬田川（大津市）、講師。

- 2020年2月8日，講演「外来生物法のこれまでとこれから～法制定の理念、修正の経緯、現在の課題」，シンポジウム「絶滅危惧種と外来魚問題」(全国ブラックバス防除市民ネットワーク)，自然環境研究センター(東京都墨田区)，講師。
- 2020年2月12日，報告「中間水路水草除草について～矢橋大橋東詰周辺のモニタリング区域における対応」，令和元年度第3回矢橋帰帆島部会(琵琶湖流域下水道湖南中部浄化センター運営協議会)，橋岡会館(草津市)，報告者。
- 2020年2月17日，議事概要説明と質疑応答対応，令和元年度琵琶湖外来水生植物対策協議会第2回総会，(一社)環びわ湖大学・地域コンソーシアム会議室(大津市)，担当者(自然環境保全課職員と共同)。
- 2020年2月20日，会議進行・助言，令和元年度第1回三春ダム外来魚研究会(東北地方整備局三春ダム管理所)，三春ダム管理所(福島県三春町)，座長。
- 2020年2月27日，講義「特定外来生物オオバナミズキンバイ：厄介な特徴と取扱いの注意～2度目の駆除によせて」資料作成およびオオバナミズキンバイの駆除活動への協力，びわこ地球市民の森におけるオオバナミズキンバイ合同駆除(滋賀県都市公園課・自然環境保全課・びわこ地球市民の森・国際ボランティア学生会)，びわこ地球市民の森(守山市)，講師(滋賀県自然環境保全課職員と共同)。
- 2020年3月28日，油日サギスゲ等生息・生育地保護区における埋土種子実験計画に関する現地確認と協議，油日湿原定例調査(甲賀水源の自然を守る会)，油日湿原(甲賀市)，助言者(大塚泰介と共同)。

視察対応

- 2019年4月12日，館長あいさつ同行および常設展示案内，ブラジル・リオグランデドスル州「Associação dos Amigos de Shiga(滋賀友会)」Florence Castiel da Rosa代表一行，(初宿文彦と共同)。
- 2019年5月8日，琵琶湖岸における外来水生植物の生育状況案内と対策課題協議，環境省近畿地方環境事務所野生生物課課長補佐一行，琵琶湖一周，(滋賀県自然環境保全課職員と共同)。
- 2019年5月19日，C展示室後半および水族展示室案内，湖南省視察団，(大塚泰介と共同)。
- 2019年6月12日，オオバナミズキンバイ現地視察解説および琵琶湖博物館展示案内，内閣府政府広報室・原室長一行，由美浜サンシャインビーチ(大津市)・矢橋中間水路・北山田ヨシ植栽地(草津市)・琵琶湖博物館，(滋賀県自然環境保全課職員と共同)。
- 2019年7月24日・25日，オオバナミズキンバイ現地視察および対策事業に関するヒアリング対応，千葉県環境生活部水質保全課湖沼浄化対策班一行，雄琴川(大津市)・不飲川(彦根市)等および滋賀県庁(大津市)，(滋賀県自然環境保全課職員と共同)。
- 2019年8月9日，特定外来生物の禁止条例の制定と成果について，三原市議会会派創志会行政視察団。
- 2019年8月27日，講義「琵琶湖博物館の概要」および常設展示案内，中国科学院昆明動物学研究所動物博物館館長一行。
- 2019年8月28日，認定NPO法人びわ湖豊穰の郷視察、常設展示案内および意見交換，同上，ホテルの森資料館(守山市)および琵琶湖博物館，(大塚泰介・ロビン J. スミス・大槻達郎と共同)。
- 2019年8月29日，ゴミ処理施設および下水処理施設の見学，同上，草津市クリーンセンターおよび湖南中部下水処理センター(草津市)。
- 2019年9月3日，琵琶湖博物館の概要説明および展示案内(B・C・水族展示室)，湖沼水環境保全に関する自治体連携の担当者会議現地視察。
- 2019年9月27日，外来水生植物生育地および琵琶湖博物館の展示案内，環境省外来生物対策室室長補佐現地視察，琵琶湖南湖(大津市・守山市・草津市)および琵琶湖博物館。
- 2019年10月17日，常設展示および下水処理施設の案内，中国全国政治協商会議人口資源環境委員会訪日団視察，琵琶湖博物館および湖南中部下水処理センター(草津市)。
- 2019年12月10日，英語での常設展示案内(C・水族展示室)，京都大学防災研究所水資源環境研究センターIHPトレーニングコース一行。

メディアへの協力

- 2019年4月19日, NHK 大津局・総合テレビ滋賀ローカル「まるっと平成Q～映像でふりかえる滋賀」, コメント「琵琶湖にとって平成とは?」, 収録(4月8日;琵琶湖博物館).
- 2019年5月15日, 京都新聞, 「大津の農地でカミツキガメ発見/攻撃的、注意呼びかけ」, 越冬個体の初確認等の説明, 取材(5月14日;自然環境保全課).
- 2019年6月1日, 京都新聞, 「外来水草オオバナミズキンバイ/西の湖など群落初確認/18年度末 琵琶湖では6割減」, 対策成果と課題に関するコメント, 琵琶湖外来水生植物対策協議会総会後に取材(5月31日).
- 2019年6月23日, BBCびわ湖放送「テレビ滋賀プラス1:きれいな花でも特定外来生物～オオキンケイギク・オオバナミズキンバイ～」, 放送原稿に関するコメントおよびオオバナミズキンバイの特徴と対策に関する解説, 矢橋中間水路にて取材(5月27日).
- 2019年7月号, 生活協同組合コープしが「スパイラル No.365」, 特集「自由研究のヒントがいっぱい 私たちのびわ湖」インタビュー記事, 琵琶湖博物館内でインタビュー(5月13日).
- 2019年8月26日, 京都新聞, 「鴨川のオオバナミズキンバイ/市民ら繁殖防止・駆除に汗」, オオバナミズキンバイの生態的特徴やリスクに関する解説, 鴨川現地で取材(8月25日).
- 2019年8月26日, NHK 大津局・総合テレビ滋賀ローカル「おうみ発 630・おうみ 845:特定外来生物オオバナミズキンバイ駆除の研究発表会」, 発表および現地視察の状況映像, 現地視察における取材(8月26日).
- 2019年8月27日, 中日新聞滋賀版, 「外来水草北湖で激増/昨年の台風影響か/県、新たな群落確認」, 前年の台風21号によるナガエツルノゲイトウの北湖への拡大状況について説明, 琵琶湖博物館で取材(8月15日).
- 2019年8月27日, 中日新聞滋賀版, 「駆除活動 成果や課題探る/草津で県内外研究者ら」, ワークショップ後の現地視察時の外来水草の生育状況説明, 草津市下物町湖岸で取材(8月26日).
- 2019年9月7日, 朝日放送, 「スーパーJチャンネル:琵琶湖で繁殖 外来植物『NO』学生ら挑む」, 国際ボランティア学生協会「琵琶湖外来水生植物除去大作戦2019」の撮影適地案内・事情説明(9月7日現地).
- 2019年9月7日, 関西テレビ, 「FNN Live News it!:ボランティア約250人が参加 琵琶湖の『外来植物』除去」, 同上.
- 2019年9月7日, びわ湖放送, 「BBC ニュース:外来植物除去に大学生が一役」, 同上.
- 2019年9月8日, NHK 大阪・総合テレビ関西ローカル, 「関西のニュース:外来種の水草 びわ湖北部まで拡大」, 前年の台風による北湖におけるナガエツルノゲイトウの拡大状況と対策に関する説明.
- 2019年9月30日, ラジオ関西, 「正木明の地球にいいこと:琵琶湖の話(2)」, 琵琶湖の生物多様性の現状についてパーソナリティー対談, (9月16日スタジオ収録).
- 2019年10月30日, 毎日放送, 「MINT:知っておきたい!異変ファイル#05 琵琶湖を北上“外来植物”の脅威～驚異的な繁殖力 生態系への影響も」, 前年の台風による北湖におけるナガエツルノゲイトウの拡大状況の現地取材協力, (10月10日現地取材, 写真・データ提供).
- 2019年11月6日, TBS系ネット「Nスタ545:猛威 琵琶湖で大繁殖…外来植物」, 毎日放送「MINT」の内容を編集して放送(編集過程で事実と違う内容が含まれる), (11月6日写真提供).
- 2019年11月14日, 日本テレビ系ネット「news every:異変・ダム湖埋め尽くす…ナゾの植物/一面の緑…異常繁殖のワケは?/あの日本一の湖でも…」, 前年の台風による北湖におけるナガエツルノゲイトウの拡大状況の現地取材協力, (11月4日現地取材, 写真・データ提供).
- 2019年11月28日, 日本農業新聞「外来雑草のリスク共有/農研機構と千葉県公開セミナー」, ナガエツルノゲイトウの判別点の解説, (11月15日セミナー会場で取材).
- 2020年1月23日, 朝日新聞「おおきに! 関西:『京都競馬場の池』レースにハマって さあ大変♪」, 京都競馬場の池の魚貝類調査結果を踏まえた巨椋池との関わりのコメント, (12月13日県庁で取材).
- 2020年2月9日, びわ湖放送「テレビ滋賀プラスワン:みなさまの応援で滋賀を元気に!～滋賀県応援寄附～」, 「美しい琵琶湖の環境を守ろう」の例としてオオバナミズキンバイ駆除の解説, (5月27日取材映像).
- 2020年3月22日, 読売新聞「ヌートリア作物被害深刻/高い繁殖力 目撃情報急増/県 積極駆除へ研修方針」, 滋賀県におけるヌートリアの生息拡大状況と研修等の対応についてコメント.
- 2020年(ネット公開), 滋賀県温暖化映像(びわ湖放送制作), (1月31日樹冠トレイルで取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料データベース 両生類・爬虫類標本, 担当.

他の博物館・施設等の活動

滋賀県自然環境保全課, 「滋賀県外来種リスト (2019年12月改訂)」の編集・ウェブ公開.

滋賀県自然環境保全課, 滋賀県指定外来種の新規指定資料 (ヒメリンゴマイマイ、カワリヌマエビ属) における写真提供.

京都府自然環境保全課, 2019年度鴨川オオバナミズキンバイ駆除活動における駆除手法解説チラシへのパワーポイント資料の提供.

印旛沼流域圏交流会ブログ, 「侵略的外来水草の管理・駆除に関する勉強会 (その2)」(2020年3月4日投稿) へのパワーポイント資料の提供.

手賀沼流域フォーラム (編) 「2019年度事業報告書」の掲載原稿へのパワーポイント資料の提供.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

液浸収蔵庫 (魚類、貝類、両生類・爬虫類)、および動物収蔵庫 (貝類), 担当.

タンガニイカ湖産ウロコ食カワスズメ科魚類標本の頭部骨格・筋肉系の三次元分析のための標本資料観覧および貸し出し対応, 龍谷大学・愛媛大学 (田畑諒一と共同).

京都大学理学部動物学教室からのタンガニイカ湖および琵琶湖産魚類液浸標本ならびに魚類頭部骨格乾燥・液浸標本, 寄贈受け入れ (田畑諒一と共同).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員モーニングレクチャー (2019年9月24日～27日), 「おとなのディスカバリーにおけるカタツムリフィギュア」, 1回 (4日).

研究スタジアム「人工産卵装置」展示 (2019年6月30日まで).

ディスカバリーボックス「かたつむり」(担当: 南) 製作に関する助言 (金尾滋史と共同).

2020年度第28回企画展示「守りたい! 少なくなった生き物たちー未来へつなぐ地域の宝物ー (仮題)」の企画・設計 (副担当: 松岡由子と共同; 主担当: 松田征也).

他の博物館・施設等の活動

カタツムリ博物館「ラセン館」(京都府木津川市) の展示標本の同定確認等開設支援 (9月5日).

【企画調整課活動】

来館者アンケートの実施 (2019年8月9日～11日).

琵琶湖博物館業績目録第23号および2018年度琵琶湖博物館年報, 編集・発行担当.

琵琶湖博物館新任職員等研修の実施, 担当 (2019年4月11日・18日).

新任職員研修, C展示室生きものコレクション「陸生貝類」「両生・爬虫類」「外来生物」の解説 (4月18日).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2014年4月～, 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課生物多様性戦略推進室主幹を兼務.

【館外の活動】

滋賀県生きもの総合調査委員会魚貝類部会，専門委員（1997年～）。

滋賀県野生動植物との共生に関する検討会，外来種問題検討委員及び水生生態系部会員（2003年5月～）。

京都府外来種実態調査専門委員会，陸淡水産貝類担当委員（2016年～）。

京都府希少野生生物保全推進員（2018年1月～）。

京都府レッドデータ調査選定・評価委員会，委員（魚類部会・無脊椎動物部会）（2019年6月～）。

環境省希少野生動植物種保存推進員（1997年～）。

環境省特定外来生物分類群専門家グループ（無脊椎動物），委員（2004年～）。

環境省特定外来生物分類群専門家グループ（魚類），委員（2014年1月～）。

環境省アカミガメ対策検討ワーキンググループ，委員（2015年～）。

環境省外来生物法施行状況の検討会，委員（2019年～）。

農林水産省東海農政局外来貝類被害防止対策検討調査連絡会，座長（2014年～）。

国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所河川保全利用委員会，委員（2004年8月～）。

国土交通省東北地方整備局三春ダム管理所三春ダム外来魚研究会，座長（2012年1月～）。

（公財）リバーフロント研究所「河川水辺の国勢調査スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，貝類担当委員（1999年2月～）。

（一財）水源地環境センター「河川水辺の国勢調査（ダム湖版）スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，貝類担当委員（1999年10月～）。

大津市環境影響評価専門委員会，委員（2017年～）。

草津市立渋川小学校「渋川小エコスクール」支援委員会，委員（2019年6月～）。

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化し、地理的に広がっていったのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、世界の中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

研究面では、文部科学省の科学研究費補助金 (科研費) の研究「アフリカ大陸における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」において研究代表者として、2020年2月8日から4月26日の間、ケニア、タンザニア、モザンビーク、南アフリカにおいて調査を行った。また、国内においては福島県只見町が運営する令和元年度「自然首都・只見」学術調査研究助成金を受けての研究「只見に生息する水生双翅目昆虫の多様性と保全」において研究代表者として、6月、7月、8月に只見町において現地調査を行った。北海道浜中町が運営する令和元年度霧多布湿原学術研究助成を受けての研究「霧多布湿原および周辺水域における水生双翅目昆虫の多様性」において研究代表者として、7月、8月、9月に霧多布湿原および周辺水域において現地調査を行った。これらの地域に固有な種 (未記載を含む) を多数採集できた。この他、日本各地で多数の水生双翅類標本が収集され、現在、標本作製を行っている。

事業面では、第3期リニューアルのICT整備の一環としてデジタルサイネージの新規導入と交流員が展示室で使用するPHSの整備を行い、通話が通じにくかったエリアを解消することができた。デジタルサイネージはエントランスの風除室に2台設置され、館内の案内に用いられている。

印刷物

【一般向けの著作】

- 榎永一宏 (2019) 「おとなのディスカバリー」であなたも発見!。びわはく (琵琶湖博物館), 3:1.
榎永一宏 (2019) 湖岸より 358 フィールドワークから得られるもの。中日新聞, 中日新聞社, 11月23日。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 榎永一宏 (2019年12月20日) 福島県只見町におけるアシナガバエの多様性。琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
榎永一宏 (2020年1月26日) 只見町におけるアシナガバエの多様性。令和元年度「自然首都・只見」学術調査研究成果発表会, 朝日振興センター (福島県只見町), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「水生双翅目昆虫アシナガバエ科の分類学的研究」, (2019年度).
科学研究費助成事業 (基盤C)「アフリカ大陸における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」(研究代表者: 榎永一宏), 研究代表者 (2018~2020年度).
令和元年度 霧多布湿原学術研究助成「霧多布湿原および周辺水域における水生双翅目昆虫の多様性」(研究代表者: 榎永一宏), 研究代表者 (2019年度).
令和元年度「自然首都・只見」学術調査研究助成金「只見に生息する水生双翅目昆虫の多様性と保全」(研究代表者: 榎永一宏), 研究代表者 (2019年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

International Congresses of Dipterology, Members of the Council, 2014年8月～.

日本昆虫学会, 電子化推進委員, 2015年4月～.

Entomological Science, Associate Editors, 2020年1月～.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアートーク・質問コーナー, 12件.

インターネットを通じた質問への対応, 昆虫に関する質問への回答.

2019年8月26日, 博物館での展示について, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2019年8月26日, おとなのディスカバリーについて, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2019年6月8日, 講演「ホタルの生態について」, 環境講座「ホタルは環境保全のバロメーター」(栗東市教育委員会生涯学習課), コミュニティセンター金勝(栗東市), 講師.

視察等への対応

2019年7月25日, リニューアルの視察, ヤンマーミュージアム.

2019年12月22日, 生涯学習時代における生涯学習施設の現状及び今後のあり方についての視察, 倉敷芸術科学大学芸術学部.

メディアへの協力

2019年12月12日, 読売新聞 しが県民情報, びわ博カルタについて, 取材インタビュー.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫液浸標本データベース, 維持管理.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

液浸収蔵庫維持管理, 担当.

日本産の昆虫の収集・整理(液浸, 乾燥とも), 500件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室・「運営これからの琵琶湖」コーナー, 展示更新と維持管理.

E展示室・「おとなのディスカバリー」, 維持管理.

研究最前線更新, 1回.

モーニングレクチャー, 講義, 1回(4日).

【企画調整活動】

新任職員研修, 展示事業について(2019年4月11日), 講師.

新任職員研修, おとなのディスカバリー(2019年4月11日), 講師.

新任職員研修, C展示室これからの琵琶湖(2019年4月18日), 講師.

新任職員研修，おとなのディスカバリー（2019年4月18日），講師.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第3期リニューアル，デジタルサイネージ設置.

第3期リニューアル，交流員 PHS 整備.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2019年度，地方衛生委員会委員.

2019年度，生物多様性しが戦略推進会議連絡員.

【海外渡航】

2020年2月10日～4月26日，ケニア、タンザニア、モザンビーク、南アフリカ、アフリカ野外調査，科研費（研究課題：アフリカ大陸における海洋性双翅目昆虫の分散と進化（研究代表者：榊永一宏））.

【館外の活動】

滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会，専門委員（2003年4月～）.

以下の研究を行なった：日本の水田に生息する *Ilyocypris* 種(シカクカイミジンコ属)の分類についての研究を完了して、*Zootaxa* 学術誌で出版した。アイスランドの研究者と共同で行なっていたアイスランドの淡水カイミジンコについての研究を完了して、*Journal of Crustacean Biology* 学術誌で出版した。日本の水田に生息する Cyprinotinae 種 (コブカイミジンコ亜科)の分類についての研究を完成させて提出した。中国の研究者と共同で行なっていた、チベットのカイミジンコの分類についての研究を開始した。ドイツの研究者と共同で行なっていた、手足が付いているカイミジンコの化石のレビューを開始した (招待された論文)。日本のカイミジンコデータベースを拡大した。対馬にて淡水カイミジンコの調査を行なった。

印刷物

【学術論文】

- Smith, R. J., Zhai, D. and Chang, C. Y. (2019) *Ilyocypris* (Crustacea: Ostracoda) species in North East Asian rice fields; description of one new species, and redescriptions of *Ilyocypris dentifera* Sars, 1903 and *Ilyocypris japonica* Okubo, 1990. *Zootaxa*, 4652, 56–92.
- Alkalaj, J., Hrafnisdottir, T., Ingimarsson, F., Smith, R. J., Kreiling, A-K, and Mischke, S. (2019) Distribution of Recent non-marine ostracods in Icelandic lakes, springs, and cave pools. *Journal of Crustacean Biology*, 1–11. doi:10.1093/jcbiol/ruz008.

【一般向けの著作】

- スミス, ロビン ジェームス (2019) 湖岸より 354 地球上に生命 何種存在するか. *中日新聞*, 中日新聞社, 9月23日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- スミス, ロビン ジェームス (2019年7月19日) 田んぼのカイミジンコの分類学について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「東アジアのカイミジンコデータベースの拡大」, (2019年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Zootaxa, 編集者, 通年.

Zootaxa, 査読, 1件.

琵琶湖博物館学芸員の書いた英文 (論文等) の英文添削.

カイミジンコの国際リサーチグループのコミュニケーションオフィスに選ばれた, 2017年8月28日～.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2018年11月14日～2019年11月13日, カイミジンコの分類学, 講義・大学院生の指導.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 11 件.

視察対応

2019 年 5 月 25 日, 講義・見学案内, 同志社大学リーディング大学院学生.

2019 年 6 月 20 日, 講義・見学案内, タイ・カセサート大学学生.

2019 年 6 月 28 日, 講義, ミシガン州派遣団高校生.

2019 年 9 月 4 日, 講義・実習, JICA 研修員.

2019 年 9 月 5 日, 討論, タイ国立科学博物館学芸員.

2019 年 11 月 16 日, 講義, JICA 地域理解プログラム.

2019 年 11 月 23 日, 見学案内, 研究者.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

英語版ホームページの更新, 多数.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

グループ会議など, 係長, 45 回.

設備の管理 (維持, 掃除など), 係長, 多数.

文書管理 (掲載など), 係長, 多数.

マイクロアクアリウムの展示コーナー, 清掃・管理, 毎日.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 1 回 (4 日).

【企画調整活動】

ICOM 京都大会 NATHIST エクスカーション, 案内 (2019 年 9 月 6 日, 県庁→針江→尾上→琵琶湖博物館→県庁).

総合研究においては、明治大正の湖岸の農地開発の実態を調査し、機械化が進む以前の時代において、どのように琵琶湖に農地が開かれていったのかを明らかにすることを目的に調査を行った。

この時代の湖岸開発は、湖面の埋立や寄洲の拓下などによって土地が開発されたが、湖面は国有地であるから、基本的に開発者から県に申請が上がることとなっていた。一方、滋賀県庁には、歴史的文書として明治・大正時代の行政文書が保存されており、農地開発の申請許可書類も永年保存されている。これらの文書は戦災を免れたことにより、全国的にも稀なほど保存状態も良く、県指定有形文化財とされている。これらの申請書類を、数十万点に及ぶ歴史的文書中から、一定のキーワードによって抽出、閲覧し、分析を行った。閲覧文書は約1,900点、そこから約2,000筆の開発農地についてデータベース化を行うと共に国県発出の通達文書などと併せ、開発の傾向を分析した。その他に、国県の統計調査資料を使用した。

調査の結果、明治前中期の開発は埋立中心、明治後期以降の開発は、淀川改良工事实施後に湖面が陸地化した寄洲の開墾が中心であったことが分かった。また、旱害時に湖岸開発は盛んとなり、逆に水害時に開発は減少する傾向を示した。明治のごく初期を除く明治大正期約50年の内、開発が許可されたのは明治12～20年、明治39～大正6年の約20年のみであった。

淀川改良工事による水位の恒常的な低下が湖岸農地開発に及ぼした効果は極めて大きく、農民の開発意欲が高かったこともあり、工事後に開発申請が急増したが、治水を重視する県の方針により、開発は強制的に抑制されたことが明らかとなった。

開発と漁業との関係は、村落内の生業の問題として概ね調整されていたとみられ、今回の調査では大きな争論に至ったケースは確認されなかった。

専門研究においては、上記歴史的文書のほかに、明治大正期の県会会議録、国県の統計調査資料を加え調査を行った。調査の結果、湖水利用の灌漑は江戸時代から実施されていたが、それが著しい増加を示したのは、淀川改良工事後、琵琶湖水位が低下し湖岸が旱害傾向となり、また、小型の揚水機の導入が進んだ大正時代を契機としており、特に、大正11年と13年の旱魃が大きな影響を及ぼしたことが分かった。

事業活動では交流担当として、はしかけ制度全般の運営を担当した。工房を中心に田んぼ体験教室を7回企画し、延べ409名の参加者に水稲作と暮らしに関する体験、田んぼの生きものに触れる機会を提供し、参加者との交流を深めることができた。地域連携では、館内において、1件、館外において1件の講演・講師等を行った。新琵琶湖博物館創造室では、主にリニューアル展示工事の積算業務を担当した。

印刷物

【一般向けの著作】

下松孝秀 (2019) 湖岸より 353 湖岸の水田近世から大きく前進. *中日新聞*, 中日新聞社, 9月14日.

下松孝秀 (2019) 明治大正時代の琵琶湖岸農地開発の実態について. *滋賀のアーカイブズ 滋賀県県政資料室だより*, 8: 6-7.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

下松孝秀 (2019年10月26日) 明治期の琵琶湖岸農地開発の実態について. 第69回地域農林経済学会大会, 地域農林経済学会, 愛知大学豊橋キャンパス (愛知県豊橋市), [口頭発表].

下松孝秀（2020年1月17日）明治・大正期の琵琶湖岸農地開発の実態について。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

下松孝秀（2020年2月15日）明治・大正期の琵琶湖岸農地開発の実態について。琵琶湖博物館総合研究研究会，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

【研究プロジェクトへの参加】

琵琶湖博物館専門研究「明治・大正期における農業用水の湖水利用の実態について」，（2019年度）。

琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」（研究代表者：亀田佳代子），共同研究者（2019年度）。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年9月27日・10月4日，龍谷大学農学部学生，「滋賀県の農業・農政について」。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，12件。

2019年4月～2020年3月，体験教室 田んぼ体験，琵琶湖博物館，担当，7件，（中川 優と共同）。

2019年10月17日・18日，びわ博フェス2019，琵琶湖博物館，担当。

はしかけ制度運営総括，琵琶湖博物館，担当。

他の博物館・機関等主催行事

2020年1月24日，講義「琵琶湖水の農業用水利用（逆水灌漑）の成り立ちについて」，地域研修会（滋賀県土地改良事業団体連合会湖北支部），滋賀県湖北合同庁舎，講師。

視察対応

2019年7月24日，日本農業遺産認定に向けた先進地視察研修，宮崎市職員。

2019年9月4日，はしかけ制度視察研修，茅ヶ崎市教育委員会職員。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

生活実験工房，田畑の維持管理。

モーニングレクチャー，講義，1回（4日）。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第3期リニューアル 展示工事積算作成，担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2019年度，滋賀県農政水産部耕地課企画・技術管理担当，主幹を兼務。

専門研究は、琵琶湖のアユの初期成長とその間の琵琶湖環境の関係をテーマとして行っている。耳石を用いた成長解析から日間成長量や成長パターンを算出し、それらを種々の環境条件（プランクトン量、水理状況、気象状況など）と対比させることから両者の関係を見いだすことを研究目的としている。

博物館事業では、展示係として、館内の案内表示であるデジタルサイネージの運用、ディスカバリールームの運営を行った。また、第27回企画展示「海を忘れたサケ ビワマスの謎に迫る」の副担当として参画した。

水族展示業務として展示魚類等の手配、運搬、水族展示に関する飼養許可や動物採集許可の手続き等を行った。

交流サービス事業として、大学生に対して琵琶湖の水産業についての講師を務めた。

印刷物

【一般向けの著作】

片岡佳孝（2019）湖岸より 345 耳石から琵琶湖のアユの生きざまを探る。 *中日新聞滋賀版*，中日新聞社，6月1日。

片岡佳孝（2019）日曜日に知る 琵琶湖の魚たち 縄張り主張で地当たりするアユ。 *産経新聞京滋版*，産経新聞社，8月11日。

片岡佳孝（2019）日曜日に知る 琵琶湖の魚たち ワカサギ、実は国内外来種。 *産経新聞京滋版*，産経新聞社，2月16日。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

片岡佳孝（2020年1月17日）耳石から魚類の生態を探る。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年10月9日・16日，龍谷大学，「びわ湖・滋賀学（滋賀の水産）」。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー，10件，フロアトーク，6件。

2019年6月9日，みんなで湖魚料理を作ろう！<コアユ・シジミ編>，博物館で楽しもう，琵琶湖博物館，講義・実習（金尾滋史と共同）。

2019年7月28日，初心者のためのふなずし作り体験，博物館で楽しもう，琵琶湖博物館，講義・実習（松田征也・金尾滋史と共同）。

2019年11月2日，みんなで湖魚料理を作ろう！<秋のプレミアム編>，博物館で楽しもう，琵琶湖博物館，講義・実習（金尾滋史と共同）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理，担当.

魚類の病気や水質維持，担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第 27 回企画展示「海を忘れたサケービワマスの謎に迫るー」（2019 年 7 月 20 日～11 月 24 日），副担当.

デジタルサイネージ，担当.

モーニングレクチャー，講義，1 回（4 日）.

展示交流員と話そう，内容指導.

展示交流員博物館実習，水族展示の説明（2020 年 3 月 3 日・4 日・5 日），琵琶湖博物館，講師，3 回.

研究のテーマは、少花粉ヒノキのミニチュア採種園維持管理方法の確立と耐雪性スギの品種開発。スギ・ヒノキ等の林木育種は、林業種苗法により行政機関が担っている。滋賀県では、スギのミニチュア採種園による少花粉品種の種を採取して増やす方法が実用化されているが、ヒノキについては未だ管理方法が確立されておらず、試験段階となっている。本研究では、ミニチュア採種園の維持管理には欠かせない強剪定に耐えうる手法を確立するための試験を行った。ミニチュア採種園は、圃場を4区画に分け、1年ごとに、剪定、植物ホルモン接種、採種、養生と4年で1周するサイクルで育成を行う。今回の試験では、全面剪定と部分剪定の2種類の方法を実施し、懐枝の発生と実生の収穫量について比較を行う。

耐雪性スギ品種の開発については、滋賀県で唯一少花粉スギとして登録されている蒲生1号と耐雪性スギの品種交配により小花粉かつ耐雪性の品種開発を進めている。

また、昨年度のテーマであった森林環境学習「やまのこ」事業における学習プログラムについての検討についても、引き続き研究を続けており、今年度については児童の感動文を用いた事業評価の試行研究を行った。

交流事業としては、情報誌びわはく3号および4号の編集を行った。

野洲市大篠原の里山周辺で里山体験教室を年4回企画・運営し、一般の方に博物館の外へ出て実際に里山を体験してもらうことができた。

展示交流員に対し、現地での森林林業に関する研修と、植物の香り展示制作過程について館内研修を実施した。

ディスカバリールームの植物の香り展示の展示物作成を行うとともに、野外展示林とディスカバリールーム香り展示の紹介を目的として、植物の水蒸気蒸溜による芳香成分抽出体験企画を4回実施した。ディスカバリールームの植物の香り展示物製作を継続していくための人材育成として、ディスカバリールーム嘱託職員およびはしかけ緑の薬箱会員にたいし、水蒸気蒸溜法の指導・実習を行った。その他、大人のディスカバリーの植物展示の展示補助を行った。担当している、はしかけ里山の会の活動に支援をしてきた。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

山本綾美（2020年2月21日）ヒノキのミニチュア採種園維持管理方法の確立と耐雪性少花粉スギ品種開発. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー, 3件, フロアトーク, 2件.

はしかけグループ「里山の会」, 運営協力, 8件.

里山体験教室, 担当.

2019年4月21日, 里山の春を楽しむ, 里山体験教室, 野洲市大篠原, 企画運営, (はしかけ里山の会共同).

2019年5月15日, 季節の植物でアロマウォーターを作ろう, 体験教室, 琵琶湖博物館, 企画運営 (はしかけ緑の薬箱共同).

2019年7月10日, 季節の植物でアロマウォーターを作ろう, 体験教室, 琵琶湖博物館, 企画運営 (はしかけ緑の薬箱共同).

2019年7月15日, 里山の夏を楽しむ, 里山体験教室, 野洲市大篠原, 企画運営, (はしかけ里山の会共同).

2019年9月4日、季節の植物でアロマウォーターを作ろう、体験教室、琵琶湖博物館、企画運営（はしかけ緑の葉箱共同）。

2019年10月14日、里山の秋を楽しむ、里山体験教室、野洲市大篠原、企画運営、（はしかけ里山の会共同）。

2019年10月19日、ツリーハンガーを作ろう、びわ博フェス2019、琵琶湖博物館、企画運営（はしかけ里山の会）。

2019年12月4日、季節の植物でアロマウォーターを作ろう、体験教室、琵琶湖博物館、企画運営（はしかけ緑の葉箱共同）。

2020年1月19日、里山の冬を楽しむ、里山体験教室、野洲市大篠原、企画運営、（はしかけ里山の会共同）。

他の博物館・機関等の主催行事

2019年10月23日、講義「里山活動における親子活動の大切さ」、草津市子育て相談センター、琵琶湖博物館、講師。

2020年2月8日、講義「林業と森林環境について」、京都外国語大学校友会滋賀支部、琵琶湖博物館、講師。

視察等への対応

2019年11月26日、滋賀県で実施している森林環境学習の取り組みについて、日中植林・植樹国際連帯事業 公益社団法人青年海外協力協会（JOCA）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ディスカバリールーム、におってみようさわってみよう、植物の香り展示物製作。

いきものコレクション「植物分野」、展示補助。

展示交流員現地研修、森の歴史と恵みを学ぶ（2019年5月20日）、野洲市北桜および野洲市市三宅、講師。

展示交流員博物館実習、ディスカバリールーム植物香り展示物制作実習（2020年3月11日・13日）、琵琶湖博物館、講師、2回。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2019年度、滋賀県琵琶湖環境部森林政策課普及指導係・副主幹を兼務。

【館外の活動】

甲賀愛林クラブ役員、女性部部长（2019年4月～2020年3月）。

甲賀木の駅運営委員会、役員、事務局（2019年4月～2020年3月）。

くでじゅう甲賀、役員（2019年4月～2020年3月）。

くぬぎの森自然遊び広場&山の学校、代表（2019年4月～2020年3月）。

琵琶湖とその集水域における微小生物、主に動物に関して、その生態や分布に関する研究を行っている。近年琵琶湖における微小生物相が激しく変化しており、令和元年度においてもノロの発生が著しく遅れる、ウログレナが本来より早い時期に観測されるなど、これまでとは異なる発生パターンが確認されており、微小生物相の調査が必要となっている。

専門研究では「琵琶湖周辺環境とイタチムシ類の分布」というテーマで研究を行った。琵琶湖周辺では、特に水田地域において底生の微小生物であるイタチムシ類の多様性が非常に高いことがわかっている。これには水田と言う環境変動の大きなまた、琵琶湖博物館内にある人工池においては浮遊性の個体が発見されている。また、人工池より餌プランクトンを採集しているマミズクラゲの培養シャーレにおいてもイタチムシの発生が確認されており、その同定を進めている。

共同研究では「湖沼における淡水クラゲの雌雄入れ替わりの謎にせまる」というテーマで淡水に出現するマミズクラゲとその雌雄決定に関する調査研究を行った。まず、基礎データを得るための野外での水温、生息環境調査を行った。また、発生条件を明らかにするために、人工飼育も行ない、クラゲ体の発生条件、成長条件の検討を行った。現在飼育株と野外でのクラゲ体発生時期が明確に異なっており、その原因も含めて調査を続けている。

博物館業務ではマイクロアクアリウムの運営を行った。季節に応じた微小生物の展示更新を行ったほか、フロアトークにおいて発生しているプランクトン類の解説なども行った。本年度においては、新規の展示として、餌と展示環境の調整によりマミズクラゲのポリプ体の展示が可能となった。また、マミズクラゲのクラゲ体の長期的な展示も行った。

企画調整業務としては情報担当として琵琶湖博物館ウェブページの更新管理、および館内情報端末の更新作業、OSの更新作業を行った。また、新型コロナウイルスによる休館対応として、北海道博物館が提唱する「おうちミュージアム」への参加に伴い、博物館ホームページ内に「おうちミュージアム」ページを立ち上げた。

印刷物

【一般向けの著作】

- 鈴木隆仁 (2019) 湖岸より 344 生き様を変えてお相手探し—マミズクラゲ—. *中日新聞*, 中日新聞社, 5月25日.
- 鈴木隆仁 (2020) こだわり展示の裏話 58 おうちミュージアム イン びわ博. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 3月31日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 鈴木隆仁 (2019年6月21日) 薄型水槽におけるオカメミジンコの長期飼育法. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖周辺環境とイタチムシ類の分布」, (2019年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「湖沼における淡水クラゲの雌雄入れ替わりの謎にせまる」(研究代表者: 鈴木隆仁), 研究代表者 (2019年度~2021年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年5月9日，豊中高校 SSH，イカ解剖実習，大阪府立豊中高校（豊中市），講師。
2019年6月22日，桃山学院大学博物館実習，プランクトン実習，琵琶湖博物館，講師。
2019年7月13日，京都府立南陽高校，「夏季実習事前学習」，琵琶湖博物館，講師。
2019年8月3日・7日，京都府立南陽高校，「夏季実習」，琵琶湖博物館，講師。
2019年10月23日，県立川瀬中学校，プランクトン実習，琵琶湖博物館，講師。
2019年11月17日，大阪府立豊中高校，プランクトン実習，豊中高校 SSH，琵琶湖博物館，講師。
2019年12月23日・24日，追手門大学付属中学校，サイエンスキャンプ，琵琶湖博物館，講師。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，12件（うち3件新型コロナウイルスに伴う休館により中止）。
はしかけグループ「田んぼの生きもの調査グループ」，担当。
はしかけグループ「琵琶湖の小さな生きものを観察する会」，副担当。
2019年4月6日，ロケット教室，琵琶湖博物館，対応担当（くさつ未来プロジェクトと共催）。
2019年7月27日，ナイトミュージアム，琵琶湖博物館，おとなのディスカバリー担当。
2019年7月30日，プランクトン班，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，指導。
2019年8月18日，マイナス80度から生還した微小生物，博物館で楽しもう！琵琶湖博物館，実習担当。
2019年9月7日，ロケット教室，琵琶湖博物館，対応担当（くさつ未来プロジェクトと共催）。
2019年9月21日，プランクトンでビンゴ，博物館で楽しもう！，琵琶湖博物館，実習担当。
2019年10月12日，プランクトンを見よう，わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師。
2019年10月19日・20日，びわ博フェス2019，琵琶湖博物館，はしかけ対応。
2019年10月26日，びわ湖の生きたプランクトン観察会（秋の部），琵琶湖博物館，対応担当（びわ湖の生きたプランクトン観察会事務局と共催）。
2019年11月5日，プランクトンでビンゴ，琵琶湖博物館マイクロアクアリウム，担当。
2020年2月1日，びわ湖の生きたプランクトン観察会（冬の部），琵琶湖博物館，講師（びわ湖の生きたプランクトン観察会事務局と共催・一瀬 諭氏、大塚泰介、根来 健、石上三男氏と共同）。

他の博物館・機関等の主催行事

2019年6月1日，プランクトン実習，琵琶湖のプランクトン観察（滋賀県シェアリングネイチャー協会），琵琶湖博物館，講師。
2019年7月15日，出張展示，博物館夏祭り，vivacity 彦根，展示解説。
2019年11月7日，プランクトン実習，初任者研修（滋賀県総合教育センター），琵琶湖博物館，講師。
2019年11月10日，プランクトン実習，自然大学，琵琶湖博物館，実習担当。
2019年11月12日，プランクトン実習，初任者研修（滋賀県総合教育センター），琵琶湖博物館，講師。
2019年11月14日，プランクトン実習，初任者研修（滋賀県総合教育センター），琵琶湖博物館，講師。
2019年11月23日，観察会の指導，春日山公園観察会（カワセミ自然の会），春日山公園（大津市），講師。
2020年3月29日，プランクトン観察会，滋賀ダイハツ，琵琶湖博物館，講師（新型コロナウイルス感染対策のため中止）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

学芸員個人ページ，更新。
ウェブページ，更新。

PC 修理対応.

OS アップデート, 対応.

ソフトウェアの契約更新, 対応.

臨時休館に伴う新規ウェブページ, 作成.

臨時休館に伴うウェブコンテンツ, 対応.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

標本の貸し出し期間更新, 2 件.

標本寄贈受け取り, 1 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示マイクロアクアリウム, 展示更新.

モーニングレクチャー, 講義, 1 回 (4 日).

展示交流員博物館実習, プランクトンの採集と観察 (2020 年 3 月 10 日~12 日), 3 回, 琵琶湖博物館, 講師.

【企画調整活動】

音声ガイド, 主担当.

新任職員研修, 副担当.

博物館実習, 副担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

大阪大学大学院理学研究科, 招聘研究員 (2019 年 4 月~2020 年 3 月).

今年度はおとなのディスカバリーの植物セクション担当として、季節ごとの展示に液浸標本を加えた。その際にはしかけや博物館スタッフの力を借りて、幅広い植物展示を行った。展示の幅を来館者が何度来ても新しい発見ができるようにした。現在はしかけ・フィールドレポーターのメンバーの活動を展示に取り込めるように準備を進めている。

生態学系研究領域の研究としては、琵琶湖岸に生育する海浜植物の保全とその中でも絶滅危惧種に指定されている植物の種子更新の研究を行った。今年度は湖岸と海浜個体の種子の硬さの違いについて検証はできなかったが、湖岸に生育する徘徊昆虫が種皮を傷つけ、海浜植物の発芽を促進することが飼育実験により明らかとなった。その一方で、昆虫による絶滅危惧植物の種子更新は稀であることも確認された。本研究では、徘徊性昆虫が種皮を食べる動画に収めることができたことが大きな収穫であった。また、来年度の研究に向けて、はしかけ「虫架け」メンバーに協力してもらい、湖岸に生息する昆虫を調査した。その結果、本県初記録の昆虫が見つかるなど、湖岸の生態系に関する知見が深まった。本研究を通じて、多様な植生を維持する機構を考察する上での基礎情報を提供することが、博物館と研究を繋ぐことになると考えている。また、若手研究の予算で研究環境を整え、一部実験を進めることができた。さらに、滋賀県立大学と共同研究をしている伊吹山に自生する植物の分子解析も結果ができた。今年度は開かれた国際博物館会議でフィールドレポーターに関するポスター発表をした。研究部関連事業では、研究交流の一環として、二国間交流事業共同研究・セミナーにおいて、国立洛東江生物資源館との研究交流に奔走し、具体的な共同研究の推進に貢献できた。その一部は学会で発表され、学会賞を取ることができた。

事業部展示係では展示交流員の円滑な運営の補助を担当した。森林や湖岸の植生についてのフィールド研修を企画し、展示交流員の自然観察能力向上に貢献した。また、新型コロナウイルス感染防止対応として、臨時休館になった際には、休館期間の活動として展示交流員による展示の魅力伝える映像の作成を企画した。その結果、本館ホームページに複数のweb動画が配信され、休館中の子どもたちへの学習の助けとなることができた。はしかけについては、緑のくすり箱の主担当として会を運営するだけでなく、おとなのディスカバリーの植物セクションへの展示や、ディスカバリールームの植物の匂いの抽出など、博物館の展示交流にも貢献した。また、新はしかけ琵琶湖「海浜植物まもりたい」の主担当として、新海浜の保全活動に邁進した。その成果もあって、今年度は絶滅危惧種の植生面積が拡大した。今後も保全活動を継続したい。保全活動については、東近江市や大津市から希少種の保全について助言を求められることが多くなった。現時点では、地域の中で保全活動を推進し、生育が困難な植物に対しては、域外保全も視野に入れて活動を継続することにしている。こうしたことについては、県庁の自然環境保全や地域の活動団体などと歩みを合わせて協働して取り組んでいく。

印刷物

【一般向けの著作】

大槻達郎 (2019) 琵琶湖博物館でも見られる不思議ないきもの. *琵琶湖博物館フィールドレポーター掲示板*, 95, 琵琶湖博物館: 9.

大槻達郎 (2019) 「生まれ! モミジ (カエデ) の仲間たち」調査報告. *琵琶湖博物館フィールドレポーターだより*, 52, 琵琶湖博物館: 1.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

大槻達郎 (2019年4月19日) 琵琶湖湖岸と海浜に生育するハマエンドウにおける環境ストレスへの適応的な応答. *琵琶湖博物館研究セミナー*, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

- サゴン ジン・キム サンギ・チェ ビュンソ・田畑諒一・大槻達郎・リュ シヒョン・ユ ジョンナム (2019年8月12日～14日) 韓国産テナガエビの遺伝的集団構造 (韓国語). 第74回韓国動物分類学会, 済州コンベンションセンター (韓国), [ポスター発表].
- Ohtsuki, T. and Field Reporters Staffs (2019年9月4日) Why We Continue the Field Reporter Activities? -Introduction of Our Reports and Field Works-. ICOM-NATHIST 2019 Off-site meeting, Osaka Museum of Natural History, (Osaka city), [poster].
- 中島優介・大槻達郎・野間直彦・原田英美子 (2019年9月15日) 伊吹山に自生するヨーロッパ原産帰化植物の移入経路. 日本植物学会第83回大会, 東北大学川内北キャンパス (仙台市), [ポスター発表].
- 南 悠穂・森 智美・大槻達郎・妹尾裕介 (2019年12月15日) 他機関を巻き込んだ期間限定展示が生み出す新たな交流. 第60回日本動物園水族館教育研究会, 東京大学大気海洋研究所 (千葉県柏市), [ポスター発表].
- 大槻達郎 (2020年2月8日) 琵琶湖岸に生育する絶滅危惧植物の保全. 滋賀県植物研究会講演会, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [講演].
- 大槻達郎 (2020年3月2日) 地表徘徊性昆虫がハマエンドウの発芽に与える影響. 日本植物分類学会第19回大会, 岐阜大学 (岐阜市), [ポスター発表].
- 中島優介・久保直輝・田畑諒一・大槻達郎・首藤光太郎・野間直彦・原田英美子 (2020年3月2日) 伊吹山に自生するヨーロッパ原産帰化植物の移入経路—イブキノエンドウの分布調査および遺伝子解析—. 日本植物分類学会第19回大会, 岐阜大学 (岐阜市), [ポスター発表].
- 大槻達郎 (2020年3月8日) 海浜植物ハマエンドウの種子に寄生するマメゾウムシの寄生率の年変動. 第67回日本生態学会大会, 名城大学 (名古屋市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館申請専門研究「琵琶湖湖岸に生育する絶滅危惧植物の種子更新の解明」, (2019年度).
- 科学研究費助成事業 (若手研究) 「マメ科植物の地域適応に関する根粒菌のゲノム進化—共生関係の創出維持機構の解明—」 (研究者代表: 大槻達郎), 研究代表者 (2018年度～2020年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤 B) 「東アジアの古代湖『琵琶湖』の固有種成立過程の解明のための総合的研究」 (研究代表者: 高橋啓一), 研究協力者 (2018～2022年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年7月31日～9月25日, 奈良県在住の中学生, 研究の助言「プラナリアの光感受性と色認識について」.

【受賞など】

第74回韓国動物分類学会 学会賞 [ポスター部門], 2019年8月12日～8月14日, 「韓国産テナガエビの遺伝的集団構造」 (韓国語), (サゴン・ジン, キム・サンギ, チェ・ビュンソ, 田畑諒一, 大槻達郎, リュ・シヒョン, ユ・ジョンナム).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 8件.

はしかけグループ「緑のくすり箱」・「海浜植物守りたい」, 担当.

はしかけグループ「森人」・「植物観察の会」, 副担当.

フィールドレポーターだより 通巻52号「集まれ! モミジ (カエデ) の仲間たち」, 担当.

2019年5月15日, 季節の植物でアロマウォーターを作ろう!, 体験教室, 琵琶湖博物館, 副担当.

2019年5月19日, フィールドレポーター交流会, 琵琶湖博物館, 運営補助.

2019年7月10日, 季節の植物でアロマウォーターを作ろう!, 体験教室, 琵琶湖博物館, 副担当.
2019年7月30日, 植物担当, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.
2019年8月28日~8月30日, ディスカバリーボックスの制作, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.
2019年9月4日, 季節の植物でアロマウォーターを作ろう!, 体験教室, 琵琶湖博物館, 副担当.
2019年9月7日, 佐波江浜昆虫採集, はしかけ活動, 琵琶湖博物館, 運営補助.
2019年10月19・20日, びわ博フェス 2019, 「緑のくすり箱」・「海浜植物守りたい」担当.
2019年11月9日, 秋の色探しをしよう!, わくわく探検隊!, 琵琶湖博物館, 講師.
2019年11月23日, 森のにおいをさがそう!, ディスカバリールームイベント, 琵琶湖博物館, 講師.
2019年12月4日, アロマウォーター作り, 琵琶湖博物館, 副担当.

他の博物館・機関等主催行事

2019年6月8日, 講義「佐波江浜のいきもの」, 佐波江浜のハマゴウを守る活動(佐波江町自治会), 佐波江町公民館・佐波江浜(彦根市), 講師.
2020年2月15日, 講義「琵琶湖岸に生育する絶滅危惧植物の保全」, 研修会(湖西里山会), 琵琶湖博物館, 講師.

メディアへの協力

2019年7月28日, 京都新聞, 身の回りの植物, 取材対応(7月27日).
2019年11月7日, TBS Nスタ, 特集:飛び出し坊や, 取材対応(11月7日).
2020年3月23日, クイズ滋賀道, 取材対応(3月17日).
2020年3月28日, リビング滋賀, 拝見!滋賀のお仕事制服, 取材対応(2月13日).
2020年3月28日, しがトコ, びわ博のマニアックすぎる学芸員さんに会いに行ってみました!, 取材対応(2月21日).
2020年3月31日, クイズ滋賀道, 取材調整(3月28日).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物標本整備, 収蔵庫維持管理, 担当.
植物収蔵庫清掃, 10回.
大掃除(C展示室), 実施.
植物さく葉標本寄贈受入, 1件.
植物標本特別閲覧, 4件.
防虫トラップ調査, 2回.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2019年度, 第27回企画展示「海を忘れたサケビワマスの謎に迫る」, 展示パネル作成・展示受付補助.
2019年度, 第27回企画展示「海を忘れたサケビワマスの謎にせまる」, 海外渉外担当.
いきものコレクション「植物分野」, 主担当.
おとなのディスカバリー「植物分野」, 主担当.
おとなのディスカバリー展示入れ替え, 植物標本展示 4件, 植物細密画 4件, 植物写真パネル 12件, 植物写真(モニター) 4件, ハンズオン 4件, 季節の植物 6件, 植物交流棚 5件.
ディスカバリールーム「におってみよう・さわってみよう」, 副担当.
モーニングレクチャー, 講義, 1回(4日).
展示交流員 Web 動画配信, 主担当.
ディスカバリールーム季節の展示「かぼちゃをさがそう」(2019年10月19日~31日), 展示運営補助.
展示交流員現地見学研修, 2019年5月27日, 彦根市新海浜, 講師.

展示交流員博物館実習，アロマウォーター作り，2020年3月11日・13日，琵琶湖博物館，副担当，2件.

【研究部関連事業】

韓国国立洛東江生物資源館との二国間交流事業共同研究・セミナーの打ち合わせおよび研究交流の対応，2019年5月22日～24日，国立洛東江生物資源館，(Gyeongsangbuk-do, Republic of Korea).

韓国国立洛東江生物資源館との企画展の打ち合わせおよび研究交流の対応，2019年5月22日～24日.

油日湿原の植物保全活動に関する助言と技術的サポート，2020年2月21日，琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2019年5月22日～5月24日，韓国 国立洛東江生物資源館，二国間交流事業共同研究・セミナーの打ち合わせおよび研究交流.

【館外の活動】

新海浜（彦根市）の保全活動，（2019年4月9日、5月7日、5月27日、6月4日、7月2日、9月3日、10月1日、11月5日、12月3日）.

油日湿原（甲賀市）の保全活動，（2019年4月20日、5月8日）.

伊吹山調査，（2019年4月20日、6月13日、9月10日），3件.

滋賀県に生育する絶滅危惧種（海浜植物）の種子の保存，（2019年6月15日～7月15日）.

東近江市の植物保全活動，（2019年7月1日）.

甲賀市シオノギ植物園の域外保全に関する助言，（2019年7月3日～10月3日），3件.

伊吹山調査（絶滅危惧種の域外保全活動），（2019年10月18日）.

大津市の海浜植物の保全区選定の助言，（2019年11月12日）.

滋賀県立大学の分子遺伝実験の助言，（2019年12月3日）.

近江八幡市に生育する海浜植物の種子採集の助言，（2019年12月11日）.

大津市の海浜植物（絶滅危惧種）の保全に関する助言，（2019年12月19日）.

滋賀県立大学の分子遺伝実験の助言，（2020年1月22日）.

東近江市の植物保全活動に関する助言，（2020年2月13日）.

滋賀県立大学の分子遺伝実験の共同研究打合せ，（2020年3月26日）.

前年度で完了した科研費の課題であった鈹質土壌湿原の珪藻群集について、ようやく論文を一本まとめ、現在、印刷中である(3月末日時点で著者校正完了)。立命館大学びわこ・くさつキャンパス内に保全されている鈹質土壌湿原で採集したオオミズゴケおよびヌマガヤ枯死体の試料から、計108種の珪藻を検出して報告した。この中には滋賀県の泥炭湿原からは知られていない種や、日本新産と思われる種、さらには新種の可能性がある種などが含まれており、かなり特異性が高い珪藻群集だった。

「たんさいぼうの会」会員への研究指導による共著論文が2本、出版された。富小由紀氏を主著者とする多賀町の蒲生層群(180~190万年前)の化石珪藻群集に関する研究では、150種の珪藻を報告し(ただし33種は未同定)、特に詳しく調べられていないこの時代のオビケイソウ類を26種まで同定して報告した。山本真里子氏を主著者とする珪藻群集の評価法に関する論文では、従来の酸洗浄法と、珪藻の葉緑体をエタノールで脱色してヘマトキシリンで染色する核染色法、そして篩上で砂に積もった堆積物を洗い流して残った砂をクリーニングする篩法をあわせて用いることで、干潟の砂上に生きている珪藻を他の場所から運ばれてきた殻骸から区別する方法を確立した。

Philippine Phycological Society, Inc. (フィリピン藻類学会)の招きにより、8th National Phycological Symposium and Scientific Meetingで招待講演を行うとともに、同学会で行われた珪藻研究ワークショップで講師の一人を務めてきた。その関連で、フィリピンのバイ湖に流入するマリキナ川の珪藻の研究を、フィリピン大学ロス・バニョス校のMartinez-Goss氏らとともに始めた。

「改訂版 田んぼの生き物全種リスト」を増補更新するとともに、データベースに移植して公開する「田んぼの生き物全種リスト補完計画」を進めている。2020年3月末時点で、6,050種までデータを増補するとともに、377種544点の写真を登録した。また、公開準備画面を作成し、現在その改良を進めている。また、本研究との関連で篠原徹前館長より出版を求められていた書籍「田んぼにはなぜ多様な生物がすむのか」についても、2020年3月によりやく全ての原稿が集まり、出版の目途が立った。

今年も、田んぼの生きものを研究している人たちを集めて、金尾滋史・鈴木隆仁らとともに「第10回 琵琶湖地域の水田生物研究会」を開催した。ポスター発表も含めて26題の発表、140名の参加があった。

はしかけグループ「琵琶湖梁山泊」の活動の一環として、米原高校地学部生徒たちによる、縄文時代の姉川に存在した堰止湖「小泉湖」の古環境研究への助言指導を、林 竜馬氏、里口保文氏らと行った。この研究は今年度、第63回日本学生科学賞高校の部で環境大臣賞を受賞するなど、多くの賞を獲得した。

研究部業務としては研究審査委員会、研究部研修、その他研究部調整を担当した。また滋賀県試験研究機関連絡会議の担当者として、滋賀県衛生科学センター、琵琶湖環境科学研究センター等と連携して、応用統計学学習会を立ち上げ、2回の学習会を開催した。

前年度担当事業の後始末として、情報誌「びわはく」第3号の「ビワマス」特集を編集し、2019年6月に当初予定通り出版した。企画調整課では主として地域連携事業、国際交流事業、および視察を担った。今年度の地域連携事業は、目標としていた100件を大きく上回る132件に及んだ。ただし特定の学芸職員に講師依頼が集中する傾向を解消できなかったことが課題である。

印刷物

【学術論文】

富 小由紀・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・堂満華子 (2019) 古琵琶湖層群蒲生層最上部から産出した化石珪藻フロラ. *Diatom*, 35: 1-17.

Yamamoto, M. and Ohtsuka, T. (2020) Evaluation of three preparation methods for living diatoms at a sandy river-mouth tidal flat: conventional acid-cleaning, nuclear staining, and sieving. *Fottea, Olomouc*, 20: 17-24.

【一般向けの著作】

- 大塚泰介 (2019) 湖岸より 347 琵琶湖固有の珪藻とその祖先. *中日新聞滋賀版*, 中日新聞社, 7月6日.
大塚泰介 (2019) 琵琶湖でふえてきたミクロの外来生物. *ラムネットJニュースレター*, 37:3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 大塚泰介・朱 偉 (2019年4月18日) 太湖-琵琶湖アオコワークショップ. 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [企画運営].
大塚泰介 (2019年4月18日) 琵琶湖のアオコ構成種の変遷. 太湖-琵琶湖アオコワークショップ, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
廣石伸互・大塚泰介・朱 偉・中村紳一郎・寺門一郎 (2019年4月18日) 抗体によるアオコ形成種 *Microcystis* の単独細胞の検出. 太湖-琵琶湖アオコワークショップ, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
大塚泰介・井上英耶 (2019年5月11日) ディープラーニングとMT法による珪藻同定の試み. 日本珪藻学会第40回大会, 日本珪藻学会, オーテピア (高知市), [口頭発表].
大塚泰介 (2019年5月17日) 東海層群と古琵琶湖層群の珪藻化石: 大型タラシオシラ科珪藻を中心に. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
Ohtsuka, T. (21 June, 2019) The use of diatoms in the assessment of water quality and their uses in fisheries. 8th National Phycological Symposium and Scientific Meeting, Philippine Phycological Society, Inc., De La Salle University (Manila, Philippine), [口頭発表: 招待講演].
大塚泰介・中新井 隆 (2019年10月18日) 一筆水田魚道で魚が遡上しやすい流量の分析. 滋賀県試験研究機関研究発表会2019, 滋賀県試験研究機関連絡会, 長浜バイオ大学ドーム (長浜市), [口頭発表].
根来 健・大塚泰介 (2019年11月9日) 水道障害生物 *Fragilaria crotonensis* におけるねじれ群体の出現について. 日本水処理生物学会第56回大会, 金沢工業大学扇が丘キャンパス (石川県野々市市), [口頭発表].
大塚泰介 (2019年11月30日) 口頭発表3件. 日本珪藻学会第39回研究集会, 東京学芸大学 (東京都国分寺市), [座長].
大塚泰介・北野大輔 (2019年11月30日) 立命館大学びわこ・くさつキャンパスにある中間湿原の珪藻植生. 日本珪藻学会第39回研究集会, 東京学芸大学 (東京都国分寺市), [口頭発表].
根来 健・大塚泰介・辻 彰洋 (2019年12月1日) ねじれた群体を作る *Fragilaria crotonensis* に関する考察. 日本珪藻学会第39回研究集会, 東京学芸大学 (東京都国分寺市), [口頭発表].
大塚泰介・金尾滋史・鈴木隆仁 (2019年12月15日) 第10回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [企画運営].
北野大輔・大塚泰介・金尾滋史 (2019年12月15日) 求む! 滋賀の生き物情報 「淡海生物」原稿募集中. 第10回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].
大塚泰介・北野大輔 (2019年12月15日) 公開近づく! 田んぼの生きもの全種データベース. 第10回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].
大塚泰介 (2019年12月15日) 田んぼにしかない生物は、田んぼができる前にはどこにいたのか. 第10回琵琶湖地域の水田生物研究会シンポジウム, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「MT法を応用した生物同定支援システムの開発」, (2019年度).
琵琶湖博物館共同研究『「田んぼの生きもの全種リスト」の増補更新と公開システムの構築」(研究代表者: 大塚泰介), 研究代表者 (2017年度~2020年度).

総合地球環境学研究所機関連携プロジェクトフルリサーチ「生物多様性が駆動する栄養循環と流域圏社会－生態システムの健全性」(研究代表者：奥田 昇)，研究協力者 (2015 年度～2019 年度)。
科学研究費助成事業 (基盤 C)「付着藻類群集構造の色素分析による定量化とその変動要因の解明」(研究代表者：吉山浩平)，研究分担者 (2017 年度～2019 年度)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本珪藻学会, Diatom, 編集委員, 2003 年 1 月～。
日本珪藻学会, 運営委員, 2017 年 1 月～。
関西自然保護機構, 運営委員, 2014 年 1 月～。
淡海生物研究会, 淡海生物, 編集委員, 2019 年 4 月～。
日本珪藻学会, Diatom, 担当編集委員, 1 件。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019 年 9 月 26 日・27 日, 環境微生物学, 京都府立大学, 講師 (藤田裕子・石川可奈子・楠岡 泰と共同)。
2019 年 4 月～2019 年 12 月, 大阪市立大学理学研究科博士課程学生, 研究指導・助言。
2019 年 4 月～2019 年 10 月, 名古屋大学環境学研究科博士課程学生, 研究指導・助言。
2019 年 4 月～2020 年 3 月, 滋賀県立大学環境科学部学生, 研究指導・助言。

【受賞など】

日本珪藻学会論文賞, 2019 年 5 月 11 日, 「Fossil diatom assemblages during the last millennium in the Toberi River mouth area, Hokkaido, Japan」(Chiba, T., Nishimura, Y. and Ohtsuka, T.)。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

地域連携事業調整, 担当

情報誌「びわはく」, 担当 (5月まで)。

質問コーナー・フロアトーク, 11件。

はしかけグループ「たんさいぼうの会」, 担当, 随時。

はしかけグループ「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」, 担当, 随時 (鈴木隆仁と共同)。

はしかけグループ「琵琶湖梁山泊」, 担当, 随時 (副担当; 中井克樹と共同)。

2019 年 7 月 21 日, びわ湖の生きたプランクトン観察会 夏の部, 琵琶湖博物館, 講師 (びわ湖の生きたプランクトン観察会と共催・根来 健と共同)。

2019 年 10 月 25 日, びわ湖の生きたプランクトン観察会 秋の部, 琵琶湖博物館, 講師 (びわ湖の生きたプランクトン観察会と共催・根来 健と共同)。

2019 年 12 月 21 日, プランクトン培養方法研修会, 琵琶湖博物館, 講師 (一瀬 論氏、根来 健、廣石伸吾と共同)。

2020 年 2 月 1 日, びわ湖の生きたプランクトン観察会 冬の部, 琵琶湖博物館, 講師 (びわ湖の生きたプランクトン観察会と共催・根来 健、鈴木隆仁と共同)。

他の博物館・機関等主催行事

2019 年 5 月 25 日, 講義「琵琶湖博物館のはしかけ制度について」, 市民学芸員講座 (松本市立博物館), 松本市立博物館 (長野県), 講師。

2019 年 6 月 6 日, 講義・実習「琵琶湖の富栄養化と水の華／プランクトン実習」, 国外特別聴講生プログラム (京都大学地球環境学堂), 琵琶湖博物館, 講師 (劉文と共同)。

- 2019年6月15日, 観察会・講義, 魚のゆりかご水田生き物観察会 (栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会), 栗見出在家町浜公園・明寿苑 (東近江市), 講師.
- 2019年6月19日, Diatom workshop in 8th National Phycological Symposium and Scientific Meeting, Philippine Phycological Society, Inc., De La Salle University (Manila, Philippine), 講師.
- 2019年7月10日, 講義・実習「プランクトン観察」, 滋賀県立彦根東高校 SSH, 琵琶湖博物館, 講師 (鈴木隆仁, 由良嘉基と共同).
- 2019年7月13日, 講義「水田の生物多様性」, 第5回 SeedBank NOM ((株) SeedBank), (株)SeedBank (京都市左京区), 講師.
- 2019年7月27日, 生きもの調査の指導および解説, 観察会 (日本国際民間協力会 (NICCO)), みのり農園・道の駅あいとうマーガレットステーション (東近江市), 講師.
- 2019年8月7日, 講義・助言, 海と日本プロジェクト in 滋賀県〜鯖そうめん詰め隊〜 (びわ湖放送株式会社), 琵琶湖博物館, 講師 (菅原和宏氏と共同).
- 2019年9月14日, 講義「湖と田んぼのつながり」, 研修会 (三方五湖自然再生協議会), リブラ若狭 (福井県三方上中郡若狭町), 講師.
- 2019年10月5日, 講義・実習「琵琶湖の珪藻について」, シニア自然大学マイスター, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2019年10月9日, 実習「珪藻化石の観察」, 滋賀県立米原高校理数科, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2019年10月26日, 講義「琵琶湖の環境とせっけん運動」, 高島市市民劇上映実行委員会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2019年11月10日, 実習「琵琶湖のプランクトン検鏡観察」, 自然大学 (NPO 法人自然と緑), 琵琶湖博物館, 講師 (鈴木隆仁と共同).
- 2019年12月22日, 講義「水田の生物群集の複雑さ」, シンポジウム「水田の生物多様性と農薬使用について〜使わないでよい農薬を使わないことで生き物も人も happy!」 (河北潟湖沼研究所), IT ビジネスプラザ武蔵 (石川県金沢市), 講師.

視察対応

- 2019年8月28日, 琵琶湖の水質保全と環境整備について, 安徽省巢湖市常務副市长ほか (楊 平と共同).
- 2019年9月5日, 琵琶湖博物館における交流活動について, タイ国立科学博物館 (Robin J. Smith と共同).
- 2019年9月23日, 琵琶湖の富栄養化とアオコの発生, 西交利物浦大学 (今井一郎と共同).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 微小生物試料の収集, 整理・監督・指示.
- ナゴヤダルマガエル, 採集・飼育.
- ハッタミミズ, 採集・飼育.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- C展示室「田んぼへ」, 主担当.
- マイクロアクアリウム, 副担当.
- モーニングレクチャー, 講義, 1回 (4日).

【研究部関連事業】

- 滋賀県試験研究機関連絡会議, 幹事.
- 琵琶湖環境研究推進機構, 調査員.
- 研究審査委員会, 主担当.
- 研究倫理研修, 主担当.
- 滋賀県試験研究機関応用統計学学習会, 世話人 (井上英耶氏と共同).
- 琵琶湖博物館特別研究員 (柏尾珠紀、廣石伸互、今井一郎、根来 健、左子芳彦), 受け入れ担当.

琵琶湖地域の水田生物研究会，主催（金尾滋史・鈴木隆仁と共同）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2019年6月18日～23日，8th National Phycological Symposium and Scientific Meeting での招待講演・ワークショップ講師および The University of the Philippines, Los Banos の Martinez-Goss 研究室訪問。

【館外の活動】

島根大学汽水域研究センター，協力研究員（2001年4月～）。

琵琶湖博物館のような自然史系博物館の性格が強い博物館における科学館的内容の取り扱いに関する課題についての検討を進めているが、残念ながら研究プロジェクトが採択に至っていない。この課題を進めるには、琵琶湖の物理現象、陸水海洋物理学一般についてのアウトリーチ、科学教育学のうち抽象的概念の伝え方に関わる部分、科学博物館の活動展開の方法論など、多様な分野に興味を持つ研究者と議論を深めることが欠かせないため、その手がかりとなる研究発表を引き続いて進めた。また、今年度は京都で ICOM 世界大会があったので、そこでもこの問題についての研究発表を行った。

また、この問題については、昨年6月に発足したはしかけグループ「サロン de 湖流」の活動を通じた考察も進めている。年度末にはメンバーが提唱している仮説を世に問うという趣旨の研究発表を計画するに至った。残念ながらコロナウィルス対策で研究発表の場自体が延期されてしまったが、その実現に至る経緯は科学館的内容の取り扱いについて考える上での貴重な事例になるものと期待できる。

研究以外の事業の面では、昨年度に引き続いて展示運営のうちリニューアルによって運営方法が変更となる部分やリニューアルで取り残された部分に関する検討と対応を担当した。特に、開館以来の課題である、駐車場からの動線が長くかつ判りにくい問題への対応策が昨年度の台風で壊滅的被害を受けたことを踏まえて、案内看板等の必要性について改めて全面的に見直し、それに基づいた新規看板等の設置を進めた。

印刷物

【一般向けの著作】

戸田 孝 (2019) 湖岸より 346 物理現象で琵琶湖を知ろう. *中日新聞*, 中日新聞社, 6月15日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

戸田 孝 (2019年6月25日) 自然史博物館の住民参加手法で「科学館」を展開する試み. 全日本博物館学会第45回研究大会, 新潟県立歴史博物館 (長岡市), [口頭発表].

戸田 孝 (2019年8月16日) 「はしかけ制度」を介した「科学館的手法」展開の試み. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

戸田 孝 (2019年8月23日) 自然史博物館の手法で抽象的科学概念を扱うには(II). 日本科学教育学会第42回年会, 宇都宮大学峰キャンパス (宇都宮市), [口頭発表].

TODA, T. (2019年9月4日) How "natural history museums" can perform as "science centers". 第25回 ICOM 京都大会 2019, 国際博物館会議, 京都国際会館 (京都市左京区), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「地球物理学からの博物館学の展開～科学館の在り方からのアプローチ」, (2019年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

陸水物理学学会, 運営委員, 期間の定めなし.

陸水物理学学会, 論文査読, 1件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2020年1月8日, 滋賀県立大学博物館資料保存論, 「資料保存環境を支える設備」.

2019年12月14日～2020年2月4日，立命館大学理工学部環境都市工学科卒業研究（指導教官：Wells, J. C.），
成果のまとめかたに関する助言（特に湖流シミュレーション結果の表示方法および水槽実験の演示対象明確化に関すること）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，11件。

はしかけグループ「サロン de 湖流」担当学芸員，主担当。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

館内気象観測データ記録システム，維持管理およびデータ公開。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

企画展示室の利用調整および管理，主担当。

エントランスおよびアトリウムの利用調整および管理，主担当。

電子機器の利用を含むユニバーサルデザイン対応，副担当。

モーニングレクチャー，講義，1回（4日）。

蜃気楼に関する展示の維持管理，主担当。

【研究部関連事業】

研究設備および研究備品の利用に関する全体調整，主担当。

本研究は、今年度で3年目になり「学習内容に合わせた博物館の活用Ⅲ」というテーマで、継続した研究を行った。研究の柱としては、屋外展示の有効利用・フローティングスクールとの連携・教員向け研修の3つを設定し、これらを考える上で必要となる事例の研究に取り組んだ。

屋外展示の有効利用では、小学校低学年の生活科の学習と博物館の屋外展示を活かした体験的な取り組み、実践①「葉っぱスタンプをしよう!」実践②「葉っぱ水族館をつくろう!」を行った。どちらの実践も葉っぱの形に注目した学習になり、その成果・課題についての検証を行った。フローティングスクールとの連携では、前年度課題であったWeb通信の不具合を改善することができた。さらに、琵琶湖博物館を事前学習に利用することで、学習船「うみのこ」でのびわ湖学習をよりよくする研究航海をフローティングスクールの先生方と協力して行うことができた。今後、今より多くの学校とのかかわりがもてる取り組みになればと考える。教員向け研修会では、教員向けガイドやサポートシートについての研修を行い、教員自身がどのような目的を持って博物館を訪れるべきかを考えていけるように進めた。

事業においては、別館利用への定着がみられ、福祉団体や特別支援学校からの利用申し込みが多くあった。今後も、今まで以上に安心して来館いただける環境作りのための検討を重ねていく。リニューアルによって団体へ伝えるべきルールが多くなり、さらに下見実施の重要性が上がった。これからも博物館が一般客にも学校団体にも等しく利用していただけるように努めていきたい。年度末においては、臨時の休館を行うことになり、交流事業においても迅速かつ正確な対応が要求されることとなった。

印刷物

【一般向けの著作】

奥野知之 (2019) 湖岸より 343 博学連携. *中日新聞*, 中日新聞社, 5月11日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

奥野知之 (2020年2月21日) 学習内容に合わせた博物館の活用Ⅲ. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「学習内容に合わせた博物館の活用Ⅲ」, (2019年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年12月~2020年3月, 滋賀の教師塾塾生, 団体向け体験プログラム実習・交流事業研修受け入れ, (由良嘉基と共同).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけグループ「びわたん」, 担当.

2019年5月～2020年3月、「春の草花でしおりをつくろう！」等10講座、「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業、琵琶湖博物館、企画運営、10件、(はしかけグループ「びわたん」「近江はたおり探検隊」「ほねほねクラブ」、滋賀県立近代美術館と共催・由良嘉基と共同)。

2019年7月～2019年11月、琵琶湖学習2019、立命館守山中学校、ミュージアムスクール、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、3件、(由良嘉基と共同)。

2019年7月～2019年11月、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館、企画運営・講師、4件、(滋賀県中学校教育研究会理科部会と共催・由良嘉基と共同)。

2019年8月30日、団体向け体験学習プログラム実習・学校連携事業について、博物館実習、琵琶湖博物館、実習・講義、(由良嘉基と共同)。

他の博物館・機関等主催行事

2019年4月～2020年3月、学校団体向け体験学習、県内県外小中高特別支援学校大学、団体向け体験学習、琵琶湖博物館、講師、90件、(由良嘉基と共同)。

2019年6月15日、学校連携に関わる講義、公益財団法人日中友好会館、JENESYS 2019 中国高校生訪日団、琵琶湖博物館、講師。

2019年8月2日、講義「学校における博物館の有効活用」、令和元年度しがの環境教育研修会(滋賀県教育委員会 幼小中教育課)、琵琶湖博物館、講師、(由良嘉基と共同)。

2019年8月7日、実習「琵琶湖の環境についての講義・ヨシ原散策」、滋賀県高等学校文化連盟自然科学部会夏季研修会、琵琶湖博物館、講師、(由良嘉基と共同)。

2019年8月30日、研修「体験学習プログラム(シジミストラップ作り)」、甲賀市立伴谷小学校教職員、琵琶湖博物館、講師。

2019年9月4日、プランクトン観察実習、甲賀市立伴谷小学校、甲賀市立伴谷小学校、講師。

2019年9月5日、びわ湖学習講義、甲賀市立佐山小学校、甲賀市立佐山小学校、講師。

2019年9月5日、びわ湖学習講義、甲賀市立油日小学校、甲賀市立油日小学校、講師。

2019年9月5日、びわ湖学習講義、甲賀市立甲南中部小学校、甲賀市立甲南中部小学校、講師。

2019年9月28日、フローティングスクールとの連携(テレビ会議)①、滋賀県立琵琶湖フローティングスクール、琵琶湖博物館、講師。

2019年11月5日～14日、実習「琵琶湖博物館を活用した学習の在り方」、初任者研修(滋賀県総合教育センター)、琵琶湖博物館、講師、4件、(由良嘉基と共同)。

2019年12月19日、フローティングスクールとの連携(テレビ会議)②、滋賀県立琵琶湖フローティングスクール、琵琶湖博物館、講師。

2020年1月21日、びわ湖学習講義、甲賀市立甲南第三小学校、甲賀市立甲南第三小学校、講師。

2020年1月28日、講義「日本の学校における環境学習について」、2019年度インドネシア湖沼保全研修会(公益財団法人国際湖沼環境委員会)、琵琶湖博物館、講師。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

博物館高度利用に関わる事前打ち合わせ・コーディネート、担当、15件、(由良嘉基と共同)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2019年4月～2020年3月、学校等標本貸出事業、担当、18件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講義、1回(4日)。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第3期リニューアルに関わる収蔵庫見学（草津市立常盤小学校3年生），2020年1月15日，講師，（由良嘉基と共同）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

「湖の子」新体験学習作成プロジェクト会議（2019年7月～2020年2月）。

本年度は、「中学校における博物館の有効な利用法について」をテーマとし、研究を進めた。学校団体、特に中学校が琵琶湖博物館に何をねらいとして学びに来るのか、そしてどのようなスケジュールで来館しているかを調べるためのアンケートを取り、分析した。さらに、博物館を訪れる中学校にアンケートを提出してもらうだけでなく、こちらから様々な地域の中学校教員に連絡を取り、総合的な学習の時間に何をテーマにどこに学習に出かけているのかを聞き取り、調査した。小学校に比べて、中学校の来館校数は少ないが、来館校数が少ない理由として、各中学校はすでに学校独自の総合学習の流れを持っていることや、それぞれの地域の中で特色のある総合学習を伝統的に続けていることなどが大きな理由であることが調査によって分かってきた。

来年度は、グランドオープンの効果で中学校の来館増加が期待できる。改良を加えた教員向け展示見学ガイドや展示サポートシートを提供し、琵琶湖博物館の魅力をさらに広く知ってもらうことができたらと考えている。その前段階として、今年度はできるだけ多くの教員と相談の機会を持ち、中学生が博物館に来て有意義な時間が過ごせるような来館スケジュール等の提案を行ってきた。教員向けに行った教師用ガイド、サポートシートを使っての博物館利用についての研修は、今年度も各種学校の教員から高い評価を得ているが、それらの学習ツールの利用も併せて提案することができた1年であった。

体験学習プログラムでは、生徒の興味、既習内容を把握し、講義、実習とも改良を重ねながら実施することができ、体験学習プログラムから展示、展示からフィールドへの流れをつくる重要な役割を果たすことができた。

小学校、中学校の校外学習以外にも、高等学校のSSHや生物科学部、中高一貫教育での年間を通した活動に関わり、事前の打ち合わせを入念に行うことで有効に博物館を利用してもらえよう取り組んだ。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

由良嘉基（2020年3月20日）中学校における博物館の有効な利用法について．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「中学校における博物館の有効な利用法について」，（2019年度）．

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年12月～2020年3月，滋賀の教師塾塾生，団体向け体験プログラム実習・交流事業研修受け入れ（奥野知之と共同）．

2019年12月15日，神戸女子大学，地域連携に関わる講義．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけグループ「びわたん」，担当．

2019年5月～2020年3月，「春の草花でしおりをつくろう！」等10講座，「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業，琵琶湖博物館，企画運営，10件，（はしかけグループ「びわたん」「近江はたおり探検隊」「ほねほねクラブ」、滋賀県立近代美術館と共催・奥野知之と共同）．

2019年7月～2019年11月，琵琶湖学習2019，立命館守山中学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，コーディネーター・講師，3件，（奥野知之と共同）。

2019年7月～2019年11月，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，企画運営・講師，4件，（滋賀県中学校教育研究会理科部会と共催・奥野知之と共同）。

2019年8月30日，団体向け体験学習プログラム実習・学校連携事業について，博物館実習，琵琶湖博物館，実習・講義，（奥野知之と共同）。

他の博物館・機関等主催行事

2019年4月～2020年3月，学校団体向け体験学習，県内県外小中高等特別支援学校大学，団体向け体験学習，琵琶湖博物館，講師，90件，（奥野知之と共同）。

2019年8月2日，講義「学校における博物館の有効活用」，令和元年度しがの環境教育研修会（滋賀県教育委員会幼小中教育課），琵琶湖博物館，講師，（奥野知之と共同）。

2019年8月7日，実習「琵琶湖の環境についての講義・ヨシ原散策」，滋賀県高等学校文化連盟自然科学部会夏季研修会，琵琶湖博物館，講師，（奥野知之と共同）。

2019年11月5日～14日，実習「琵琶湖博物館を活用した学習の在り方」，初任者研修（滋賀県総合教育センター），琵琶湖博物館，講師，4件，（奥野知之と共同）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

博物館高度利用に関わる事前打ち合わせ・コーディネート，担当，15件，（奥野知之と共同）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2019年4月～2020年3月，学校等標本貸出事業，担当，18件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員博物館実習，外来魚解剖（2020年3月23日～25日），琵琶湖博物館，講師。

モーニングレクチャー，講義，1回（3日）。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第3期リニューアルに関わる収蔵庫見学（草津市立常盤小学校3年生），2020年1月15日，講師，（奥野知之と共同）。

研究テーマとして、引き続きイバラモの繁殖生態に関する研究課題に取り組んだ。専門分野に関連して、独立行政法人水資源機構によるいくつかの事業について、琵琶湖沿岸域環境調査の沈水植物調査の調査前の検討および調査後に得られたデータの検討に協力した。同じく植物担当として、環境省の第5次レッドリストの滋賀県調査には調査員として協力し、その先にある『滋賀県植物誌』(1968)の改訂について関係者と検討を行った。また、2018年度より博物館学研究領域に異動したため、今後の博物館学的な取組の準備を行った。

博物館の事業では、資料活用係長の補佐として様々な業務を行ったほか、資料の受け入れ、燻蒸、資料整理業務委託などを担当した。燻蒸については、リニューアルに対応すべく、様々な調整をしながら実施した。植物資料に関しては、伊吹山文化資料館の企画展に協力して資料の貸出を行い、また滋賀県屈指のコレクターであった村長昭義氏の標本の寄贈について、ご遺族および多賀町立博物館と相談や調整おこない、今後正式な手続きに進む予定である。また、博物館主催ではないが、「たんぼぼ調査・西日本2020」の1年目の調査について、滋賀県実行委員会の担当として調査の窓口業務や送付されるサンプルの同定などを行った。

印刷物

【一般向けの著作】

芦谷美奈子 (2019) 湖岸より 349 “隠れた主役” イバラモ. *中日新聞*, 中日新聞社, 7月27日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

Ashiya, M. and Nakamura, K. (2019年9月5日) A museum's contribution to sustaining local nature and culture relationships; what we learned from making an exhibition about biodiversity and utilization of reed marshes around Lake Biwa, NATHIST 2019 Kyoto Session, ICOM Kyoto 2019, 大阪府立自然史博物館 (大阪市), [ポスター].

芦谷美奈子 (2019年10月18日) 展示室におけるハンズ・オン手法の有効性と限界. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「イバラモの繁殖生態学的研究」, (2019年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年7月29日, 守山市立守山中学校生物部, オオバナミズキンバイの成長と堆肥の研究.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 10件.

インターネットを通じた質問への対応, 24件.

はしかけグループ「植物観察の会」, 担当, 観察会等, 9回.

はしかけグループ「タンポポ調査はしかけ」、担当，行事等，2回。

フィールドレポーター「タンポポ調査」，調査方法および調査票作成の相談。

2019年4月13日，タンポポ調査説明会，琵琶湖博物館観察会，琵琶湖博物館・からすま半島，担当者（タンポポ調査はしかけと共同）。

2019年4月20日，タンポポ調査説明会，琵琶湖博物館観察会，琵琶湖博物館・からすま半島，担当者，（タンポポ調査はしかけと共同）。

2019年7月27日，ヨシ灯りをつくろう，ナイトミュージアム，琵琶湖博物館，副担当者（西の湖ヨシ灯り展実行委員会・中村久美子と共同）。

2019年8月27日，博物館資料とその整理について，博物館実習，琵琶湖博物館，指導。

2019年11月23日，里山探検 秋の堅田春日山散策，琵琶湖博物館観察会，大津市真野谷口町，担当者，（カワセミ自然の会・鈴木隆仁と共同）。

他の博物館・機関等の主催行事

2019年8月3日，講演「琵琶湖博物館の植物標本コレクションと研究」，第681観察会（近畿植物同好会），琵琶湖博物館，講師。

2019年12月4日，講演「水生植物を保全するための課題とは？～琵琶湖と周辺の事例を中心に～」，環境保全活動発表会&公開講演会（シニア自然大学校），NS21ビル（大阪市），講師。

視察等への対応

2019年10月20日，博物館の説明と展示案内，JICA Museums and Community Development Course。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

二酸化炭素燻蒸（燻蒸庫），担当者，5件。

エキヒューム燻蒸（燻蒸庫・テント式），担当者，3件。

収蔵庫担当者会議，担当者，3件。

植物標本，標本受入担当，1件。

植物標本，特別観覧対応，1件。

他の博物館・機関等の活動

米原市伊吹山文化資料館，展示資料（標本、書籍など14点）の貸出，1件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義「琵琶湖博物館の資料を守る設備とIPM」，1回（4日）。

展示交流員と話そう，ネジレモの花と受粉方法・内容指導。

他の博物館・機関等の活動

米原市伊吹山文化資料館，企画展「神農も伊吹山には仰天し～牧野富太郎と伊吹山近代植物学」（2019年4月27日～6月9日），資料提供。

【研究部関連事業】

研究備品管理，主担当者。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

木浜地区保全整備地域協議会，委員（2000年4月～）.

滋賀県植物研究会，幹事（2010年4月～）.

琵琶湖湖南地域ヨシ群落自然再生協議会，アドバイザー（2015年6月～）.

独立行政法人水資源機構 琵琶湖開発総合管理所 琵琶湖沿岸域環境調査，アドバイザー（2016年1月～）.

環境省モニタリングサイト1000 陸水域調査 琵琶湖サイト水生植物調査，アドバイザー（2016年11月～）.

環境省 第5次レッドリスト（植物），滋賀県調査員（2017年4月～）.

琵琶湖環境科学研究センター 滋賀県生きものデータバンク（仮），委員（2018年11月～）.

「タンポポ調査・西日本2020」滋賀県実行委員会，委員（2018年11月～）.

専門研究のテーマである「琵琶湖周辺域における水田利用魚類リストの作成」では、滋賀県における水田利用魚類の出現状況について整理を昨年度より引き続き行い、おおよそのリスト化とそれぞれの利用目的などについてまとめることができた。また、降雨時にフナ類やナマズが侵入可能な水田についての調査を行い、過去の記録との比較を実施したほか、県内各地に設置された魚のゆりかご水田における遡上・利用状況を調査し、それらの効果を検証した。さらに、氾濫原環境における魚類の利用実態として、琵琶湖湖岸域の水位上昇時におけるコイ科魚類やナマズ科魚類の挙動について調査を行った結果と、休耕田環境におけるスジシマドジョウ類の産卵状況について調査を行った結果を現在論文としてまとめている。これらの研究成果は、共同研究『『田んぼの生きもの全種リスト』の増補更新と公開システムの構築』においても基礎資料として活用される予定である。また、今年度よりこれまで集積してきた水田利用魚類の生態と当館の屋外実験施設を活用するかたちで科学研究費助成事業(基盤C)「希少淡水魚アユモドキの水田水域への産卵遡上に適する魚道構造の研究」の研究分担者としての研究をスタートさせた。今年度は当館に魚道モデルを設置し、アユモドキやビワコガタスジシマドジョウをつかった魚道の遡上可能性について基礎データを収集することができた。

このほか、希少淡水魚の保全に関する研究としては、ハリヨについて滋賀県内における生息状況を10年前の記録と比較するための調査を行った。状況としては減少の一途を辿っている一方で、人為的に移植された水域での確認が目立つようになっており、遺伝的攪乱の観点からも、生物多様性に配慮した系統保全の仕組みを確立させる必要がある。その一方で、従来の生息地は河川改修や生息環境の悪化による個体群の消失や激減が確認され、早急な生息域内保全と生息域外保全が必要であることを提言した。このような希少淡水魚であるハリヨ、カワバタモロコ、オヤニラミの生息域外保全に関わる活動として、企業や地域と連携した系統保存の取り組みを継続しており、これらの取り組みについては各種が順調に生息域外の保全池などで繁殖するなど一定の成果を上げることができた。地域や企業と協働したハリヨの保全の取り組みに関しては単に繁殖生態や成長などに関する魚類学的な知見の集積のみならず、今後の希少淡水魚保全活動のあり方について、その手法論についても論文化する作業を進めており、それらの内容に関して日本動物園水族館教育研究会において研究発表を行った。さらに、希少淡水魚を保全するための博物館・水族館の役割などについても各種研究会や講演などで発表した。

また、2017年より国内の魚類研究者・国際自然保護連合(IUCN)と共同でIUCNレッドリストの日本産淡水魚の絶滅危惧種としての評価作業を進めてきたが、そのまとめとなる各魚種の評価結果が「The IUCN Red List of Threatened Species 2019」として公開された。この中では共著を含め18種の評価を執筆した。これまで日本産淡水魚はIUCNのレッドリストにほとんど掲載されていなかったが、これにより日本固有種を中心とした日本産淡水魚の評価が進化したほか、環境省、県、市町のレッドデータブックやレッドリストとの違い、その評価過程の違いについても把握することができたことは非常に有意義であった。

博物館学研究領域にかかわる研究としては、地域の自然史情報集約の場としての博物館の機能を探るため、自然観察会、博物館への質問、写真による生物記録をまとめ、このような情報が科学的な価値をもつのか、またそれらの集約にはどのようなプラットフォームが必要なのか、その手法論について検討している。これらの一部の成果については、2019年9月に京都で開催された国際博物館会議(ICOM NATHIST KYOTO 2019)や魚類自然史研究会において口頭発表を行った。また、本テーマが2020年度以降の共同研究として採択されたこともあり、共同研究者と共に博物館のもつ自然史情報収集の機能についてより深く絞っていく予定である。

広報営業課では広報の主担当として、資料提供や各種メディア対応、各種イベントの開催や出展を行った。資料提供は70件行なったほか、各種広報活動を展開したことにより、テレビ番組や新聞、雑誌へのメディア掲載情報は年間800件を上回った。このほか、毎日新聞滋賀版において「びわ博 こだわり展示の裏話」の連載、広報に関わる各種行事の企画、SNSへの投稿を行い、琵琶湖博物館を知ってもらい、さらにファンとなってもらうための取り組みを展開して、一定の成果を得ることができたと考えられるが、当館の理念に沿った前提での広報アプローチの手法や各種ターゲットを狙った広報戦略の展開としてはまだまだ課題が山積しているといえる。

印刷物

【専門分野の著作】

- Kanao, S. and Hasegawa, K. (2019) *Gymnogobius isaza*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T110461312A110461327. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T110461312A110461327>. en
- Kanao, S., Watanabe, K. and Taniguchi, Y. (2019) *Sarcocheilichthys biwaensis*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T110464455A110464467. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T110464455A110464467>. en
- Kanao, S., Hasegawa, K. and Mukai, T. (2019) *Ischikauia steenackeri*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T114826015A114826025. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T114826015A114826025>. en
- Kanao, S., Taniguchi, Y. and Watanabe, K. (2019) *Oryzias latipes*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T166979A1159322. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T166979A1159322>. en
- Kanao, S. and Hasegawa, K. (2019) *Gnathopogon caeruleus*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T114640023A114640052. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T114640023A114640052>. en
- Kanao, S., Hasegawa, K., Mukai, T. and Nakajima, J. (2019) *Cobitis magnostriata*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T122055145A122055153. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T122055145A122055153>. en
- Kanao, S., Watanabe, K. and Taniguchi, Y. (2019) *Rhinogobius biwaensis*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T122055606A122055620. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T122055606A122055620>. en
- Kanao, S., Hasegawa, K. and Mukai, T. (2019) *Carassius cuvieri*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T166137A1114496. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T166137A1114496>. en
- Kanao, S., Hasegawa, K., Mukai, T. and Nakajima, J. (2019) *Biwia zezera*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T116033622A116034107. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T116033622A116034107>. en
- Kanao, S., Hasegawa, K., Mukai, T., Nakajima, J. and Takaku, K. (2019) *Hemigrammocyppris neglectus*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T116029799A116029877. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T116029799A116029877>. en
- Kanao, S., Hasegawa, K. and Mukai, T. (2019) *Biwia yodoensis*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T122055098A122055107. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T122055098A122055107>. en
- Hasegawa, K., Kanao, S. and Mukai, T. (2019) *Silurus lithophilus*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T110464579A110464605. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T110464579A110464605>. en
- Hasegawa, K., Kanao, S., Miyazaki, Y., Mukai, T., Nakajima, J., Takaku, K. and Taniguchi, Y. (2019) *Tanakia tanago*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T21383A110464790. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T21383A110464790>. en
- Hasegawa, K., Kanao, S., Miyazaki, Y., Mukai, T., Nakajima, J., Takaku, K. and Taniguchi, Y. (2019) *Acheilognathus longipinnis*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T213A116034178. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T213A116034178>. en
- Hasegawa, K., Kanao, S., Miyazaki, Y., Mukai, T., Nakajima, J., Takaku, K. and Taniguchi, Y. (2019) *Pseudorasbora pugnax*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T122055564A122055572.

- Taniguchi, Y., Kanao, S. and Watanabe, K. (2019) *Oryzias sakaizumii*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T122055463A122055482. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T122055564A122055572.en>.
- Watanabe, K., Kanao, S. and Taniguchi, Y. (2019) *Tachysurus ichikawai*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T39293A110460709. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T39293A110460709.en>.
- Mukai, T., Hasegawa, K. and Kanao, S. (2019) *Gymnogobius cylindricus*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2019*: e.T122055267A122055277. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2019-2.RLTS.T122055267A122055277.en>.
- 石崎大介・金尾滋史・亀甲武志・酒井明久・中尾博行・藤岡康弘・松田征也・馬淵浩司 (2019) 魚種別の生態・生活史と保全方法. 平成 28~30 年度 滋賀県立大学特別研究成果「水田地域における生態系保全のための技術指針」Ver. 1.0. <http://www.usp.ac.jp/info/v170/>.
- 金尾滋史・田畑諒一 (2019) 湖魚奇観に描かれた生き物の解説. 野洲市歴史民俗博物館 (編), 令和元年度秋期企画展展示図録「人と魚の歴史学」, 野洲市歴史民俗博物館, 野洲, pp.12-25.
- 金尾滋史 (2020) 淡水魚の保全に関わる様々な連携. スイゲンゼニタナゴを守る市民の会・芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会 (編), 第 69 回魚類自然史研究会関連シンポジウム スイゲンゼニタナゴの過去・現在・未来~芦田川の魚の保全にむけて~報告書, スイゲンゼニタナゴを守る市民の会・芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会, 福山, pp.43-47.

【一般向けの著作】

- 金尾滋史 (2019) 日比さんが牽引してくれた『鳴く虫巡回展』. 追悼集 日比伸子さんを偲ぶ, p.32.
- 金尾滋史 (2019) びわ博 こだわり展示の裏話 40 開館当初からある秘密の水槽. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 4月2日.
- 金尾滋史 (2019) びわ博 こだわり展示の裏話 41 どうして水は出てこない? 不思議な水槽. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 4月16日.
- 金尾滋史 (2019) 琵琶湖の魚たち 湖国に春告げる使者 ウグイ. *産経新聞*, 産経新聞社, 4月21日.
- 金尾滋史 (2019) 湖岸より 342 企業と連携 希少淡水魚保全. *中日新聞*, 中日新聞社, 4月27日.
- 金尾滋史 (2019) 湖国のフィールドノート① 闇夜に現れる「琵琶湖の主」、ビワコオオナマズ. *ギョブマガジン* 「ぎよぶる」, 8:52-53.
- 金尾滋史 (2019) びわ博 こだわり展示の裏話 42 造形師の観察眼と再現技術. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 5月14日.
- 金尾滋史 (2019) 様々な視点で捉える「魚と人との関わり」. *どうぶつのくに*, 123:6-9.
- 金尾滋史 (2019) びわ博 こだわり展示の裏話 44 ときどき出現 新発見の生き物紹介. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 6月11日.
- 金尾滋史 (2019) 日曜日に知る 琵琶湖の魚たち ふなずしがつなぐ琵琶湖と人 ニゴロブナ. *産経新聞*, 産経新聞社, 6月16日.
- 金尾滋史 (2019) “名人” 金尾の江州琵琶湖の新「湖中産物図証」Vol.1 「弁天様のお使い」と呼ばれたナマズ. *どうぶつのくに.net*. <http://www.doubutsu-no-kuni.net/?p=35804>.
- 金尾滋史 (2019) びわ博 こだわり展示の裏話 46 屋外の水槽にやってくるお客さん. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 7月30日.
- 金尾滋史 (2019) 水族展示室に登場する川魚屋さん. *全科協ニュース*, 49(4):16.
- 金尾滋史 (2019) 日曜日に知る 琵琶湖の魚たち 琵琶、近江の名を有するドジョウ ビワコガタスジシマドジョウ. *産経新聞*, 産経新聞社, 10月6日.
- 金尾滋史 (2019) “名人” 金尾の江州琵琶湖の新「湖中産物図証」Vol.2 「琵琶湖の主」を追いかけて. *どうぶつのくに.net*. <http://www.doubutsu-no-kuni.net/?p=36278>.
- 金尾滋史 (2019) 博物館をとりまく SNS 事情. *全科協ニュース*, 49(6):2-4.

- 金尾滋史 (2019) 水生生物をエタノールにつけて、液浸標本を作ろう！. 小川 誠・奥山清市・矢野真志 (編), *博物館のプロのすご技で自然を調べよう ③標本と工作*, 少年写真新聞社, 東京, pp. 24-25.
- 金尾滋史 (2019) びわ博 こだわり展示の裏話 52 魚の冬の過ごし方. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 12月3日.
- 金尾滋史 (2019) 田んぼや水路にやってくる魚たち. *TOBA SUPER AQUARIUM*, 76: 14-15.
- 金尾滋史 (2019) びわ博 こだわり展示の裏話 53 暗闇になると現れる「琵琶湖の主」. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 12月17日.
- 金尾滋史 (2020) “名人” 金尾の江州琵琶湖の新「湖中産物図証」Vol.3「琵琶」や「近江」の名がついた湖国のドジョウ. *どうぶつのくに.net*. <http://www.doubutsu-no-kuni.net/?p=36653>.
- 金尾滋史 (2020) 日曜日に知る 琵琶湖の魚たち 湖国の湧き水のシンボル ハリヨ. *産経新聞*, 産経新聞社, 1月19日.
- 金尾滋史 (2020) びわ博 こだわり展示の裏話 55 希少淡水魚の保全と保護増殖センター. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 2月4日.
- 金尾滋史 (2020) びわ博 こだわり展示の裏話 57 臨時休館中の博物館から発信. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 3月17日.
- 金尾滋史 (2020) 虫屋であり、魚屋であった遠藤さん. *Came 虫 (遠藤真樹さん羽化と登仙実録自若自若追考集)*, 200: 50-51.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 金尾滋史 (2019年5月22日) 琵琶湖周辺における水田利用魚類の生態と保全. 第5回韓国・日本合同セミナー「韓国と日本における淡水の生物多様性とその変化」, 国立洛東江生生物資源館 (韓国), [口頭発表].
- 金尾滋史 (2019年5月27日) 総合博物館としての博物館実習実施状況. 第8回学芸員スキルアップ研修会「博物館実習担当者情報交換会」(大東市立歴史民俗資料館), 大東市立歴史民俗資料館 (大阪府), [口頭発表].
- 金尾滋史 (2019年6月6日) 第10回世界水族館会議 FUKUSHIMA2018 に参加して. 第85回近畿ブロック水族館飼育係研修会 (日本動物園水族館協会), 宮津エネルギー研究所水族館 (京都府宮津市), [口頭発表].
- 金尾滋史 (2019年6月6日) 第85回近畿ブロック水族館飼育係研修会 (日本動物園水族館協会), 宮津エネルギー研究所水族館 (京都府宮津市), [座長].
- Kanao, S. (2019年9月5日) Interaction with citizens and museum users at the museum brings new natural history information about the area. ICOM KYOTO 2019 NatHist, Osaka Museum of Natural History (Osaka City, Osaka Pref.), [Oral presentation].
- 金尾滋史 (2019年9月12日) 定例の自然観察会がもたらす新発見とモニタリングとしての機能. 第69回魚類自然史研究会, 福山市生涯学習プラザ学びの館ローズコム (広島県), [口頭発表].
- 金尾滋史・川瀬成吾・山野ひとみ・根来 央・小西雅樹・小田優花 (2019年9月12日・13日) 第69回魚類自然史研究会, 福山市生涯学習プラザ学びの館ローズコム (広島県), [企画運営].
- 金尾滋史 (2019年9月13日) 淡水魚の保全をめぐるさまざまな連携. 第69回魚類自然史研究会関連シンポジウム「スイゼンゼニタナゴの過去・現在・未来」, 福山市生涯学習プラザ学びの館ローズコム (広島県), [口頭発表].
- 金尾滋史・古本哲史・福山市経済産業局自然環境保全課 (2019年9月13日) 第69回魚類自然史研究会関連シンポジウム「スイゼンゼニタナゴの過去・現在・未来」, 福山市生涯学習プラザ学びの館ローズコム (広島県), [企画運営].
- 金尾滋史 (2019年9月20日) 自然史情報集約の場としての博物館の機能. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 金尾滋史 (2019年11月23日) ニッポンバラタナゴ飼育ガイドライン. 第21回種保存会議魚類分科会 (日本動物園水族館協会), 札幌パークホテル (札幌市中央区), [口頭発表].

- 金尾滋史（2019年12月14日）企業や地域と連携した希少淡水魚の生息域外保全が生み出すもの。第60回日本動物園水族館教育研究会柏大会，東京大学大気海洋研究所（千葉県柏市），[口頭発表]。
- 金尾滋史（2019年12月14日）ポスターセッション。第60回日本動物園水族館教育研究会柏大会，東京大学大気海洋研究所（千葉県柏市），[座長]。
- 金尾滋史（2019年12月15日）総合討論。第60回日本動物園水族館教育研究会柏大会，東京大学大気海洋研究所（千葉県柏市），[座長]。
- 金尾滋史・北村美香・西澤真樹子（2019年12月15日）ワークショップ「私の〇〇を使った展示づくりと教育普及を考えよう！」。第60回日本動物園水族館教育研究会柏大会，東京大学大気海洋研究所（千葉県柏市），[企画運営]。
- 大塚泰介・金尾滋史・鈴木隆仁（2019年12月15日）第9回琵琶湖地域の水田生物研究会（琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会），琵琶湖博物館，[企画運営]。
- 北野大輔・金尾滋史・大塚泰介（2019年12月15日）求む！滋賀の生き物情報「淡海生物」原稿募集中。第9回琵琶湖地域の水田生物研究会（琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会），琵琶湖博物館，[企画運営]。
- 金尾滋史（2019年12月17日）博物館や水族館での交流事業・普及教育が生み出すこれまでの価値、新たな価値。東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会「水族館における教育とアウトリーチ活動。現状と展望。」，東京大学大気海洋研究所（千葉県柏市），[口頭発表]。
- 金尾滋史（2019年12月17日）東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会「水族館における教育とアウトリーチ活動。現状と展望。」，東京大学大気海洋研究所（千葉県柏市），[座長]。
- 金尾滋史（2020年1月20日）博物館で“持続可能性”って何するの？～研究や教育、保全、まちづくりの現場から～，KONAN プレミア・プロジェクト「博学プロジェクト」第4回公開シンポジウム「ミュージアムを知ろう」持続可能性(サステナビリティ)について考える 博物館学芸員が語るミュージアムの現場～展示や交流活動、研究・調査活動から～（甲南大学理工学部生物学科、甲南大学文学部人間科学科・歴史文化学科），甲南大学岡本キャンパス（神戸市東灘区），[口頭発表]。
- 金尾滋史（2020年1月30日）滋賀県内におけるホトケドジョウの分布と生息状況。第64回水族館技術者研究会（日本動物園水族館協会），西鉄グランドホテル（福岡市中央区），[口頭発表]。
- 金尾滋史（2020年1月31日）第64回水族館技術者研究会（日本動物園水族館協会），西鉄グランドホテル（福岡市中央区），[座長]。

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖周辺域における水田利用魚類リストの作成」，（2019年度）。
- 琵琶湖博物館共同研究『『田んぼの生きもの全種リスト』の増補更新と公開システムの構築』（研究代表者：大塚泰介），研究副代表者（2017年度～2020年度）。
- 琵琶湖博物館共同研究「幼児の博物館体験と野外体験の効果」（研究代表者：中村久美子），共同研究者（2018年度～2020年度）。
- 科学研究費助成事業（基盤C）「希少淡水魚アユモドキの水田水域への産卵遡上に適する魚道構造の研究（研究代表者：高橋直己），研究分担者（2019年度～2021年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本魚類学会，自然保護委員会希少淡水魚問題検討部会，委員。
- 日本貝類学会，研究連絡誌「ちりぼたん」，編集委員。
- 農業農村工学会，農村生態工学研究部会，代表幹事。
- 日本動物園水族館教育研究会，運営委員。
- 日本動物園水族館教育研究会，日本動物園水族館教育研究会誌，編集長。
- 魚類自然史研究会，幹事。
- 日本貝類学会，情報誌ちりぼたん，査読，1件。
- 「野生生物と社会」学会，学会誌，査読，1件。

日本動物園水族館教育研究会，日本動物園水族館教育研究会誌，査読，4件。
日本動物園水族館協会，生物多様性委員会魚類作業部会種別調整者（ニッポンバラタナゴ）。
日本動物園水族館協会，第64回全国水族館技術者研究会，ベストプレゼンテーション賞審査員。
日本動物園水族館教育研究会，第60回日本動物園水族館教育研究会出雲大会，ポスター賞審査員。

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年4月23日，長浜バイオ大学バイオサイエンス学部アニマルバイオサイエンス学科学生，卒業研究に関する助言。
2019年10月26日，天津市立田上中学校生徒，学生科学賞県展出展研究に関する助言。
2019年11月29日，龍谷大学農学部食料農業システム学科学生，卒業論文に関する助言。
2019年12月12日，滋賀県立大学環境科学部，「環境フィールドワーク III」。
2019年12月19日，長浜バイオ大学バイオサイエンス学部，「水族館実習」。
2020年1月5日，びわこ学院大学，「滋賀の環境」。
2020年1月9日，滋賀県立大学，「博物館資料保存論」。
2020年2月5日，成安造形大学，「滋賀の民俗誌」。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，11件。
はしかけグループ「温故写新」，担当，活動23回。
電話・窓口・メールによる質問への対応，270件。
窓口・メールによる生物の同定依頼，30件（60点）。
2019年5月18日，琵琶湖博物館まわりの生き物／撮影スポット，海野和男の生き物写真のススメ（共催：生き物写真リトルリーグ），琵琶湖博物館，講師。
2019年6月9日，みんなで湖魚料理を作ろう！<コアユ・シジミ編>（共催：滋賀県漁業協働組合連合会青壮年会），博物館で楽しもう，琵琶湖博物館，講義・実習，（片岡佳孝と共同）。
2019年7月28日，初心者のためのふなずし作り体験！，博物館で楽しもう，琵琶湖博物館，講義・実習，（松田征也・片岡佳孝と共同）。
2019年8月11日，びわ湖を歩こう！（共催：湖北野鳥センター），湖北野鳥センター（長浜市），講師。（中村久美子と共同）。
2019年8月17日，下物ビオトープ観察会（共催：琵琶湖保全再生課），琵琶湖博物館・下物ビオトープ（草津市），講師。
2019年8月26日，水族展示案内，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。
2019年10月8日～10月9日，生物多様性委員会魚類作業部会（(公社)日本動物園水族館協会），上野動物園（東京都台東区），ニッポンバラタナゴ種別調整者報告。
2019年10月26日，江戸時代の絵画から琵琶湖の魚を読みとくー湖魚奇観から湖中産物図証の魚たちー，野洲市歴史民俗博物館秋季企画展「人と魚の歴史学」記念講演会，野洲市歴史民俗資料館（野洲市），講演。
2019年11月2日，みんなで湖魚料理を作ろう！<秋のプレミアム編>（共催：滋賀県漁業協働組合連合会青壮年会），博物館で楽しもう，琵琶湖博物館，講義・実習，（片岡佳孝と共同）。
2019年11月23日～11月25日，第21回種保存会議（(公社)日本動物園水族館協会），札幌パークホテル（札幌市中央区），タナゴ類飼育ガイドライン報告。

他の博物館・機関等の主催行事

- 2019年6月22日、観察会指導、須原魚のゆりかご水田観察会（せせらぎの郷須原）、須原蓮池の里公園（野洲市）、講師。
- 2019年7月15日、観察会指導、かつべ水フェスタ 水辺の生き物観察会（勝部自治会）、守山市生涯学習・教育支援センター（守山市）、講師。
- 2019年7月29日、講義・実習「野外活動での指導・観察・ポイント」、米原市教育センター小中環境部会夏季研修会、米原市立大東中学校（米原市）、講師。
- 2019年8月3日、観察会指導、夏休みこども環境学習会 in びわ博（ダイハツ工業株式会社）、琵琶湖博物館、講師。
- 2019年8月6日、観察会指導、犬上川の生きもの観察会（快適環境づくりをすすめる会）、犬上川（彦根市）、講師。
- 2019年8月7日、実習指導、滋賀県高等学校文化連盟自然科学部会夏季研修会、琵琶湖博物館、講師。
- 2019年8月24日、展示案内、旭化成守山製造所琵琶湖博物館見学・トンボ観察会（旭化成株式会社守山製造所）、琵琶湖博物館、講師。
- 2019年9月19日、講義「琵琶湖の水環境」、愛荘町さわやかまちづくり推進協議会研修会、琵琶湖博物館、講師。
- 2019年10月5日、観察会指導、ラ コリーナ田んぼの生き物観察会（株式会社たねや農藝）、たねや ラ コリーナ 近江八幡（近江八幡市）、講師。
- 2019年10月24日、第63回滋賀県学生科学賞県展 中学生の部、稲枝地区公民館（彦根市）、審査員。
- 2019年11月10日、講演「大橋コレクションと琵琶湖博物館における映像資料の収集・整理・保存・活用・活動の紹介」、彦根・足軽辻番所サロン芹橋生活（彦根辻番所の会）、善利組足軽屋敷「辻番所・旧磯島邸」（彦根市）、講師。
- 2019年11月16日、滋賀県立大学キャンパスSDGsびわこ大会ワークショップ「琵琶湖の環境」（滋賀県立大学地域共生センター）、滋賀県立大学（彦根市）、ファシリテーター。
- 2019年12月22日、講演「淡水魚の保全における市民活動の役割と博物館の機能」、本願清水イトヨの里市民講座「希少魚の保全と未来～市民活動と最新研究～」、本願清水イトヨの里（福井県大野市）、講師。
- 2020年1月15日、講義「ヨシ原の生態系と外来生物について」、しが子どもエコクラブ市町担当者会議（滋賀県環境政策課）、琵琶湖博物館、講師。
- 2020年2月3日、講演「田んぼの生きものをシンボルとした豊かな環境づくり」、農村環境づくりセミナー（坂井市農地水広域協定）、ハートピア春江（福井県坂井市）、講師。
- 2020年2月8日、講義「琵琶湖の外来種の現状とワタカの放流について」、たいひがワタカクラブ（大宝東小学校）、琵琶湖博物館、講師。

視察等への対応

- 2019年6月29日、展示案内、グッドウィルナー草津。
- 2020年1月10日、水族展示視察、西海国立公園九十九島水族館。

メディアへの対応

- 2019年4月19日、NHK 大津放送局「おうみ発スペシャル まるっと平成Q～映像でふりかえる滋賀～」、取材対応、（4月8日取材）。
- 2019年5月3日、KBS 京都テレビ「きらきん！：マッハが来る 琵琶湖博物館から生中継！」、取材対応・出演、（5月3日生放送）。
- 2019年5月10日、Web アミンチュ「びわ湖の湖魚を食べてみた：イワトコナマズ編」、取材対応・写真提供、（4月25日取材）。
- 2019年5月15日、SHIGA's GUIDE6月号（ここ滋賀）、取材対応・校正対応、（4月19日取材）。
- 2019年5月23日、じゃらん家族旅行2019－関西・東海・中国・四国版－（リクルート）、取材対応・校正対応、（4月8日取材）。

2019年5月25日, どうぶつのくに Vol. 123 (どうぶつのくに編集部), 「特集:琵琶湖博物館 弁財天とピワコオオナマズ」, 取材対応, (4月16日取材).

2019年5月31日, Kansai Walker 特別編集 無料&格安日帰り遊びBOOK ウォーカームック (KADOKAWA), 取材対応・校正対応, (5月8日取材).

2019年5月31日, チェキポン6月号 (チェキポン編集部) 「びわ湖の青」取材対応・校正対応, (3月22日取材).

2019年6月14日, 京阪神・名古屋発 まっふる家族でおでかけ 夏休み (昭文社), 取材対応・校正対応, (5月3日取材).

2019年6月14日, Web アミンチュ 「びわ博の中の人:カヤネズミ・ディスカバリールーム」, 取材対応, (4月25日取材).

2019年6月20日, Tokai Walker7月号 (KADOKAWA) 「空中遊歩道から望む琵琶湖の水景色」, 取材対応・校正対応, (5月23日取材).

2019年6月24日, JTB MOOK るるぶにつぼんの水族館 (JTB パブリッシング), 取材対応・校正対応, (4月24日取材).

2019年6月30日, まま・ここっと滋賀版夏号 (中広) 「発見しよう! 体感しよう! 琵琶湖の生き物」, 取材対応, 出演 (5月10日取材).

2019年7月1日, ことりっふ滋賀 (昭文社), 取材対応・校正対応, (4月2日取材).

2019年7月11日, 月刊アクアライフ8月号 (エム・ピー・ジャー) 「琵琶湖をほぼ一周して、日本の魚の世界を覗く」, 取材対応・コメント, (6月4日取材).

2019年7月12日, BBC びわ湖放送 「日本まんなか直送便プラス: どんどん進化中の琵琶湖博物館」, 取材対応・出演, (7月2日取材).

2019年7月14日, 7月21日, KBS 京都 「比叡の光: 琵琶湖と人に出会う」, 取材対応, (6月11日取材).

2019年7月20日, The Style/KuruKuru マガジン夏号 (滋賀トヨタ自動車株式会社・ネットトヨタ株式会社), 知っているようで、意外と知らない!?! 滋賀県のこんなコト 滋賀県の魚編, 取材対応・校正対応, (6月28日取材).

2019年7月23日, 中日新聞 「ピワマスの謎の生態パネルや剥製で迫る」, 取材対応・コメント, (7月22日取材).

2019年7月26日, BBC びわ湖放送 「滋賀創生 SOSE 編集部: 琵琶湖博物館を探検」, 取材対応・出演, (7月16日取材).

2019年8月3日, 最新版 いきもの・見る人みんな幸せ 動物園&水族館 完全ガイド (廣済堂), 取材対応・校正対応, (4月29日取材).

2019年8月7日, 関西テレビ 「よーいドン!: ロザンのうんちくん」, 取材対応・出演, (7月11日取材).

2019年8月7日, BBC びわ湖放送 「キラりん滋賀 ほしかのお熱いのがお好き: 企画展示の紹介」, 取材対応, (8月7日生放送).

2019年8月9日, Casa BRUTUS 9月号 (マガジンハウス) 「最新! 動物園と水族館。」, 取材対応・校正対応, (7月5日).

2019年8月13日, 関西 Walker18号 (KADOKAWA) 「ファミリーお出かけ~博物館編」, 取材対応・校正対応, (7月26日取材).

2019年8月20日, 秋ぴあ関西版2019 (ぴあ), 取材対応・校正対応, (6月28日取材).

2019年8月22日, BBC びわ湖放送 「知ったかぶりカイツブリにゅーす: びわ博ナイトミュージアム」, 取材対応・出演 (7月27日取材).

2019年8月23日, 日本経済新聞 「おでかけスポット 大人も子どもも古代湖の謎発見」, 取材対応・コメント, (8月8日取材).

2019年8月29日, Web アミンチュ 「びわ博の中の人: 琵琶湖の主 “ピワコオオナマズ”」, 取材対応・出演, (8月20日取材).

2019年8月31日, Web アミンチュ 「びわ博の中の人: 水が漏れない不思議な水槽」, 取材対応・出演, (8月20日取材).

2019年9月10日, 読売テレビ「すまたん：厄介者？タンカイザリガニを」, 取材対応・出演, (9月6日取材).

2019年9月11日, 月刊アクアライフ10月号「淡水魚の伝統料理！ふなずしを作ってみよう」, 取材対応・コメント, (7月25日取材).

2019年9月13日, 何度も行きたくなる動物園&水族館ベストランキング最新版(晋遊舎), 取材対応・校正対応, (7月2日).

2019年9月20日, Wedge10月号(ウエッジ), 取材対応・校正対応, (8月28日).

2019年9月25日, 日本テレビ「news every. :天然アユがピンチ？ある生物が異常繁殖」, 取材対応・写真提供, (9月16日取材).

2019年9月25日, SUUMO 草津情報誌(リクルート), 「草津のおでかけスポット」, 取材対応, (8月2日取材).

2019年10月1日, エフエムひこね「この人に会いたい：琵琶湖博物館の全体説明 その1」, 取材対応・出演, (6月18日取材).

2019年10月2日, エフエムひこね「この人に会いたい：琵琶湖博物館の全体説明 その2」, 取材対応・出演, (6月18日取材).

2019年10月3日, エフエムひこね「この人に会いたい：琵琶湖博物館の全体説明 その3」, 取材対応・出演, (6月18日取材).

2019年10月4日, エフエムひこね「この人に会いたい：琵琶湖博物館の全体説明 その4」, 取材対応・出演, (6月18日取材).

2019年10月8日, エフエムひこね「この人に会いたい：水族展示の紹介 その1」, 取材対応・出演, (6月18日取材).

2019年10月9日, エフエムひこね「この人に会いたい：水族展示の紹介 その2」, 取材対応・出演, (6月18日取材).

2019年10月10日, エフエムひこね「この人に会いたい：水族展示の紹介 その3」, 取材対応・出演, (6月18日取材).

2019年10月11日, エフエムひこね「この人に会いたい：水族展示の紹介 その4」, 取材対応・出演, (6月18日取材).

2019年10月15日, NHK 総合「列島縦断宝メシグランプリ 2019：イワトコナマズのじゅんじゅん」, 取材対応, (9月29日取材).

2019年10月18日, FM おおつ「ランチタイムおおつ」, 琵琶湖博物館紹介, 出演, (10月18日生放送).

2019年10月25日, 月刊誌Leaf12月号(Leaf 編集部)「琵琶湖博物館に行こう！」, 取材対応・コメント, (9月24日取材).

2019年11月1日, d news 1号(D&DEPARTMENT PROJECT)「好評！リニューアルした琵琶湖博物館」, 取材対応・校正対応, (9月25日).

2019年11月27日, 毎日放送「水曜日トークショー フナの日だけに淡水魚のワンダーな世界」, 写真提供, (11月9日取材).

2019年12月1日, 西川貴教ファンクラブ会報誌「turbo EXPRESS」142号, 取材対応, (10月21日取材).

2019年12月5日, NHK 天津放送局「おうみ発630：バイカルアザラシ死亡」, 取材対応・コメント, (12月5日取材).

2019年12月5日, BBC びわ湖放送「びわ湖放送ニュース：バイカルアザラシ「マリ」死ぬ」, 取材対応・コメント, (12月5日取材).

2019年12月5日, 読売新聞「アザラシの「マリ」死ぬ」, 取材対応・コメント, (12月4日取材).

2019年12月5日, 朝日新聞「さようならマリ」, 取材対応・コメント, (12月4日取材).

2019年12月5日, 中日新聞「バイカルアザラシ1頭死ぬ」, 取材対応・コメント, (12月4日取材).

2019年12月5日, 京都新聞「バイカルアザラシ急性腎不全で死ぬ」, 取材対応・コメント, (12月4日取材).

2019年12月6日, 毎日新聞「アザラシ「マリ」死ぬ」, 取材対応・コメント, (12月4日取材).

2019年12月6日, 産経新聞「バイカルアザラシ天国へ」, 取材対応・コメント, (12月4日取材).

2019年12月6日, BBC びわ湖放送「勇さんのびわ湖カンパニー：琵琶湖博物館の紹介」, 出演, (11月28日取材).

2020年12月10日, 子供の科学 2020年1月号(誠文堂新光社), 取材対応・校正対応, (11月24日取材).

2019年12月11日, Web アミンチュ「水中ドローンびわ湖の中の旅番外編:びわ湖のお魚チェック」, 取材対応・出演, (11月28日取材).

2019年12月19日, NHK 教育「天才てれびくん YOU: 珍ゲーム続々! マーヴェラス トレーニングフェス IN 滋賀」, 取材対応, (11月13日取材).

2019年12月20日, 関西 Walker 別冊「ファミリー遊び場ランキング」(KADOKAWA), 取材対応・校正対応, (11月12日取材).

2019年12月21日, NHK 天津放送局「おうみ630: トンネル水槽にサンタ登場」, 取材対応・コメント, (12月21日取材).

2019年12月22日, 読売新聞「泳ぐサンタさん」, 取材対応・コメント, (12月21日取材).

2019年12月22日, 朝日新聞「サンタが泳いでやってきた」, 取材対応・コメント, (12月21日取材).

2019年12月22日, 毎日新聞「スイスイサンタ」, 取材対応・コメント, (12月21日取材).

2019年12月22日, 中日新聞「サンタさんお魚とスイスイ」, 取材対応・コメント, (12月21日取材).

2019年12月23日, 春夏秋冬びあ 2020 関西版(びあ), 取材対応・校正対応, (11月18日取材).

2019年12月24日, びわ湖大津経済新聞「水槽を泳ぐサンタクロースに子どもたちが大喜び」, 取材対応・コメント, (12月23日取材).

2019年12月25日, BS 朝日「未来レストランへようこそ~究極の一皿を召し上がれ!」, 取材対応・写真提供, (12月6日取材).

2020年1月号, 月刊誌 Leaf 1月号(Leaf 編集部)「リニューアルした琵琶湖博物館へ行ってみた!」, 取材対応・コメント, (10月29日取材).

2020年1月4日, 毎日新聞「広がれネズミのイメージ」, 取材対応・コメント, (1月3日取材).

2020年1月5日, 京都新聞「滋賀のネズミ チュー~目」, 取材対応・コメント, (1月2日取材).

2020年1月5日, BBC びわ湖放送, びわ湖放送ニュース, 干支展を開催チュー♪, 取材対応・コメント, (1月2日取材).

2020年1月5日, 中日新聞「古今東西ネズミ集合」, 取材対応・コメント, (1月3日取材).

2020年1月6日, 朝日新聞「子年にちなんでネズミたち紹介」, 取材対応・コメント, (1月5日取材).

2020年1月7日, びわ湖大津経済新聞「琵琶湖博物館で干支のネズミ企画展 最小のカヤネズミと最大のヌートリア展示も」, 取材対応・コメント, (1月7日取材).

2020年1月7日, NHK 天津放送局「おうみ630: 干支にまつわるネズミの展示」, 取材対応・コメント, (1月7日取材).

2020年1月15日, 読売新聞「いろいろいる子(ね)」, 取材対応・コメント, (1月2日取材).

2020年1月18日, 読売新聞「タガメ売買禁止へ」, 取材対応・写真提供, (1月16日取材).

2020年1月21日, 関西 Walker 2020年3号(KADOKAWA), 取材対応・校正対応, (1月8日取材).

2020年1月25日, NHK 総合「スタジオパークからこんにちは: 西川貴教さんによる滋賀県の見どころ紹介」, 取材対応, (1月14日取材).

2020年2月2日, テレビ朝日「ナニコレ珍百景: 世界で3番目に古い湖、琵琶湖」, 取材対応・出演, (12月11日取材).

2020年2月6日, 関西春 Walker (KADOKAWA), 取材対応・校正対応, (1月15日取材).

2020年2月10日, 旅の手帳 2020年3月号(交通新聞社)「琵琶湖の湖魚観察とおごと温泉」, 取材対応・校正対応, (1月10日取材).

2020年2月13日, るるぶこどもとあそぼ! 関西'21 (JTB パブリッシング), 取材対応・校正対応, (11月25日取材).

2020年2月17日, BS-TBS「日本列島! ハテナの旅: 京都・滋賀で大人の修学旅行」, 取材対応・出演, (1月9日取材).

2020年2月24日, 読売新聞「ゾウの骨格模型など展示物一足早く体感」, 取材・コメント, (2月22日取材).

2020年2月24日, 京都新聞「貫頭衣体験ばしゃり」, 取材・コメント, (2月23日取材).

2020年2月29日, BBC びわ湖放送「夕方のニュース: 県内各施設臨時休館」, 取材対応・コメント, (2月29日取材).

2020年2月29日, びあMOOK 美術館&博物館さんぽ東海版(びあ), 取材対応・校正対応, (2月9日取材).

2020年3月9日, るるぶ滋賀びわ湖長浜彦根'21 (JTB パブリッシング), 取材対応・校正対応, (12月12日取材).

2020年3月9日, まっふるマガジン滋賀'21 (昭文社), 取材対応・校正対応, (11月13日取材).

2020年3月13日, まっふる家族でおでかけ京阪神一名古屋周辺 (昭文社), 取材対応・校正対応, (11月9日取材).

2020年3月17日, Web アミンチュ「クイズ滋賀道 河原の石の正体は?」, 取材対応, (3月17日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

貝類標本維持管理, 主担当.

水族資料収集, 担当.

水族資料維持管理, 担当.

貝類資料提供受入, 25件(淡水貝類).

貝類資料寄贈受入, 1件(淡水貝類).

魚類資料収集, 50件(淡水魚).

水族資料(タモロコ、ミナミメダカ)分譲対応, 1件.

水族資料(ムサシトミヨ)受入対応, 1件.

魚類標本特別観覧対応, 1件.

貝類標本特別観覧対応, 1件.

環境収蔵庫資料(湖魚料理レプリカ)貸出し対応, 1件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第27回企画展示「海を忘れたサケ・ビワマス謎に迫る」, 副担当.

第31回水族企画展示「ビワマスと仲間たち」, 副担当.

水族展示維持管理, 担当.

野洲市立歴史民俗博物館 秋期企画展「人と魚の歴史学」(2019年10月5日~11月24日), 魚類写真提供.

モーニングレクチャー, 講義, 1回(4日).

展示交流員と話そう, 内容指導. 2件.

他の博物館・機関等の活動

番匠おさかな館, 2019年7月13日~10月14日, 2019年度夏の特別展「大分おさかな館~大分県の在来淡水魚ほぼ展示します!」, 魚類提供.

本願清水イトヨの里, 2018年8月1日~9月16日, イトヨの里企画展2019「琵琶湖博物館移動博物館がやってくる! 古代湖琵琶湖の生き物昔と今」, 移動博物館展示貸し出し・魚類標本・パネル・魚類写真提供.

甲良町立図書館, 2019年10月9日~10月31日, パネル展示「犬上川の魚・甲良の魚」, 魚類写真提供・解説執筆.

大阪市立自然史博物館, 2020年3月1日~5月31日, 第50回特別展「知るからはじめる外来生物~未来へつなぐ地域の自然~」, 甲殻類資料・甲殻類写真提供.

西海国立公園九十九島水族館海きらら, 2020年3月14日~5月10日, 春の特別展「こい! コイ! 鯉! 展」, 魚類写真提供.

【企画調整活動】

新任職員研修, 水族展示案内(2019年4月18日), 講師.

来館 1100 万人イベント，企画・記録写真撮影（2019 年 9 月 27 日，琵琶湖博物館アトリウム）。

【広報営業活動】

広報、資料提供，主担当。

有料広告，主担当．3 件。

資料提供，70 件。

びわ博ナイトミュージアム，野洲のおっさんトークショー，企画・進行（2019 年 7 月 27 日，琵琶湖博物館アトリウム）。

イナズマロックフェス 2019 おいでーな滋賀体感フェア出展ブース，展示解説（2019 年 9 月 21 日・9 月 22 日，からすま半島広場（草津市））。

計量の日関連イベント「カメの公開身体測定」（共催：滋賀県計量検定所），講師（2019 年 11 月 9 日，琵琶湖博物館 C 展示室）。

アトリウムコンサート，記録写真撮影（2019 年 12 月 7 日，琵琶湖博物館アトリウム）。

アトリウムコンサート，記録写真撮影（2019 年 12 月 21 日，琵琶湖博物館アトリウム）。

水族展示「トンネル水槽にサンタがやってくる」，担当・展示解説（2019 年 12 月 21 日，12 月 23 日，12 月 24 日，琵琶湖博物館水族展示）。

企業の生物多様性保全活動などに関する相談対応，9 件。

琵琶湖博物館公式 Facebook，担当，150 件。

毎日新聞「びわ博 こだわり展示の裏話」連載担当。

Web アミンチュ「びわ博の中の人」撮影担当。

【研究部関連事業】

琵琶湖地域の水田生物研究会，主催（大塚泰介・鈴木隆仁と共同）。

企画展示関連シンポジウム「ビワマスとその仲間たちをもっと身近に」，副担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2019 年 5 月 21 日～5 月 24 日，韓国国立洛東江生物資源館，第 5 回韓国・日本合同セミナー「韓国と日本における淡水の生物多様性とその変化」での発表・今後の連携協議。

【館外の活動】

滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課 滋賀県生きもの総合調査委員会魚貝類部会，委員（2006 年 8 月～）。

環境省自然環境局，希少野生動植物種保存推進員（2010 年 7 月～）。

滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，滋賀県希少野生動植物調査監視指導員（2010 年 4 月～）。

NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク 標本救済ネット，ケースワーカー（2012 年 2 月～）。

環境省自然環境局生物多様性センター 絶滅危惧種分布重要地域抽出のための環境 DNA 分析技術を用いた淡水魚類調査手法の標準化・一般化に関する検討会，委員（2019 年 2 月～）。

農林水産省近畿農政局 二次的自然環境における生物多様性保全検討調査，有識者（2019 年 4 月～）。

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 令和元年度ハカタスジシマドジョウの生息域外保全の実施に向けた連絡会議，検討委員（2020 年 3 月～）。

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 令和元年度タンゴスジシマドジョウの生息域外保全の実施に向けた連絡会議，検討委員（2020 年 3 月～）。

研究部では、平成 30 年度から継続している共同研究「幼児の博物館体験と野外体験の効果」において、屋外展示と展示室を使った幼児を対象としたプログラム活動を毎月 1 回実施した。子どもの発話から博物館体験における学びの効果を検証することを目的としている。加えて、平成 31 年度 (令和元年度) から、科学研究費助成事業の若手研究の助成を受けて、「博物館における幼児期の学びを定量的に評価する手法」の研究を開始した。共同研究の毎月 1 回のプログラム (ちっちゃな子どもと自然あそび (ちこあそ) のはしかけ活動) では、神戸大学人間発達科学部大野朋子准教授と共同で実施しており、今年度はデータ数が少なかつたため、来年度も継続したデータ収集に努める。現時点では、2017 年度から展示室も含めて合計 217 件のデータを収集した。また、参加者へのアンケート (計 24 名) によると、自然や野外活動に関わる機会を求めるとき、普段は博物館を含む教育福祉施設等を選ぶ傾向にないことが示唆された。そして科研費では、丸子船をテーマにした展示キットを製作し、リニューアル前の B 展示室において展示キットの有無による活動の違いを検証するため、89 件のデータを収集した。随時テキストに起こし解析を進めており、展示交流員のかかわりも滞在時間に大きく影響することが示唆された。これはおそらく B 展示室に限らず、各展示室で展示交流員の効果が高いことがうかがえる。加えて、からすま半島における哺乳類調査を開始し、自動撮影カメラの設置とトラップ調査を行った。半島内では 7 科 12 種の哺乳類が確認された。中には滋賀県の希少種であるカヤネズミの生息も確認されたため、カヤネズミの営巣調査および越冬巣内の温湿度調査を行った。

総務部企画調整課では、日本動物園水族館協会、全科協、日博協等の外部との連絡担当業務を行った。各地で行われる総会や館長会議等に同行し、国内の博物館の動向など知識を得ることができた。また ICOM 開催中には、自然史レガシー継承・発信実行委員として、当館も含む 11 館で展示企画「JAPAN COLOR」を共同開催 (8 月 30 日 (金) ~9 月 16 日 (月祝)) し、担当として哺乳類の毛を使った筆やそのはく製などを展示した。会場では、多くの方と交流する機会があり、多くの方が日本の文化と自然のつながりを感じていることを知り、来場者に新しい情報をいただくこともできた。さらに、館内イベントの整理および情報の取りまとめを行い、イベントチラシを発行した。滋賀県博物館協議会の記念事業委員では 40 周年に向けた記念事業の準備を行った。交流活動では、ちこあそとほねほねクラブの 2 つのはしかけグループを担当した。また自然調査ゼミナールでは、哺乳類班として中学生と一緒に屋外展示の哺乳類調査を行った。さらに、環境学習センター主催の活動者交流会では、積水樹脂株式会社と共催で足型取りと環境学習プログラム作成の研修を実施予定であったが、新型コロナウイルス予防のため延期となった。資料活動では、陸域生体 (カヤネズミ) の飼育業務を新たな繁殖に向けて継続している。

印刷物

【学術論文】

澤邊久美子・夏原由博 (2019) 小規模半自然草地におけるカヤネズミの冬季の営巣環境. 保全生態学研究 (日本生態学会), 24 (1) : 31-38.

【一般向けの著作】

中村久美子 (2019) びわ博 こだわり展示の裏話 43 本当のタヌキってどんな顔?. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 5 月 28 日.

中村久美子 (2019) 湖岸より 352 筆に珍重 琵琶湖のネズミ. *中日新聞*, 中日新聞社, 8 月 31 日.

中村久美子 (2019) 生きている阿蘇を感じて. *草原だより「私の阿蘇」*, 8 : 2.

中村久美子 (2020) びわ博 こだわり展示の裏話 54 ネズミにまつわる滋賀のおはなし. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 1 月 21 日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 中村久美子・妹尾裕介・森 智美・南 悠穂・片淵綾香（2019年6月23日）琵琶湖博物館ディスカバリールームのリニューアルについて. 全日本博物館学会第45回研究大会, 新潟県立歴史博物館（長岡市）, [口頭発表].
- 中村久美子・森人（2019年9月16日～18日）自動撮影カメラによる樹冠トレイル工事前後の生物相の比較. 日本哺乳類学会2019年度大会, 中央大学後楽園キャンパス（東京都文京区）, [ポスター発表].
- 中村久美子（2019年9月20日）ディスカバリールームのリニューアルと幼児の博物館活動について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- Ashiya, M. and Nakamura, K. (2019年9月5日) A museum's contribution to sustaining local nature and culture relationships; what we learned from making an exhibition about biodiversity and utilization of reed marshes around Lake Biwa. ICOM KYOTO 2019(ICOM), Osaka Museum of Natural History(Osaka city), [Poster session].
- 中村久美子・北村美香（2020年2月13日～14日）「出会いの場」であり続ける展示室－展示交流って何？ から10年－. 第27回全国科学博物館協議会研究発表大会, 高知未来科学館オーテピア（高知市）, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「ディスカバリールームにおける幼児の博物館体験」, (2019年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「幼児の博物館体験と野外体験の効果」(研究代表者: 中村久美子), 研究代表者 (2018年度～2021年度).
- 科学研究費助成事業(若手)「博物館における幼児期の学びを定量的に評価する指標」(研究代表者: 中村久美子), 研究代表者 (2019年度～2021年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本環境動物昆虫学会, 環境アセスメント動物調査手法研究部会, 運営委員, 2017年1月～2021年3月.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2019年4月～2020年3月, 神戸大学大学院生, 研究指導.
- 2019年8月7日, 神戸大学大野研究室ゼミナール, 「琵琶湖博物館における資料管理及び展示手法について」.
- 2019年10月25日, 草津東高校放送部, 琵琶湖の環境保全とヨシのかかわりについて, インタビュー対応.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 11件. (うち2件コロナにより休館)
- はしかけグループ「ちこあそ」, 運営補助, 12件.
- はしかけグループ「ほねほねクラブ」, 運営補助, 10件. (うち3件コロナにより中止)
- インターネットを通じた質問への対応, 3件.
- 2019年6月8日, 石ころdeアート!, わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 運営補助, (滋賀県立近代美術館共催).
- 2019年7月27日, ヨシ明かりを作ろう, ナイトミュージアム, 琵琶湖博物館, 運営・講師, (ヨシ灯り実行委員会共催).
- 2019年7月30日, 哺乳類班, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2019年8月11日, 琵琶湖を歩こう!, 湖北野鳥センター, 運営補助, (湖北野鳥センター共催).

2019年10月19日、ちっちゃなこどものしぜんあそび、びわ博フェス、琵琶湖博物館、運営。

2019年11月4日、〇〇をさがせ！絵解きで見る瀬田の唐橋、B展示室クロージングイベント、琵琶湖博物館、運営。

2020年1月11日、人間コマでダムすごろく！、琵琶湖博物館、運営、(治水・利水を学ぶ・楽しむ実行委員会共催)。

2020年2月27日、環境学習プログラムの作り方と哺乳類の痕跡から探る暮らし、2019活動者交流会(積水樹脂株式会社・琵琶湖博物館環境学習センター)、積水樹脂株式会社R&Dプラザ(蒲生郡)、講師。(コロナにより延期)

他の博物館・機関等の主催行事

2019年10月9日、講義「博物館職員の仕事」、琵琶湖博物館見学(大阪ECO動物海洋専門学校)、琵琶湖博物館、講師。

2019年10月27日、講義「ヨシ帯の生きもの」、ファミリー自然観察会(大東市立野崎青少年教育センター)、琵琶湖博物館、講師。

2019年10月30日、講演「草むらの不思議が語る世界」、教育講演会(東近江市永源寺中学校区教育研究協議会)、東近江市立市原中学校(東近江市)、講義。

2019年12月1日、講演「博物館のお仕事」、第13回さとかん環境職業説明会(大阪府立大学里環境の会OPU)、大阪府立大学中百舌鳥キャンパス(堺市)、講義。

視察等への対応

2019年11月22日、ディスカバリールームとワークショップの見学および展示交流員との意見交換、島根県立三瓶自然館学芸課おもてなし推進室アテンダント。

メディアへの協力

2020年3月22日、ヌートリア被害について、読売新聞、電話取材。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

イベント情報の取りまとめ、情報集約。

メーリングリストの管理、更新。

全国科学系博物館協議会、日本博物館協会、日本動物園水族館協会、西日本自然史系博物館ネットワーク、連絡、情報発信、館内職員への案内。

おうちミュージアム、ワークシート製作公開。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

哺乳類(乾燥標本、骨格標本、その他)標本の管理(収集、受け入れ、貸出等)。

陸域生体(カヤネズミ)の飼育管理(飼育、繁殖、譲渡等)。

哺乳類標本データベース、管理。

他の博物館・機関等の活動

相模川ふれあい科学館「アクアリウムさがみはら」、カヤネズミ飼育個体(4個体)の譲渡、1件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

干支展「ねずみ!子!ネズミ!」(2020年1月2日~19日)、企画運営。

モーニングレクチャー、講義「ネズミの毛の筆」、1回(4日)。

展示交流員と話そう，指導，3件。

C展示室 ヨシ原に入ってみよう「ヨシ原の生きものパズル」，製作更新，2020年2月6日～。

C展示室 カヤネズミ，展示更新，随時。

大人のディスカバリー 哺乳類「ネズミの毛の筆とふなねずみ」，製作更新，2020年2月13日～。

ディスカバリールーム，ディスカバリーボックス「運べ！丸子船」，製作。

展示交流員博物館実習，カヤネズミ(2020年3月13日～28日)，琵琶湖博物館，撮影補助。

展示交流員博物館実習，琵琶湖博物館の展示交流とは(2020年3月24日・26日)，琵琶湖博物館，講師。

他博物館・機関の活動

自然史レガシー継承・発信実行委員会，企画展「JAPAN COLOR」(2019年8月30日～9月16日)，野口家住宅 花洛庵(京都市)，企画運営。

【企画調整活動】

全国科学系博物館協議会、日本博物館協会、日本動物園水族館協会、西日本自然史系博物館ネットワーク，連絡担当。

全国科学博物館協議会総会，出席・国立科学博物館(2019年7月4日)。

イベント情報(前期・後期)印刷物の編集・制作，2件。

滋賀県博物館協議会 記念事業委員会，6件。(うち1件コロナにより延期)

【研究部関連事業】

研究セミナー，運営，12件。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

自然史レガシー継承・発信実行委員会，運営委員(2019年5月～2020年3月)。

2019年度は育児時間休暇を利用しながら勤務を行い、11月から産前産後休暇を取得したため、約7か月間の勤務となった。しかしその間に、博物館の国際会議に初めて参加したり、館外の方と共に活動する機会を得たりと、これまでにない経験をすることができ、今後の職務に大いに活かすことができる1年となった。

博物館事業では、交流系の業務として、初めて館外の方々と活動する機会を得、改めて、様々な人に支えられている博物館事業であると認識するとともに、県民のための博物館として、より良い利用と交流をしていただけるよう努めていきたいと感じることができた。特に、当館のフィールドレポーターの活動は、他の博物館からも高い評価を得ており、その長年の活動を学ぶとともに、課題の洗い出しを行った。

水族管理担当業務としては、飼育業務委託先の変更に伴い、新たな飼育管理委託の調整を行った。委託先にも獣医師がいることから、情報交換しながら連携していくことで飼育管理のさらなる向上を図ることができた。また、中長期計画の1つとなっていたバイカルアザラシの繁殖が実を結び、雌の妊娠を、血中ホルモン濃度の動態および行動観察と腹部エコー検査にて診断した。残念ながら妊娠中に突然死してしまったが、多くの情報を得ることができたので、必ず次につなげていきたい。

研究としては、2017年度から着手しているバイカルアザラシの摂取栄養に関する基礎的研究を継続的に行い、評価を行う段階にきている。また、バイカルアザラシの繁殖に関するデータも収集した。他の飼育施設でもバイカルアザラシの繁殖が成功しつつあり、情報収集を継続していく。新たに、カヤネズミでの研究をスタートさせている。

印刷物

【専門分野の著作】

高橋啓一・島口 天・松岡由子 (2020) 津軽海峡から産出したセイウチ類の犬歯化石. *化石研究会会誌*, 52(2) : 69-75.

【一般向けの著作】

松岡由子 (2019) びわ博こだわり展示の裏話 45 バイカルアザラシの健康診断 検査方法 負担少なく. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 6月25日.

松岡由子 (2019) 琵琶湖の魚たち 大きな口と頭 コワモチのハス. *産経新聞*, 産経新聞社, 11月10日.

松岡由子 (2019) 湖岸より 359 バイカルアザラシの繁殖. *中日新聞*, 中日新聞社, 11月30日.

松岡由子 (2020) バイカルアザラシの展示を始めて. *ふれあい (滋賀県獣医師会学校飼育動物事業委員会)*, 22 : 7.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「飼育下バイカルアザラシの摂取カロリーに関する研究 3」, (2019年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本野生動物医学学会, 学術・教育委員会委員, 2016~2021年度.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，1件。

フィールドレポーター事業、主担当。

はしかけグループ「ほねほねくらぶ」，担当。

びわはくフェス，副担当。

2019年5月18日，フィールドレポーター交流会，琵琶湖博物館，司会・運営補助。

2019年5月26日・9月22日，はしかけ登録講座，琵琶湖博物館，フィールドレポーター制度説明・運営補助。

2019年7月27日，ナイトミュージアム，フロアトーク「バイカルアザラシ」，琵琶湖博物館。

2019年10月19日，びわ博フェス，フィールドレポーターワークショップ，琵琶湖博物館，補助。

2019年10月20日，びわ博フェス，ほねほねくらぶワークショップ，琵琶湖博物館，補助。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

バイカルアザラシの安定的飼育，飼育指導と動物状態管理，一日1回給餌立ち会い。

バイカルアザラシの健康診断，作業管理および血液・細菌検査，7回。

バイカルアザラシの妊娠判定，腹部エコー，3回。

展示両生類・鳥類の健康管理，飼育指導および細菌検査と治療，10回。

カヤネズミ飼育管理，補助。

その他水族飼育・管理。

【研究部関連事業】

研究セミナー運営，副担当。

薬品在庫管理，副担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2019年11月～2020年3月31日，産前産後休暇・育児休業取得。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけグループ「温故写新」, 運営補助.

2019年8月27日, 資料実習・写場案内, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等の主催行事

2019年5月18日, 引率とアクティビティ, 愛岐の里山たいけん隊～春の里山にいこう!～(「なごや環境大学」実行委員会/名古屋市愛岐処分場), 名古屋市愛岐処分場(岐阜県多治見市), 運営補助.

2019年11月16日, 引率とアクティビティ, 愛岐の里山たいけん隊～秋の里山にいこう!～(「なごや環境大学」実行委員会/名古屋市愛岐処分場), 名古屋市愛岐処分場(岐阜県多治見市), 運営補助.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

映像資料, 大橋コレクションの整理.

映像資料, 画像データベース資料データの登録・修正.

映像資料, 特別観覧対応, 10件(89点).

映像資料, 館内利用対応, 41件(2400点).

映像資料, 受け入れ対応.

映像資料, フィルム写真のデジタルデータ化, 10件(432点).

映像資料, 動画収集・仮登録, 63点.

映像資料, 動画の媒体変換.

映像資料, 資料撮影, 4回.

映像資料, 映像収蔵庫・写場及び収蔵資料の維持管理.

IPM, 生物環境調査, トラップ設置・回収, 3回.

IPM, 生物環境調査, 報告書作成, 2回.

Ph 測定(7箇所), 2回.

乳剤散布.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

野洲市歴史民俗博物館共催展「人と魚の歴史学」(2019年10月5日～11月24日), 上映動画の作成・展示準備.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

関西博物館研究会, 会員(2019年2月～).

滋賀県植物研究会, 会員(2020年2月～).

印刷物

【これまでの業績目録に掲載されていない著作】

【専門分野の著作】

細川真理子 (2007) お茶を作る. 淡海文化財論叢(淡海文化財論叢刊行会), 2 : 241-246.

細川真理子 (2012) 茶を作る道具. 民具を科学する—明治の絵図と現代の実測図から見た近江の民具—, 琵琶湖博物館, pp.12-13.

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

考古資料整備, 整理・クリーニング・燻蒸.

資料データベース(考古資料)の作成, 調査準備.

資料データベース(居初家文書), 公開補助.

歴史資料管理台帳, 整備・入力, 35件.

定期収蔵庫清掃(考古収蔵庫、特別収蔵庫、一時保管庫、古文書整理室), 9回.

臨時清掃(特別収蔵庫、一時保管庫、収蔵庫廊下壁), 2回.

定期清掃(収蔵庫廊下), 6回.

定期清掃(B展示室), 11回.

特別清掃(トラックヤード屋上排水溝、研究棟ベランダ), 3回.

大掃除(古文書整理室、歴史資料整理室), 1回.

防虫防霉調査, トラップ設置回収, 3回.

防虫防霉調査, 考察作成防虫対策立案, 1回.

生物発生履歴の整備, 入力, 205件.

乳剤散布, 4回.

ph測定(7か所), 2回.

収蔵庫展示室等の温湿度記録計用紙交換(6ヶ所), 9回.

収蔵庫担当者会議, 報告, 1回.

映像資料(8mmフィルム)ph測定, 1回.

産業廃棄物処理作業.

図書室蔵書点検作業.

博物館パンフレット一斉発送作業.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!湖を渡る神輿—日吉山王祭—」第82回(2019年5月14日~6月16日), 展示補助.

収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!屏風を読む—江戸時代の地理空間情報」第83回(2019年6月18日~7月7日), 展示補助.

収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！縁起の世界―石山寺縁起絵巻をよむ」第84回（2019年7月9日～9月8日），展示補助.

収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！江戸時代の風景―琵琶湖真景図をよむ」第85回（2019年9月14日～10月20日），展示補助.

収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！ザ・ファイナル」第86回（2019年10月22日～11月24日），展示補助.

お正月トピック展示「ねずみ！子！ネズミ！」歴史資料の部（2020年1月2日～1月19日），展示補助.

野洲市歴史民俗博物館共催展「人と魚の歴史学」（2019年9月27日～12月18日），貸出補助.

他博物館・機関の活動

斎宮歴史博物館，「東雲の斎宮 大来皇女と壬申の乱」（2019年10月5日～11月10日），唐橋遺跡出土資料（12点），貸出.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第3期リニューアル B 展示室，新規展示資料「穴太遺跡・烏丸崎遺跡出土資料」，借用.

印刷物

【専門分野の著作】

渡部圭一・三柵友梨香（2019）比良山麓の「石屋」用具調査. *地域の歴史から学ぶ災害対応ー比良山麓の伝統知・地域知*, 総合地球環境学研究所 Eco-DRR プロジェクト, 京都, pp. 38-41.

【一般向けの著作】

三柵友梨香（2019）おうみ漁具図鑑 26 真珠手術用具. *京都新聞*, 京都新聞社, 4月4日.
三柵友梨香（2019）おうみ漁具図鑑 32 マエガキ. *京都新聞*, 京都新聞社, 6月27日.
三柵友梨香（2019）おうみ漁具図鑑 44 ハリカゴ. *京都新聞*, 京都新聞社, 12月12日.
三柵友梨香（2020）おうみ漁具図鑑 50 大型ドンジョフミ. *京都新聞*, 京都新聞社, 3月5日.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

視察等への対応

2019年5月18日, 民俗収蔵庫の見学, 京都造形芸術大学大学院.
2019年5月19日, 民俗収蔵庫の見学, 京都造形芸術大学.
2019年5月26日, 民俗収蔵庫の見学, 京都文教大学.
2019年6月30日, 民俗収蔵庫の見学, 京都造形芸術大学.
2019年7月31日, 民俗収蔵庫の見学, 佛教大学.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

寄贈資料, 受入対応, 8件.
無形民俗文化財調査・聞き取り, 調査・記録, 5件.
有形民俗文化財調査・聞き取り, 調査・記録, 22件.
定期清掃 (収蔵庫廊下), 5回.
民俗資料修理業務対応.
産業廃棄物処理作業.
B展示室展示資料撤収・整理作業.
生物環境調査, トラップ設置回収 (民俗収蔵庫1・民俗収蔵庫2・環境収蔵庫), 3回.
琵琶湖博物館研究調査報告第32号「中世惣村の現在ー近江国今堀郷故地の現地調査ー」, 調査編集補助.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ギャラリー展示「琵琶湖 漁具図鑑ー魚つかみの道具のヒミツ」(2019年3月23日～5月6日), 担当.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第3期リニューアル B展示室, 森・水辺・里ゾーンの展示制作にかかる調査補助.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

渡辺圭一郎（2019年12月15日）滋賀の水田に潜む謎のワムシたち～その知られざる実態～. 第10回 琵琶湖地域の水田生物研究会（琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会・日本生態学会近畿地区会），琵琶湖博物館，[ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究『『田んぼの生きもの全種リスト』の増補更新と公開システムの構築』（研究代表者：大塚泰介），研究協力者（2019年度）.

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物標本データベース，標本データ項目・HP 公開情報の変更.

微小生物標本データベース，登録.

微小生物標本データベース，更新.

無脊椎動物標本データベース，標本データ項目の変更.

無脊椎動物標本データベース，登録.

無脊椎動物標本データベース，更新.

爬虫両生類標本データベース，登録.

生物環境調査，調査協力，2回.

温湿度管理，データ確認.

定期清掃（収蔵庫廊下）.

定期清掃（C 展示室）.

清掃（液浸収蔵庫1）.

微小生物生体資料，維持管理.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

マイクロアクアリウム，ネズミワムシの維持，2020年1月1日～1月15日.

印刷物

【一般向けの著作】

- 川那部浩哉（2019）琵琶湖博物館と私. *森の新聞*（NPO自然観察指導員京都連絡会），65：26-42.
- 川那部浩哉（2019）魚介類の宝庫：琵琶湖. *河川文化*（日本河川協会），(87)：1-2.
- 川那部浩哉（2019）山から海への系列における汽水域. In：松江市史編集委員会（編），*松江市史 史料篇10 近現代II*，松江市，松江，pp. 861-866.（原文 伊達善夫・川那部浩哉編（1991）汽水域・その豊かな生態系を求めて）.
- 川那部浩哉（2019）急いで自分の道を決めなくても「いいかげん」というのも良いもの. *あかね*（京一中洛北高校同窓会），57：7-8.
- 川那部浩哉（2020）2019年読書アンケート. *みすず*，62（1）：392.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 川那部浩哉（2019年5月11日～12日）柿田川生態系研究会・同視察会，柿田川生態系研究会，放送大学三島キャンパス（静岡県三島市）・柿田川（静岡県清水町）・狩野川（静岡県沼津市・伊豆の国市・伊豆市）.
- 川那部浩哉（2019年9月21日～23日）「基調講演：古代湖における魚類の適応放散に関する研究の意義～タンガニイカ湖の魚を調べてみようかと思った理由～」，日本魚類学会年会，日本魚類学会，高知大学朝倉キャンパス（高知市）.
- 川那部浩哉（2020年1月22日）河川生態学術研究会運営委員会，河川生態学術研究会，リバーフロント研究所（東京都中央区）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 生き物文化誌学会，評議員.
- 応用生態工学会，名誉会員.
- 京の川の恵みを活かす会，顧問.
- 日本生態学会，名誉会員.
- リバーフロント研究所 河川・海岸環境機能等検討委員会（河川生態学術研究会・河川生態学術研究運営委員会・柿田川生態系研究会），委員.
- Brasilian Journal of Biology，編集顧問.
- DIVERSITAS（生物多様性科学国際計画）科学委員会，顧問.
- Environmental Biology of Fishes，編集顧問.
- Hydrobiologia，編集顧問.
- International Journal of Ecology and Environmental Biology，編集顧問.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

- 2019年4月25日、京の川の恵みを活かす会総会（京の川の恵みを活かす会）、キャンパスプラザ京都（京都市）、提言。
- 2019年5月13日、自然保護助成基金理事会（自然保護助成基金）、渋谷区文化総合センター大和田（東京都）、提言。
- 2019年5月21日、京都新聞社会福祉事業団理事会（京都新聞社会福祉事業団）、京都新聞社（京都市）、提言。
- 2019年6月15日、提言、反原発と環境問題の会、コープ京都（京都市）。
- 2019年7月6日、挨拶、京都市青少年科学センター会館50年記念式、京都市青少年科学センター（京都市）、挨拶。
- 2019年11月20日～21日、講演「生態学の調査・研究に関する私感」、日本シジミ研究所講演会（日本シジミ研究所）、日本シジミ研究所来待分室（松江市）、講演。
- 2019年12月8日、講演「水域生態系－水と生きる」、講演会（自然と緑 自然大学）、パル法円坂アネックス（大阪市）、講演。
- 2020年1月30日、日本自然保護協会参与会（日本自然保護協会）、日本自然保護協会（東京都中央区）、提言。
- 2020年2月5日、講演「私にとっての“いい川”」、 “いい川”作り研修会（全国水環境交流会・近畿水の塾）、尼崎市総合文化センター（兵庫県）、講演。
- 2020年3月12日、京都新聞社会福祉事業団理事会（京都新聞社会福祉事業団）、京都新聞社（京都市）、提言。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

- 2019年度、琵琶湖博物館名誉学芸員。
- 2019年度、琵琶湖博物館特別研究員。

【海外渡航】

- 2019年10月17日～28日、南フランス地方の自然と文化に関する調査研究。

【館外の活動】

- 朝日21関西スクエア、会員。
- 石垣島白保に空港を作らせない会、会員。
- 環境問題研究会、会員。
- 九条科学者の会、会員。
- 京都新聞社会福祉事業団、理事。
- 京都創成百人委員会、委員。
- 京都文化芸術会議、委員。
- 京の川の恵みを活かす会、顧問。
- 魚類自然史研究会、会員。
- 黒潮実感センター、会員。
- 国際生物学賞委員会、委員。
- 子どもと川とまちのフォーラム、顧問。
- 自然と緑「自然大学」、教授。
- 自然保護助成基金、理事。

政治に冷静な理性を取り戻す会, 会員.
長良川河口堰に反対する会, 会員.
長良川市民学習会, 会員.
日本魚類学会, 会員.
日本自然保護協会, 参与.
日本陸水学会, 会員.
水俣病センター相思社, 会員.
水俣フォーラム, 会員.
八重山白保の海を守る会, 会員.

印刷物

【専門分野の著作】

布谷知夫 (2020) 文化庁ミュージアム・マネジメント研修～多様な学び手とのかかわりを考える～. 全科協ニュース (全国科学博物館協議会), 50(1) : 8-9.

【一般向けの著作】

布谷知夫 (2019) 自然観察のテーマ 122 カラスのねぐらの観察. *じねんじょレターズ*(NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会), 125 : 2-4.

布谷知夫 (2019) 自然観察のテーマ 123 ネギのウラとオモテ. *じねんじょレターズ* (NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会), 126 : 2-4.

布谷知夫 (2019) 自然観察のテーマ 124 歩いていて気が付いたこと. *じねんじょレターズ* (NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会), 127 : 2-4.

布谷知夫 (2020) 自然観察のテーマ 125 散歩の自然観察の続き. *じねんじょレターズ* (NACS -J 自然観察指導員大阪連絡会), 128 : 2-4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

布谷知夫 (2019年5月22日) 博物館登録と大学評価. 博物館のあり方を考える研究会 (科研費B 博物館のあり方を考える研究会), 黒田記念館 (東京都江東区), [口頭発表].

布谷知夫 (2019年9月5日) 地域博物館は地域の文化を再確認する. ICOM 2019 京都大会国際委員会「地方博物館」セッション・オフサイトミーティング「エコミュージアムと地方博物館」, ICOM 2019 実行委員会, 大念仏寺研修室 (大阪市), [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

全日本博物館学会, 会長, 2019年4月～2020年3月.

博物館学雑誌 (全日本博物館学会), 論文の査読, 2件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年4月11日～9月30日, 三重大学, 「博物館資料論」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2019年5月11日, はしかけ植物観察の会, 三重県総合博物館野外展示観察会, 講師.

他の博物館・機関等の主催行事

- 2019年5月17日，特別展示「自然に挑む」への講評，香川県立ミュージアム学芸員研修，香川県立ミュージアム講堂（高松市），講師。
- 2019年5月18日，ボランティア活動による学び，香川県立ミュージアムボランティア活動研修会，香川県立ミュージアム会議室（高松市），講師。
- 2019年8月10日，講演「琵琶湖の水と大阪の水利用」，大阪北部地震・心のケアキャンプ・ナマズなんかにまけるかい！（大阪北部地震・心のケアキャンプ実行委員会），琵琶湖汽船学習船MEGUMI 船上（滋賀県大津市～高島市），講師。
- 2019年9月22日，講義「ボランティアによって起こる学び」，三重県総合博物館ボランティア研修会，三重県総合博物館セミナー室（津市），講師。
- 2019年9月23日，講義「博物館での教育事業の現状」，東海3県文化庁エドゥケーター研修修了生研究会，文化庁エドゥケーター研修受講生連絡組織，徳川美術館研修室（名古屋市），行使。
- 2019年9月24日，講演「博物館の地域社会との関係」，JICA「博物館とコミュニティ開発」コース（国立民族学博物館・JICA），国立民族学博物館研修室（大阪府吹田市），講師。
- 2019年9月25～27日，文化庁第9回エドゥケーション研修，文化庁・東京都美術館，東京都美術館アート・スタディールーム（東京都江東区），全体コーディネーター。
- 2019年9月25日，基調講演「博物館で起こる学び」，文化庁第9回エドゥケーション研修，文化庁・東京都美術館，東京都美術館アート・スタディールーム（東京都江東区）。
- 2019年10月18日，講義「三重県総合博物館の活動と展示」，JICA「博物館とコミュニティ開発」コース（国立民族学博物館・JICA），三重県総合博物館市民活動室（津市），講師および展示・パブリックスペース・バックヤード紹介。
- 2019年11月27日～29日，文化庁令和元年度ミュージアム・マネジメント研修，文化庁・東京国立博物館，東京国立博物館附属黒田記念館セミナー室（東京都江東区），全体コーディネーター。
- 2020年2月6日～7日，文化庁第9回エドゥケーション研修，文化庁・国立科学博物館，国立科学博物館講堂（東京都江東区），全体コーディネーター。
- 2020年2月7日，展示室における学び・3（グループディスカッション），文化庁第9回エドゥケーション研修（文化庁・国立科学博物館），国立科学博物館講堂（東京都江東区），ファシリテーター。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

- 2019年度，琵琶湖博物館名誉学芸員。
- 2019年度，琵琶湖博物館特別研究員。

【館外の活動】

- 三重県総合博物館ミュージアムパートナー，会長（2019年4月1日～2020年3月31日）。
- 地方独立行政法人大阪市博物館機構，理事（2019年4月1日～2020年3月31日）。
- 京都府希少野生生物保全推進員，（2019年4月1日～2020年3月31日）。
- 文化庁研修企画運営委員会，座長（2019年4月1日～2020年3月31日）。
- 和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会，会長（2019年4月1日～2020年3月31日）。
- タカラフォルディング助成評価委員会，委員（2019年4月1日～2020年3月31日）。
- 守山市下之郷保存整備活用基本計画検討部会，委員（2019年4月1日～2020年3月31日）。
- 日本ヨシ笛協会，顧問（2019年4月1日～2020年3月31日）。
- 関西自然保護機構，監事（2019年4月1日～2020年3月31日）。
- 鶴殿ヨシ原の箆築用ヨシに関するモニタリングワーキンググループ，委員（2019年4月1日～2020年3月31日）。

NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会，顧問（2019年4月1日～2020年3月31日）。

自然観察指導員三重県連絡会，顧問（2019年4月1日～2020年3月31日）。

特定非営利法人西日本自然史系博物館ネットワーク，監事（2019年4月1日～2020年3月31日）。

文部科学省，委員（2019年4月1日～2020年3月31日）。

香川県立ミュージアム，展示アドバイザー（2019年4月1日～2020年3月31日）。

印刷物

【学術論文】

Nakajima, T., Hudson, M. J., Uchiyama, J., Makibayashi, K. and Zhang, J.-Z. (2019) Common carp aquaculture in Neolithic China. *Nature Ecology and Evolution*, 3: 1415-1418.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2019年7月15日, 咽頭歯勉強会ーコイ咽頭歯に魅せられて, 古琵琶湖調査隊勉強会, 琵琶湖博物館, 講師.
2020年2月2日, 咽頭歯の鑑別, 古琵琶湖調査隊勉強会, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2019年8月25日, 講義「もともといた魚とつれてこられた魚」, 吉見東町子供会川あそびプロジェクト (吉見東町子供会), 馬路磯部神社 (守山市), 講師.
2019年8月25日, 講義「魚と人の新しいかかわり方」, 吉見東町子供会川あそびプロジェクト (吉見東町子供会), 馬路磯部神社 (守山市), 講師.

メディアへの協力

2019年10月4日, 朝日新聞 (夕刊), コイの養殖8000年の歴史, 取材対応.
2019年10月5日, 毎日新聞, 8000年前中国コイ養殖, 取材対応.
2019年10月5日, 中日新聞, 世界最古コイ養殖 琵琶湖博物館グループ中国で確認, 取材対応.
2019年10月5日, 京都新聞, 8000年前の中国でコイ養殖の可能性, 取材対応.
2019年10月6日, 読売新聞, 8000年前にコイ養殖, 取材対応.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2019年度, 琵琶湖博物館名誉学芸員.
2019年度, 琵琶湖博物館特別研究員.

印刷物

【一般向けの著作】

前畑政善・田畑諒一 (2020) ナマズの世界へようこそーマナマズ・イワトコ・タニガワ。琵琶湖博物館ブックレット, 11, サンライズ出版, 彦根, 122pp.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2019 年度, 琵琶湖博物館名誉学芸員.

2019 年度, 琵琶湖博物館特別研究員.

【館外の活動】

滋賀県環境審議会 自然環境部会, 部会長 (2018 年 6 月～2021 年 5 月).

(独) 水資源機構 近畿地方ダム等管理フォローアップ委員会, 委員 (2019 年 11 月～2020 年 11 月).

(独) 水資源機構 (関西・吉野川支社) 令和元年度河川水辺の国勢調査 (ダム湖編), アドバイザー (2019 年 5 月～2020 年 4 月).

環境省自然環境局, 希少野生動植物種保存推進員 (2018 年 7 月～2021 年 6 月).

環境省 琵琶湖における底層溶存酸素量類型指定検討会, 委員 (2019 年 9 月～2020 年 3 月).

神戸学院大学人文学部, 教授 (2011 年 4 月～2021 年 3 月).

印刷物

【学術論文】

用田政晴（2019）古代型山岳寺院大吉寺跡の再検討. *淡海文化財論叢*（淡海文化財論叢刊行会），11：89-93.

【専門分野の著作】

用田政晴（2019）ごあいさつ. *上京区の小学校に伝わる民具と地域のちから*，学校収蔵民具の再発見事業実行委員会，p. 1.

用田政晴（2020）ごあいさつ. *京都市の小学校に伝わる民具と地域のちから*，学校収蔵民具の再発見事業実行委員会，p. 1.

用田政晴（2020）はじめに. *学校収蔵民具の再発見事業Ⅲ*，学校収蔵民具の再発見事業実行委員会，p. 1.

用田政晴（2020）日本の新しい博物館像と学校との「博学連携」. *学校収蔵民具の再発見事業Ⅲ*，学校収蔵民具の再発見事業実行委員会，pp. 3-8.

用田政晴（2020）学校収蔵民具の活用に向けた「地域連携」モデル. *学校収蔵民具の再発見事業Ⅲ*，学校収蔵民具の再発見事業実行委員会，pp. 9-12.

用田政晴ほか（2020）シンポジウム記録 小さな資料館の役割を探る. *伊吹山文化資料館年報 21—平成 30 年度の活動—*，伊吹山文化資料館：56-63.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

文化庁文化遺産総合活用推進事業（文化芸術振興費補助金）「学校収蔵民具の再発見事業」（研究代表者：用田政晴），研究代表者（2019年度）.

アジア考古学研究機構「アジアの考古と民俗」（研究代表者：用田政晴），研究代表者（2019年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構，代表.

日本民具学会，評議員.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

同志社大学政策学部，嘱託講師.

立命館大学文学部，授業担当講師.

京都造形芸術大学芸術学部，非常勤講師.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2019年11月16日・17日，B展示室ツアー，展示室見納めツアー ファイナル，琵琶湖博物館，案内・講師，2件.

【展示活動】

他の博物館・機関等の活動

学校収蔵民具の再発見事業実行委員会，上京区の小学校に伝わる民具と地域のちから（2019年12月14日～26日・京都市上京区総合庁舎区民交流ロビー），企画・運営。

学校収蔵民具の再発見事業実行委員会，京都市の小学校に伝わる民具と地域のちから（2020年2月14日～24日・京都市ゼスト御池寺町広場），企画・運営。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2019年度，琵琶湖博物館名誉学芸員。

2019年度，琵琶湖博物館特別研究員。

【館外の活動】

文化庁文化遺産総合活用推進事業 学校収蔵民具の再発見事業実行委員会，委員長。

名勝青岸寺庭園調査 指導委員会，委員。

印刷物

【学術論文】

- Grygier, M. J., Høeg, J. T., Dreyer, N. and Olesen, J. (2019) A new internal structure of nauplius larvae: A “ghostly” support sling for cypris y left within the exuviae of nauplius y after metamorphosis (Crustacea: Thecostraca: Facetotecta). *Journal of Morphology*, 280, Wiley Periodicals, Inc.: 1222-1231, <https://doi.org/10.1002/jmor.21026>.
- Grygier, M. J., Fan, Y.-W. and Sung, W.-C. (2020) Effects of different softening processes on the hardness and quality of thawed neritic squid (*Uroteuthis edulis*) muscle. *Processes*, 8, MDPI: 135, doi:10.3390/pr8020135.
- Tachikawa, H., Grygier, M. J. and Cairns, S. D. (2020) Live specimens of the parasite *Petrarca madreporae* (Crustacea: Ascothoracida) from the deep-water coral *Madrepora oculata* in Japan, with remarks on the development of its spectacular galls. *Journal of Marine Science and Technology*, 28 (1), National Taiwan Ocean University Press: 58-64. [Corrigendum. *Journal of Marine Science and Technology*, 28 (2): 147]

【専門分野の著作】

- Fery, H. and Grygier, M. J. (2019) Comment (Case 3744) - Alternative proposals to conserve usage of *Bidessus* Sharp, 1880, and newly proposed suppression of *Dyticus parvulus* Müller, 1776 (Coleoptera, DYTISCIDAE, BIDESSINI). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 76, International Commission on Zoological Nomenclature: 62-67.

【一般向けの著作】

- [Grygier, M. (英文審訂)] 陳麗淑・李世緯 (編) (2020) 想來看海: 國立海洋科技博物館簡介・Yearning for the Sea: Introduction of National Museum of Marine Science & Technology・海が見たい: 国立海洋科学技術博物館の紹介, 國立海洋科技博物館, (台湾) 基隆市, pp. 1-68.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- Grygier, M. J., Dreyer, N., Høeg, J. T. and Olesen, J. (2019年05月28日) A tour of the fantastic diversity of body forms of “nauplius y” (Crustacea: Thecostraca: Facetotecta), as exemplified by populations in Okinawa, Japan. The Crustacean Society Mid-Year Meeting 2019, Chinese University of Hong Kong School of Life Sciences and The Crustacean Society, Chinese University of Hong Kong (香港), [口頭発表].
- Grygier, M. J. and Klepal, W. (2019年05月28日) SEM survey of mouthparts in ten species of Ascothoracida (Crustacea: Thecostraca). Symposium: Evolution and Ecology of Parasitic and Symbiotic Crustaceans. The Crustacean Society Mid-Year Meeting 2019, Chinese University of Hong Kong School of Life Sciences and The Crustacean Society, Chinese University of Hong Kong (香港), [口頭発表].

Dreyer, N., Høeg, J.T., Grygier, M.J., Olesen, J., Palero, F., Machida, R. and Chan, B.K.K. (2019年10月20日) The biology of enigmatic crustacean γ -larvae (Thecostraca: Facetotecta). 公開国際シンポジウム「Open International Symposium: Reproductive Biology of Barnacles」, 日本甲殻類学会第57回大会, 東京海洋大学品川キャンパス (東京都港区), [口頭発表].

Dreyer, N., Olesen, J., Palero, F., Grygier, M., Machida, R. and Chan, B.K.K. (2019年11月5日) The biology and lifecycle of enigmatic crustacean γ -larvae. The 4th Asian Marine Biology Symposium 2019, National Taiwan University, Howard Civil Service International House (台湾, 台北市), [口頭発表].

Grygier, M.J., Dreyer, N., Fujita, Y., Eibye-Jacobsen, D., Chan, B.K.K. and Olesen, J. (2019年11月6日) A new attempt to document the extraordinarily diverse form-taxa of “nauplius γ ” and “cypris γ ” (Crustacea: Thecostraca: Facetotecta) in plankton at Okinawa, Japan. The 4th Asian Marine Biology Symposium 2019, National Taiwan University, Howard Civil Service International House (台湾, 台北市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究『「田んぼの生きもの全種リスト」の増補更新と公開システムの構築』(研究代表者: 大塚泰介), 共同研究者 (2017年度~2020年度).

(デンマーク) Velux Foundations, VILLUM Experiment grant 「The adult γ -animal – a 100+ year old enigma in marine biology」(研究代表者: Jørgen Olesen), 共同研究者 (2017年9月~2019年8月).

(台湾) MOST (Ministry of Science and Technology), 專題研究計畫 (一般研究計畫) 「東亞之亞熱帶水域寄生性甲殻類浮游生物的多様性と廣泛性研究」, 研究代表者 (2019年8月1日~2020年7月31日).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Springer, *Systematic Parasitology*, Associate Editor.

Zoological Institute, Russian Academy of Sciences, *Zoosystematica Rossica*, Editorial Board.

国立科学博物館, *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology)*, 編集委員.

The Crustacean Society, *Journal of Crustacean Biology*, Associate Editor, 査読, 6件.

2019年9月23日~, 動物命名法国際審議会, *Bulletin of Zoological Nomenclature*, Assistant Editor, 査読, 2件.

國立臺灣海洋大學, *Journal of Marine Science and Technology*, 査読, 1件.

Springer Nature, *Scientific Reports*, 査読, 1件.

Brill, *Contributions to Zoology*, 査読, 1件.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年10月30日, 國立臺灣海洋大學海洋生物研究所, 学生 (博士課程一年) の共同指導教授に任命.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

他の博物館・機関等主催行事

2019年5月14日, 水産廳英語導覽解說練習, 瑞芳高工應用外語科 海洋科技導覽解說與實習實驗教學(II) [水産庁のガイド (解説員、説明員、案内員) への英語解説指導, 瑞芳工業高校の授業を受ける学生に、海洋科学技術の英語解説及び表現の実習指導(II)], (台湾) 國立海洋科技博物館, 基隆市中正區, [客員講師].

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示・琵琶湖博物館研究最前線，パネル更新.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2019 年度，琵琶湖博物館名誉学芸員.

2019 年度，琵琶湖博物館特別研究員.

【館外の活動】

國立臺灣海洋大學海洋中心，専案助理研究員（2019 年 5 月 1 日更新）.

（米国）スミソニアン研究所国立自然史博物館，協力研究員.

（米国）ロサンゼルス郡立自然史博物館資料・研究部（無脊椎動物学研究科），協力研究員（2019 年 7 月 22 日更新）.

動物命名法国際審議会，委員.

印刷物

【一般向けの著作】

池田 勝（2019～2020）ちっちゃなこどものしぜんあそび「ちこあそ」。はしかけニューズレター，琵琶湖博物館，6件。

研究活動に関する業績

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年4月～2020年3月，神戸大学大学院生，研究指導。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2019年4月17日～2020年3月18日，ちっちゃなこどものしぜんあそび「ちこあそ」，はしかけ活動，琵琶湖博物館，企画広報運営，11件。

2019年10月19日，びわ博フェス2019（ちっちゃなこどものしぜんあそび「ちこあそ」），はしかけ活動，琵琶湖博物館，企画運営。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

小学生クラスにちようの森，せた♪森のようちえん，子どもの自然体験活動，運営（2019年4月14日～2020年2月16日），20件。

スキニシースクール，子どもと大人の自然と学びの場，運営（2019年4月8日～2020年3月25日），55件。

環境学習非常勤講師，大津市立下阪本小学校，社会人活用，自然体験・環境学習1年生～6年生，（2019年4月9日～2020年2月27日）70件。

実習「自然観察」，幼児と保護者のおさんぽ会，せた♪森のようちえん，びわこ文化公園（大津市），講師（2019年5月4日）。

講演「琵琶湖学習オリエンテーション」，草津市立玉川中学校，ESDつながり学習，玉川中学校，講師（2019年5月8日）。

実習「狼川の生き物探し」，環境学習推進事業，南笠東まちづくりセンター，草津市エコスタイルプラザ，講師（2019年5月18日）。

実習「十禅寺川の生き物調べ」，草津市立玉川中学校，ESDつながり学習，玉川中学校，講師（2019年5月22日）。

実習「狼川の生き物探し」，環境学習推進事業，草津市立老上小学，草津市エコスタイルプラザ，講師（2019年5月23日）。

実習「伯母川の生き物探し」, 環境学習推進事業, 草津市立志津南小学校, 草津市エコスタイルプラザ, 講師 (2019年5月24日).

講演「ザリガニの生息と水環境」, 守山市川田自治会, 守山市環境政策課, 講師 (2019年5月25日).

実習「十禅寺川の生き物調べのまとめ」, 草津市立玉川中学校, ESDつながり学習, 玉川中学校, 講師 (2019年5月31日).

講演「狼川の環境」, 環境学習推進事業, 草津市立老上小学校, 草津市エコスタイルプラザ, 講師 (2019年6月3日).

実習「牛乳パックのリサイクル紙漉き」, NPO 法人碧いびわ湖, 牛乳パック環境学習, 近江八幡市立八幡中学校, 講師 (2019年6月21日).

講師「牛乳パックのリサイクルワークショップ」, NPO 法人碧いびわ湖, 牛乳パック環境学習, 近江八幡市立八幡中学校, 講師 (2019年6月28日).

講師「牛乳パックのリサイクル現場見学」, NPO 法人碧いびわ湖, 牛乳パック環境学習, 近江八幡市立八幡中学校, 講師 (2019年7月5日).

実習「葉山川の生き物観察」, 草津市立渋川小学校, 総合学習, 渋川小学校, 講師 (2019年7月9日).

講師「牛乳パックのリサイクルのまとめ」, NPO 法人碧いびわ湖, 牛乳パック環境学習, 近江八幡市立八幡中学校, 講師 (2019年7月10日).

西表島エコツアー, NPO 法人かごしま子どもと自然研究所, 体験, 運営 (2019年7月20日~27日).

夏の森, せた♪森のようちえん, 小学生の自然体験, びわこ文化公園(大津市), 運営 (2019年7月30日~31日).

実習「自然観察会」, ダイキン滋賀の森わくわく自然観察会, ダイキン工業滋賀製作所(草津市), 草津市環境経済部, 講師 (2019年8月7日).

北海道交流キャンプ, TANAKAMI こども環境クラブ, ふおれすと鉱山(北海道登別市), 運営 (2019年8月18日~21日).

講師「湖の環境」, 琵琶湖汽船, megumi 号湖上環境学習, 講師 (2019年8月23日).

実習「葉山川の生き物観察」, 草津市立渋川小学校, 総合学習, 渋川小学校, 講師 (2019年9月3日).

実習「竹トンボづくり」, TANAKAMI こども環境クラブ, 田上キャンプ場(大津市), 講師 (2019年9月7日).

実習「水生生物の観察」, 草津市立玉川中学校, ESDつながり学習, 玉川中学校, 講師 (2019年9月25日).

実習「外来魚の解剖」, 草津市立玉川中学校, ESDつながり学習, 玉川中学校, 講師 (2019年9月27日).

講師「外来魚解剖のまとめ」, 草津市立玉川中学校, ESDつながり学習, 玉川中学校, 講師 (2019年10月2日).

実習「狼川の生き物探し」, 環境学習推進事業, 草津市立老上小学校, 草津市エコスタイルプラザ, 講師 (2019年10月7日).

実習「湖の食体験」, 草津市立玉川中学校, ESDつながり学習, 玉川中学校, 講師 (2019年10月11日).

実習「幼児の自然体験」, びわこの森のようちえんネットワーク, 森のようちえん体験会, 服部緑地公園(大阪府豊中市), 講師 (2019年10月26日).

実習「吉川川の水制工づくり」, NPO 法人碧いびわ湖, ルシオールキッズクラブ, 吉川川(守山市), 講師 (2019年10月27日).

講師「体験活動のまとめ」, 草津市立玉川中学校, ESDつながり学習, 玉川中学校, 講師 (2019年10月30日).

実習「親子自然遊び」, 大滝たきのみやこども園保護者会, PTA 親子活動, 高取山公園(犬上郡多賀町), 講師 (2019年11月2日).

実習「吉川川のホタル生息場所づくり」, NPO 法人碧いびわ湖, ルシオールキッズクラブ, 吉川川(守山市), 講師 (2019年11月3日).

講演「琵琶湖の魚」, 守山市環境学習会, 守山市立河西小学校, 守山市環境政策課, 講師 (2019年11月12日).

実習「茂賀山自然遊び」, 淡海未来塾 15期ござっとチーム, 隠れ寺の癒しヨガと裏山の自然遊び, 茂賀山(彦根市), 講師 (2019年11月23日).

実習「琵琶湖の水質調査」, 琵琶湖汽船, megumi 号湖上環境学習, 講師 (2020年1月13日).

実習「幼児の自然体験」, 自然保育研修会, 多賀町立大滝たきのみやこども園, 多賀町教育委員会, 講師 (2020年1月17日).

実習「ホタルの産卵用苔の採取」, NPO 法人碧いびわ湖, ルシオールキッズクラブ, 吉川川(守山市), 講師 (2020年1月18日).

講演「琵琶湖概論」, 大津市立真野北小学校, 総合学習, 真野北小学校, 講師 (2020年1月21日).

実習「幼児の自然体験」, 自然保育研修会, 多賀町立大滝たきのやみこども園, 多賀町教育委員会, 講師 (2020年1月23日).

実習「子ども自然体験」, びわこの森のようちえんネットワーク, 森で遊ぼう in 春日山, 春日山公園(大津市), 講師 (2020年2月1日).

講師「琵琶湖 Q&A」, 大津市立仰木の里小学校, 総合学習, 仰木の里小学校, 講師 (2020年2月6日).

幼児の自然体験講師, 自然保育研修会, 多賀町立大滝たきのやみこども園, 多賀町教育委員会, 講師 (2020年2月12日).

講師「琵琶湖の概要」, 琵琶湖汽船, megumi 号湖上環境学習, 講師 (2020年2月17日).

実習「ホタルの幼虫用プランターづくり」, NPO 法人碧いびわ湖, ルシオールキッズクラブ, 吉川川(守山市), 講師 (2020年2月22日).

実習「ホタルの幼虫の放流」, NPO 法人碧いびわ湖, ルシオールキッズクラブ, 吉川川(守山市), 講師 (2020年3月14日).

印刷物

【専門分野の著作】

北村美香 (2019) 市民参加型展示の新たな形をさぐる ―大東市の事例から―. *博物館研究* (日本博物館協会), 8 月号: 2-5.

北村美香 (2019) ICOM 京都大会参加レポート. *展示学* (日本展示学会), 59: 55.

【一般向けの著作】

北村美香 (2019) 「温故知新」昔の地域を知ること、これからの地域や環境を考える ～水辺にまつわる「地域の記憶掘り起し」～. *ヨシでびわ湖を守るネットワーク通信*, 33: 2-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

釋 知恵子・佐藤優香・北村美香・佐久間大輔 (2019年6月23日) 博物館における教育プログラム実践家のための評価手法の開発 (1). 第46回全日本博物館学会, 新潟県立歴史博物館 (長岡市), [口頭発表].

北村美香 (2019年6月30日) 展示作成プロセスを学ぶプログラムについての考察. 第35回日本展示学会, 大阪芸術大学芸術情報センター (大阪市), [口頭発表].

中村久美子・北村美香 (2020年2月14日) 「出会いの場」であり続ける展示室―展示交流ってなに? から10年―. 第27回全国科学博物館協議会研究大会, 高知みらい科学館 (高知市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業 (基盤B) 「博物館評価の構造的枠組の創出と博物館界による独自の認証制度の開発」 (研究代表者: 佐々木 亨), 研究協力者 (2018年度～2021年度).

令和元年度文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業 「守れ! 文化財～モノとヒトに光を灯す～」 (事業代表者: 山本哲也), 外部委員 (2019年度～2023年度).

令和元年度文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業 「多様な個性でつむぐ地域の学び創造事業」 (事業代表者: 大野照文), 外部委員 (2019年度).

令和元年度河川基金川づくり団体部門助成事業 「琵琶湖淀川水系での治水・利水を学ぶ学習ツールの開発と活用」 (事業代表者: 北村美香), 代表 (2019年度).

令和元年度滋賀県職員互助会 地域社会活動提案事業 「古写真を用いた地域の記憶の掘り起こしと会話の機会の創出」 (事業代表者: 北村美香), 代表 (2019年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

全日本博物館学会, 事務局幹事.

日本展示学会, 第15期理事選挙管理委員.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年4月～9月, 三重大学生物資源学科, 「博物館情報、メディア論」.

2019年9月～2020年3月, びわこ学院大学子ども学科, 「滋賀の環境」 (5回).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2020年1月15日、人間コマでダムすごろく！、博物館で楽しもう、琵琶湖博物館、講師、(治水・利水を学ぶ・楽しむ実行委員会共催)。

他の博物館・機関等主催行事

2019年7月28日、治水利水から地域を「知る」「学ぶ」「楽しむ」すごろくと工作、おおつエコフェスタ2019、ピアザ淡海(大津市)、講師。

2019年8月11日、チリモンキーホルダーを作ろう、山の日イベント(岸和田自然資料館)、岸和田自然資料館(大阪府岸和田市)、講師。

2019年11月16日・17日、治水利水から地域を「知る」「学ぶ」「楽しむ」すごろくと工作、自然史フェス2019(大阪市立自然史博物館)、大阪市立自然史博物館(大阪市)、講師。

2019年12月15日、講演「私の〇〇を使った展示づくりと教育普及を考えよう」、日本動物園水族館教育研究会柏大会、東京大学大気海洋研究所(千葉県柏市)、講師。

2020年1月14日・16日、講演「環境教育」、令和元年度滋賀県高等学校初任者研修(滋賀県立総合教育センター)、滋賀県立総合教育センター(野洲市)、講師。

2020年2月9日、講師「動物たちの魅力を「伝える人」になろう！ー動物園での学習プログラムの作り方ー」、沖縄こどもの国研修、沖縄こどもの国(沖縄県)、講師。

2020年2月10日、講師「常設展示の魅力再発見！ーひと手間であんなにかわる？子どもたちへの伝えかたー」、沖縄県博物館協議会研修、沖縄県立博物館・美術館(那覇市)、講師。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

大阪市立自然史博物館、外来研究員(2019年4月～)。

大東市立歴史民俗資料館、学芸員(2019年4月～)。

博物館子どもワークショップ調査隊(特定非営利法人大阪自然史センター)、実行委員(2019年4月～)。

淡海こどもエコクラブ活動交流会、選考委員(2019年12月8日)。

印刷物

【一般向けの著作】

辻川智代（2020）滋賀県の機織り研究と地機の復元・活用．麻の糸・布と腰機—弥生時代から現代につなぐ麻糸・麻布づくりと腰機— はたやブックレット（ゆめおーれ勝山），9：60-85.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

高島市文化遺産活用実行委員会，朽木の知恵と技発見・復活プロジェクト参加.
文化庁文化遺産総合活用推進事業，学校収蔵民具の再発見事業実行委員会参加.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけグループ「近江はたおり探検隊」，運営.

他の博物館・機関等の主催行事

2019年11月2日，機織り体験&スカリ作り，高島歴史民俗資料館特別展開関連講座（高島市教育委員会），藤樹の里文化芸術会館（高島市），講師.

印刷物

【専門分野の著作】

黒岩啓子（2019）展示設計におけるコミュニケーションンスタディモデルを活用した展示設計－. 日本展示学会第38回研究大会発表要旨集, pp. 10-11.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 黒岩啓子（2019年6月29日）展示設計におけるコミュニケーションンスタディモデルを活用した展示設計－. 日本展示学会第38回研究大会, 大阪芸術大学芸術情報センター（大阪府南河内郡）, [口頭発表].
- 黒岩啓子（2019年8月29日）史跡をわかりやすく伝える～展示で過去・現在・未来をつなぐ. 全国史跡整備市町村協議会東海地区協議会研修会, ウィンクあいち（名古屋市）, [講演].
- 黒岩啓子（2019年9月1日）ICOM 京都大会 CME Pre-conference tour（奈良）企画実施. [ICME 大会実行委員会リーダー].
- 黒岩啓子（2019年9月2日～9月7日）ICOM 京都大会 ICOM-ICME（International Committee for Museums and Collections of Ethnography）. プログラム企画実施・理事会開催, 国立京都国際会館（京都市）, [ICME 大会実行委員会リーダー].
- 黒岩啓子（2019年9月5日）ICOM 京都大会 ICME & CIMCIM Joint Off-site Meeting 企画実施・開催挨拶. 国立民族学博物館・ホテル阪急エキスポパーク（大阪府吹田市）, [企画担当者・モデレーター].
- 黒岩啓子（2019年11月24日）日本ミュージアム・マネージメント学会ミッション・マネージメント研究部会2019年度第1回研究会「ミュージアムの利用者調査～利用者と潜在的利用者を知る」. 司会・開催挨拶・まとめ, 大阪市立自然史博物館(大阪市), [企画担当者・司会].
- 黒岩啓子（2019年12月14日）日本ミュージアム・マネージメント学会ミッション・マネージメント研究部会2019年度第2回研究会「ミュージアムと高齢社会」. 司会および開催挨拶, 氷見市教育文化センター4階氷見市中央公民館会議室（富山県）, [共同企画者・司会].
- 黒岩啓子（2019年12月21日）企画フォーラム：事業計画のロジックモデルを作成するワークショップーロジックモデル作成の要点とWS進行の仕方ー. 日本文化政策学会第13回研究大会「民主主義と文化政策」, さいたま市文化センター(埼玉県), [共同企画者].
- 黒岩啓子（2020年1月25日）日本ミュージアム・マネージメント学会25周年記念事業フォーラム「博物館のより良い明日はどうつくる?」. 株式会社乃村工藝社大阪事業所20階ホール（大阪市）, [企画実施・司会・パネルディスカッションモデレーター].

【研究プロジェクト等への参加】

- ミュージアム評価研究会（研究代表者：佐々木 亨）参加, 大阪市立自然史博物館, 2019年10月15日・11月10日.
- 科学研究費助成事業（挑戦的研究（開拓））「ミュージアムの新たな評価手法構築に関する実践研究ー社会的価値と事業改善に着目して」(研究代表者：佐々木 亨), 研究協力者（2018年度～2020年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本ミュージアム・マネージメント学会, 近畿支部幹事, 2009年4月～.

日本ミュージアム・マネージメント学会, 理事, 2015年6月～.

日本ミュージアム・マネージメント学会, ミッション・マネージメント研究部会 部会長, 2015年8月～.

ICOM-ICME (International Committee for Museums and Collections of Ethnography), Board member, ICME Conference Committee member, ICME Special Projects Committee member, 2016年7月～2019年9月7日.

ICOM-ICME (International Committee for Museums and Collections of Ethnography), Leader of ICME 2019 Conference Committee, 2018年10月8日～2019年9月7日.

日本ミュージアム・マネージメント学会 第24回研究大会実行委員会, 実行委員, 2019年2月2日～2019年6月30日.

日本ミュージアム・マネージメント学会 第25回研究大会実行委員会, 実行委員, 2019年11月20日～.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2012年4月～, 奈良女子大学, 「博物館教育論」.

2012年9月～, 関西学院大学, 「博物館教育論」.

2013年4月～, 奈良女子大学, 「博物館情報・メディア論」.

2017年4月～, 福山大学, 「博物館経営論」.

博物館事業に関する業績

【展示活動】

他博物館・機関の活動

名古屋市教育委員会, 第1回史跡大曲貝塚の整備にかかる有識者会議 (2019年8月22日), 委員.

全国史跡整備市町村協議会東海地区協議会視察研修, 歴史の里 しだみ古墳群「体感! しだみ古墳群ミュージアム」 (2019年8月30日), 展示室展示コメント.

大阪市立自然史博物館, 地方独立行政法人大阪市博物館機構 プロポーザル等選定審査委員会 (2019年10月15日), 審査委員.

国立民族学博物館, JICA 研修「博物館とコミュニティ開発 Introduction of Museum Evaluation Methods」 (2019年10月17日), 講師.

名古屋市教育委員会, 第2回史跡大曲貝塚の整備にかかる有識者会議 (2019年10月25日), 委員.

南山大学, 第1回南山大学人類学博物館評価委員会 (2019年12月23日), 委員.

大阪市建設局天王寺動物園, 第2回天王寺動物園101計画アクションプラン評価会議 (2020年2月17日), 委員.

東近江市教育委員会, 令和元年度東近江市博物館等運営委員会 (2020年3月17日), 委員.

大阪市建設局天王寺動物園, 第3回天王寺動物園101計画アクションプラン評価会議 (2020年3月30日), 委員.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

日本ミュージアム・マネージメント学会, 会員 (2003年9月～).

全日本博物館学会, 会員 (2003年9月～).

関西博物館研究会, 会員 (2005年4月～).

日本展示学会, 会員 (2010年10月～).

文化遺産国際協力コンソーシアム, 会員 (2012年3月～).

ICOM (International Council of Museums, 国際博物館会議), 会員 (2014年4月～).

東近江市博物館等運営委員会，委員（2016年12月～）。

地方独立行政法人大阪市博物館機構 プロポーザル等選定審査委員会，委員（2019年10月15日）。

南山大学博物館評価委員会，委員（2019年11月1日～2020年3月31日）。

天王寺動物園101計画アクションプラン評価会議，委員（2020年2月6日～3月31日）。

印刷物

【学術論文】

Kashio, T. (2019) Farm mechanisation and its impact on women's labour: the case of Shiga Prefecture, Japan. *The Journal of the Foundation for Agrarian Studies*, 9: 33-45.

【専門分野の著書】

柏尾珠紀 (2019) 女性農業者の活躍と課題—支援者としての農業委員会の役割に期待—. *農政調査時報*, 583: 9-15.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

柏尾珠紀 (2020年3月20日) フナズシの生産と消費を支えた諸要因について—食文化財調査 (1994~1996年) と聞き取り取り調査データの分析より—. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業「種苗生産における女性熟練労働に関する社会学的研究」(研究代表者: 柏尾珠紀), 研究代表者 (2017年度~2019年度).

【受賞など】

地域農林経済学会特別賞, 2019年10月, 『農と食の新しい倫理』(昭和堂 2018年) (秋津元輝・佐藤洋一郎・竹之内裕文 (編) 波多野 豪・藤本穰彦・辻村英之・立川雅司・安井大輔・中村麻里・柏尾珠紀).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

守山ほたるパーク&ウォーク実行委員会, 委員 (2014年7月~).
京都府農村振興課日本型直接支払制度, 支援委員 (2015年4月~).
認定NPO法人びわこ豊穰の郷, 理事 (2016年6月~).

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

廣石伸互・大塚泰介・朱 偉・中村紳一郎・寺門一郎 (2019年4月18日) 抗体によるアオコ形成種 *Microcystis* の単独細胞の検出. 太湖-琵琶湖アオコワークショップ, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本水環境学会, 中部支部会, 参与.

マリンバイオロジー学会, 評議員.

沿岸環境関連学会連絡協議会, 運営委員.

日本水産学会, 水産環境保全委員会, 委員.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年4月15日～7月16日, 公立若狭高等看護学院「病態論Ⅱ」.

2019年9月30日～2020年2月3日, 青丹学園言語聴覚学科「病理学」.

2019年10月3日～2020年2月13日, 青丹学園看護学科「病理学」.

2020年2月17日～2月27日, 青丹学園看護学科「病態生理学Ⅲ (免疫・アレルギー)」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2019年12月21日, プランクトン培養方法研修会, 琵琶湖博物館, 講師 (一瀬 諭氏、根来 健、大塚泰介と共同).

他の博物館・機関等主催行事

2019年5月18日, 講義「抗体ってなに?そしてその抗体を用いた水生生物の識別」, 第4回 SeedBank NOM ((株)SeedBank), (株)SeedBank (京都市左京区), 講師.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

福井県衛生環境研究センター, 調査研究等評価委員会, 議長.

小浜市環境審議会, 議長.

小浜とびうお会, 福井県立大学および公立若狭高等看護学院の地域交流会の企画実施・発案・調整・それまでの経緯説明 (2019年10月1日).

印刷物

【学術論文】

Nakano, S., Makino, K., Yoshida, I., Maniwa, K., Sawada, K., Sakashita, F. and Kohno, T. (2019)

Combined influences of iron oxides and micropores on reddish coloration of alkali feldspars in granitic rocks. *Jour. Geol. Soc. Japan*, 125: 759-773.

中野聰志 (2019) 長石、ラピス・ラズリ、柱石. In. 日本鉱物科学会 (編), *鉱物・宝石の科学事典*, 朝倉書店, pp. 581-587.

天白俊馬・杉井完治・中野聰志・周琵琶湖花崗岩団体研究グループ (2020) 琵琶湖南部後期白亜紀火成活動：特に環状岩脈について. *地球科学*, 74 : 1-20.

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

地球科学誌, 編集エディター.

周琵琶湖花崗岩団体研究グループおよびペグマタイト研究会, 運営・研究活動.

滋賀大学教育学部・産総研との共同研究「葛根田花崗岩中のアルカリ長石」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけグループ「大津の岩石調査隊」, 野外観察・講義等, 指導補助 (顧問).

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

梶永一宏・天野一葉 (2020年1月26日) 只見町におけるアシナガバエの多様性. 令和元年度「自然首都・只見」
学術調査研究成果発表会, 朝日振興センター二階ホール (福島県只見町), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業 (基盤C) 「侵略的外来種ソウシチョウにおける捕獲技術の高度化と管理ユニット策定」 (研究
代表者: 天野一葉), 研究代表者 (2019年4月~2022年3月).

令和元年度「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業 「只見町に生息する水生双翅目昆虫の多様性と保全」 (研
究代表者: 梶永一宏), 共同研究者 (2019年6月~2020年3月).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本鳥学会 選挙管理委員会, 委員長, 2019年4月~2021年3月.

博物館事業に関する業績

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

デジタルサイネージ・お知らせ画像作成 (えさやり・料金表・台風・禁煙), 2019年4月1日~.

おとなのディスカバリー 交流コーナー, 自動撮影装置で撮影されたソウシチョウ画像の編集, 2019年5月1日.

印刷物

【学術論文】

- 藤岡康弘・片岡佳孝・大植伸之・米田一紀・根本守仁・亀甲武志 (2020) 琵琶湖周辺水田の小水路におけるニゴロブナの産卵繁殖. *滋賀県水産試験場研究報告*, 56 : 1-10.
- 藤岡康弘・木戸裕子 (2020) 琵琶湖に生息するウツセミカジカ *Cottus reinii* の産卵期と成熟サイズ. *滋賀県水産試験場研究報告*, 56 : 11-20.
- 藤岡康弘・久米弘人・孝橋賢一・亀甲武志・西森克浩 (2020) 琵琶湖産アユの産卵数の長期変化と資源変動. *滋賀県水産試験場研究報告*, 56 : 21-42.

【専門分野の著作】

- 藤岡康弘 (2020) 川で生まれ世代をつなぐビワマス. *文化誌「近江学」* (成安造形大学付属近江学研究所), 12 : 55-60.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 藤岡康弘 (2019年12月20日) 人々は琵琶湖で何を採ってきたのか. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 研究分担者 (2019年度~2023年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本水産学会近畿支部, 幹事.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2019年9月14日, ビワマスの漁業と増養殖, 琵琶湖博物館 第27回企画展示シンポジウム「海を忘れたサケーピワマスの謎に迫る」, 琵琶湖博物館, 講演.

他の博物館・機関等主催行事

- 2019年4月10日, 「琵琶湖の歴史と人の暮らし」, 連続講座「びわ湖の歴史と多様ないきもの」(京都高齢者大学校), 河原町学舎(京都市), 講演.
- 2019年5月8日, 「琵琶湖の環境と多様な生きもの」, 連続講座「びわ湖の歴史と多様ないきもの」(京都高齢者大学校), 河原町学舎(京都市), 講演.

- 2019年5月21日, ゆりかご水田と河辺の森①, 地球環境「自然学」講座(シニア自然大学校), 河辺の森(東近江市), 案内.
- 2019年5月22日, ゆりかご水田と河辺の森②, 地球環境「自然学」講座(シニア自然大学校), 河辺の森(東近江市), 案内.
- 2019年6月5日, 「琵琶湖固有種のおもしろい生態」, 連続講座「びわ湖の歴史と多様ないきもの」, 京都高齢者大学校, 河原町学舎(京都市), 講演.
- 2019年7月6日, 東近江市市民参加生きもの調査2019年度1回目, 東近江市いきもの調査(東近江市生活環境課), 宇曾川(東近江市), 講師.
- 2019年7月10日, 「琵琶湖の漁業とふなずし」, 連続講座「びわ湖の歴史と多様ないきもの」(京都高齢者大学校), 河原町学舎(京都市), 講演.
- 2019年8月7日, 「琵琶湖の開発と現状・未来」, 連続講座「びわ湖の歴史と多様ないきもの」(京都高齢者大学校), 河原町学舎(京都市), 講演.
- 2018年9月4日, 「琵琶湖博物館を使った琵琶湖の紹介」, 連続講座「びわ湖の歴史と多様ないきもの」オプション(京都高齢者大学校), 琵琶湖博物館, 講演.
- 2019年9月28日, 東近江市市民参加生きもの調査2019年度2回目, 東近江市いきもの調査(東近江市生活環境課), 愛知川下流域(東近江市), 講師.
- 2019年11月12日, 琵琶湖の沖島と野洲市ビワマス保全活動の紹介①, 地球環境「自然学」講座(シニア大阪自然大学校), 近江八幡市・野洲市, 案内・講演.
- 2019年11月13日, 琵琶湖の沖島と野洲市ビワマス保全活動の紹介②, 地球環境「自然学」講座(シニア大阪自然大学校), 近江八幡市・野洲市, 案内・講演.
- 2020年2月21日, 「琵琶湖の多様な生き物と漁業」, 自然と文化科主催公開講演会(シニア大阪自然大学校), メルパルク高槻(大阪府高槻市), 講演.
- 2020年3月19日, 「あなたは琵琶湖漁業のどんな時代に生きているのか」, 退職記念講演会(滋賀県水産試験場), 滋賀県水産試験場(彦根市), 講演.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

東近江市環境審議会, 委員.

MEL ジャパン, 審査員.

全国内水面漁業協同組合水産多面的機能発揮対策支援事業, サポート専門家.

琵琶湖の森の生きもの研究会, 事務局長.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

中野正俊 (2019年12月8日) 「主体的・対話的で深い学び」を理科・環境学習にどう生かすか…汎用性のある博物館・学校・地域等連携実践の新たな開発と普及…琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業 (基盤C) 「汎用性のある博物館・学校・地域等連携実践の新たな開発と普及」 (研究代表者: 中野正俊), 研究代表者 (2018年度～2020年度).

印刷物

【専門分野の著作】

寺本憲之・棚橋一郎（2020）宇宙ステーションをつくるオドリハマキモドキ（ハマキモドキガ科）の生態と繭構造、野蚕—新素材シルクの研究開発—。日本野蚕学会報 *Wild Silkworm News*, 84 : 8-9.

寺本憲之（2020）養蚕飼育・桑栽培マニュアル。滋賀県農政水産部農業経営課, 60pp.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

寺本憲之・吉安 裕（2019年5月11日）人為的に枯葉を食わしたウスアカマダラメイガ幼虫は羽化するのか？。日本鱗翅学会第159回近畿支部例会, I-site なんば（大阪府立大学）（大阪市）, [口頭発表].

寺本憲之（2019年8月16日）滋賀県の蚕糸業の歴史と未来。琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

寺本憲之・棚橋一郎（2019年9月20日）宇宙ステーションをつくるオドリハマキモドキ（ハマキモドキガ科）の生態と繭構造。第25回日本野蚕学会京都大会, 京都工芸繊維大学（京都市）, [口頭発表].

寺本憲之・吉安 裕（2019年11月10日）ウスアカマダラメイガ（メイガ科）の生活史と幼生期の形態。日本鱗翅学会第66回大会, 大阪市立自然史博物館（大阪市）, [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本野蚕学会, 委員（評議員）, 2003年～.

日本鱗翅学会, 近畿支部幹事, 2004年～（本部評議員期間を除く）.

日本鱗翅学会第66回大会実行委員会, 委員, 2019年5月～11月.

びわ湖の森の生き物研究会, 幹事長, 2008年4月～.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年4月～7月（15回）, 奈良大学文学部・社会学部, 「生態学Ⅰ」.

2019年9月～2020年1月（15回）, 奈良大学文学部, 「生物地理学」.

2020年1月20日, 滋賀県立大学環境科学部, 「農業と環境（農業と温暖化）」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2019年4月～2019年1月, 養蚕（桑栽培, 邦楽器糸・真綿原料生産）指導, 大音養蚕の里づくり協議会・いそぎ・まゆっこ倶楽部, 大音集落・岩脇集落（長浜市・米原市）, 指導.

2019年4月14日, 講演「湖北の養蚕業と一次産業としての可能性」, いそぎ繭生産プロジェクト（（農）いそぎファーム・山脇源平商店）, 岩脇公民館（米原市）, 講師.

2019年5月13日，講演「湖北の養蚕業の歴史と飼育・桑栽培技術」，研修会（大音養蚕の里づくり協議会），大音集会所（長浜市），講師。

2019年6月18日，専門家による助言，養蚕プロジェクト現地検討会（滋賀県），岩脇公民館（米原市），助言。

2019年6月20・21日，講演「鳥獣被害防止対策における地域の課題抽出と普及指導方法」，令和元年度普及指導員研修・鳥獣被害防止対策支援研修（農林水産省），農林水産研修所つくば館（茨城県つくば市），講演・指導。

2019年7月29日，講義「中山間地域等における加工用リンドウ栽培の簡易野生獣防護柵設置の留意点」，第1回令和元年度新品種・新技術の確立支援事業検討会（滋賀県），農業技術振興センター（近江八幡市），指導。

2019年10月25日，公益財団法人衣笠繊維研究所 第1回評議員選定委員会，公益財団法人衣笠繊維研究所（京都市），委員。

2019年12月23日，農林水産省 鳥獣被害対策優良活動表彰審査委員会，農水省（東京都），委員長。

2019年12月27日，令和元年度滋賀県ニホンザル第二種特定鳥獣管理計画検討委員会，滋賀県，滋賀県庁（大津市），委員。

2020年2月6日，令和2年度に向けた桑栽培・蚕飼育技術研修会，養蚕農家対象（滋賀県），湖北合同庁舎（長浜市），講師。

2020年2月6日，湖北における養蚕の歴史と現在の養蚕の取組について，湖北農業農村振興事務所職員対象（滋賀県），湖北合同庁舎（長浜市），講師。

メディアへの協力

2019年7月13日（土）・再放送7月14日，びわこ放送，滋賀経済NOW 養蚕復活プロジェクト関係報道，（7月13日取材）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県立大学環境科学部，客員研究員。

奈良大学文学部，非常勤講師。

日本昆虫学会，会員。

日本蛾類学会，会員。

日本蚕糸学会，会員。

誘蛾会，会員。

環境省，鳥獣保護管理プランナー。

農林水産省，農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー。

農林水産省，令和元年度鳥獣被害対策優良活動表彰審査委員会，審査委員長。

農林水産省，令和元年度イノベーション創出強化研究推進事業（基礎研究ステージ・応用研究ステージ・開発研究ステージ），評議委員。

農林水産省，令和元年度「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」・「スマート農業加速化実証プロジェクト」，課題審査委員。

滋賀県第二種特定鳥獣管理計画（ニホンザル）検討委員会，委員。

滋賀県総合生きもの調査専門委員会，専門委員。

公益財団法人衣笠繊維研究所，評議員選定委員会，委員。

印刷物

【学術論文】

Iwaki, M., Yamashiki, Y., Muraoka, K., Toda, T., Jiao, Chunmeng and Kumagai, M. (2020) Effect of rainfall-influenced river influx on lake water levels: Time scale analysis based on impulse response function in the Lake Biwa catchment area. *Inland Waters*, Vol.10, issue 2: 283-294.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

中田聡史・芳賀裕樹・岩木真穂・波多野圭亮・馬淵浩司・高村典子 (2019年5月26日) 台風21号による琵琶湖高解像度流動シミュレーション: 琵琶湖南湖における大規模水草消失. 日本地球惑星科学連合, 幕張メッセ(千葉市), [招待講演].

岩木真穂・後藤直成・村岡晃次・早川和秀 (2019年9月30日) 琵琶湖北湖における強雨に対する湖内水位応答. 日本陸水学会, 金沢大学(金沢市), [ポスター発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等の主催行事

2019年6月22日, ユニット折り紙をしよう!, 子ども博物館(京都大学総合博物館), 京都大学総合博物館(京都市), ブース展示開催.

2019年7月20日, ユニット折り紙をしよう!, 子ども博物館(京都大学総合博物館), 京都大学総合博物館(京都市), ブース展示開催.

2019年8月17日, ユニット折り紙をしよう!, 子ども博物館(京都大学総合博物館), 京都大学総合博物館(京都市), ブース展示開催.

2019年9月7日, ユニット折り紙をしよう!, 子ども博物館開催15周年記念(京都大学総合博物館), 京都大学総合博物館(京都市), ブース展示開催.

2019年11月23日, ユニット折り紙をしよう!, 子ども博物館(京都大学総合博物館), 京都大学総合博物館(京都市), ブース展示開催.

2019年12月7日, ユニット折り紙をしよう!, 子ども博物館(京都大学総合博物館), 京都大学総合博物館(京都市), ブース展示開催.

2020年1月18日, ユニット折り紙をしよう!, 子ども博物館(京都大学総合博物館), 京都大学総合博物館(京都市), ブース展示開催.

印刷物

【専門分野の著作】

横山 博・白樫 正・山本充孝・浅井七海（2020）魚類寄生微孢子虫類はヒトに対して病害性がない．*近畿大学水産研究所報告*, 20 : 17-25.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

山本充孝・久米弘人・金辻宏明・井出充彦（2019年9月10日）琵琶湖産アユの飼育環境下における成熟および産卵特性．令和元年度日本水産学会秋季大会，福井県立大学永平寺キャンパス（福井県永平寺町），[口頭発表]．

山本充孝・根本守仁・鈴木隆夫・桑村邦彦（2019年9月12日）滋賀県で初確認されたコイのマミズヒダビル症．令和元年度日本魚病学会秋季大会，フェニックスプラザ（福井市），[口頭発表]．

山本充孝（2019年12月12日）琵琶湖で漁獲されたニゴロブナの不明病．令和元年度魚病症例研究会，シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢（三重県伊勢市），[口頭発表]．

山本充孝（2020年1月17日）琵琶湖産アユにおける脊椎骨異常（変形症）の発生機序について．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

山本充孝・孝橋賢一・森田哲男・今井 正・山本義久（2020年3月27日）閉鎖循環システムによる琵琶湖産天然アユの飼育．令和2年度日本水産学会春季大会，東京海洋大学品川キャンパス（東京都港区），[口頭発表]．（大会自体は中止されたが発表実績として学会が承認）

印刷物

【学術論文】

Yamamoto, N., Suzuki, M. and Yamamoto, M. (2019) Taxonomic notes on several Japanese chironomids (Diptera) described by Dr. M. Sasa (†) and his coauthors. *Japan. J. syst. Ent.* 25: 63-72.

【専門分野の著作】

鈴木真裕 (2020) 止水性水生昆虫群集の形成過程に関する研究. *環動昆*, 30 : 169-173.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

鈴木真裕 (2019年11月30日) 止水性水生昆虫群集の形成過程に関する研究. 第31回日本環境動物昆虫学会年次大会, 茨城県県南生涯学習センター (土浦市), [口頭発表].

鈴木真裕・山本 直・平井規央・石井 実 (2020年3月8日) 近畿中部の半自然水域における水生昆虫種・機能群の群集集合. 日本生態学会第67回全国大会, 名城大学 (名古屋市), [ポスター発表 (大会中止のため要旨掲載のみ)].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究『『田んぼの生きもの全種リスト』の増補更新と公開システムの構築』(研究代表者: 大塚泰介), 共同研究者 (2017年度~2020年度).

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年4月~2020年3月, 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科学生, 研究指導・助言.

2020年1月~2020年3月, 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科学生, 研究指導・助言.

2020年1月~2020年3月, 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科学生, 研究指導・助言.

【受賞など】

奨励賞 (日本環境動物昆虫学会), 2019年11月30日, 止水性水生昆虫群集の形成過程に関する研究.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2019年8月17日, 観察会, 棚田の生き物観察会 (平尾里山・棚田守り人の会), 平尾自治会館 (大津市), 講師.

【情報整備活動】

他の博物館・機関等の活動

大阪市立自然史博物館, 情報・写真提供, 次の論文に掲載済み: 横川昌史・高田みちよ・長谷川匡弘 (2020) 大阪府における特定外来生物オオバナミズキンバイ (広義) (アカバナ科) の現状. *大阪市立自然史博物館研究報告*, 74 : 75-82.

印刷物

【専門分野の著作】

根来 健 (2019) プランクトンの異常増殖による水の着色現象—水の華・淡水赤潮・アオコ—. *ヨシでびわ湖を守るネットワーク通信*, 34: 2-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 根来 健 (2019年4月18日) Troubles and managements in the purification processes affected by Cyanobacterial Bloom. 太湖—琵琶湖アオコワークショップ, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 根来 健 (2019年5月23日) 琵琶湖における水の華 (アオコ). Freshwater Biodiversity and the Changes in Korea and Japan, The 5th Korea-Japan Joint Seminar, 韓国洛東江生物資源館 (韓国), [口頭発表].
- 根来 健 (2019年6月29日) 南湖の水質の記録整理. 2019年度第1回研究会, 琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 根来 健・大塚泰介 (2019年11月9日) 水道障害生物 *Fragilaria crotonensis* におけるねじれ群体の出現について. 日本水処理生物学会第56回大会, 金沢工業大学扇が丘キャンパス (石川県野々市市), [口頭発表].
- 根来 健 (2019年11月10日) A-20~24セッション. 日本水処理生物学第56回大会 (石川大会), 金沢工業大学扇が丘キャンパス (石川県野々市市), [座長].
- 根来 健・大塚泰介・辻 彰洋 (2019年12月1日) ねじれた群体を作る *Fragilaria crotonensis* に関する考察. 日本珪藻学会第39回研究集会, 東京学芸大学 (東京都国分寺市), [口頭発表].
- 根来 健 (2020年2月15日) 琵琶湖班「琵琶湖南湖の透明度の変遷」. 2019年度第2回研究会, 琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」(研究代表者: 亀田佳代子), 共同研究者 (2019年度~2023年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 環境技術学会, 理事, 2015年~.
- 環境技術学会, 編集委員, 2015年~.
- 日本水処理生物学会, 評議員, 2017年~.
- 日本水処理生物学会, 企画委員会幹事, 2017年~.
- 日本水処理生物学会, 企画委員長, 2020年1月~.
- (公社) 日本水道協会関西地方支部, 幹事 (特別会員), 2017年~.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2019年9月4・5・13日, 環境ソリューション工学I, 龍谷大学大学院理工学研究科, 講師.
- 2019年9月25日, 龍谷大学理工学部, 特別講義「水道水」.
- 2019年10月2日, 龍谷大学理工学部, 特別講義「琵琶湖のプランクトン」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2019年7月21日、びわ湖の生きたプランクトン観察会 夏の部、琵琶湖博物館、事務局および講師、(びわ湖の生きたプランクトン観察会と共催・一瀬 諭氏、大塚泰介、石上三男氏と共同)。
- 2019年10月19日・20日、びわ博フェス2019「マイクロアクアリウムを活用したワークショップ」、琵琶湖博物館、解説員。
- 2019年10月26日、びわ湖の生きたプランクトン観察会 秋の部、琵琶湖博物館、事務局および講師(びわ湖の生きたプランクトン観察会と共催・一瀬 諭氏、大塚泰介、石上三男氏と共同)。
- 2019年12月21日、プランクトン培養方法研修会、琵琶湖博物館、講師(一瀬 諭氏、大塚泰介、廣石伸吾と共同)。
- 2020年2月1日、びわ湖の生きたプランクトン観察会 冬の部、琵琶湖博物館、事務局および講師(びわ湖の生きたプランクトン観察会と共催・一瀬 諭氏、大塚泰介、石上三男氏、鈴木隆仁と共同)。

他博物館・機関の活動

- 2019年4月20日、第1回びわ湖の生きたプランクトン観察会(春の部)、びわ湖の生きたプランクトン観察会事務局、講義および実習、びわ湖大津館(大津市)、事務局および講師(一瀬 諭氏と共同)。
- 2019年7月4日、講演「生物から見た最近の琵琶湖の水質問題について」、上下水道部会7月例会講演会(公社)日本技術士会近畿支部、(公社)日本技術士会近畿支部(大阪市)、講師。
- 2019年8月22・23日、講義および実習「汚水生物・水源地プランクトンの検索・同定・計数・評価技術」、第36回水処理生物基礎講座(日本水処理生物学会・秋田県立大学)、秋田県立大学(秋田市)、事務局および講師。
- 2019年10月5日、講義「プランクトン講習」、大阪府シニア自然大学、琵琶湖博物館実習室、講師(大塚泰介と共同)。
- 2019年10月27日、見学会「琵琶湖疏水の分線(蹴上～哲学の道～松ヶ崎)の道」、環境技術学会・NPO法人環境技術支援センター、琵琶湖疏水分線近辺(京都市)、講師。
- 2019年11月23日、講義「プランクトンと浄水処理」、第7回SeedBank NOM((株)SeedBank)、(株)SeedBank(京都市左京区)、講師。
- 2019年12月4日、講義「琵琶湖疏水と京の暮らし」、令和元年度研修(桂老人クラブ連合会)、琵琶湖ホテル(大津市)、講師。
- 2020年2月28日、講義「浄水処理における生物障害」、社内セミナー(リオン株式会社)、リオン株式会社(東京都国分寺市)、講師。

メディアへの協力

- 2020年3月30日、インタビュー「滋賀の水道水について、滋賀県の水道水は琵琶湖の水から作られているの?・琵琶湖のプランクトンと浄水処理・琵琶湖の水の今昔ほか」、NPO法人琵琶故知新、旧大津公会堂(大津市)、講師。(琵琶湖博物館休館中のため取材場所変更)

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- プランクトン・琵琶湖の水質等について、展示交流員への解説や質問回答、多数。
- プランクトンの顕微鏡写真、作成。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

NPO 法人 水道事業活性化懇話会，委員（2015 年～）.

（一社）全国水道管内カメラ調査協会，専門委員（2017 年～）.

近江八幡市水道事業運営委員会，副委員長（2019 年 10 月～）.

印刷物

【学術論文】

- Miyashita, Y., Hagiwara, T. and Imai, I. (2019) The existence of cyanobactericidal bacteria and growth-inhibiting bacteria on water plants in Lake Ohnuma, Japan. *Limnology*, 20: 39-53.
- Inaba, N., Trainer, V.L., Nagai, S., Kojima, S., Sakami, T., Takagi, S. and Imai, I. (2019) Dynamics of seagrass bed microbial communities in artificial *Chattonella* blooms: A laboratory microcosm study. *Harmful Algae*, 84: 139-150.
- 今井一郎・宮下洋平・小林淳希・大洞裕貴 (2019) 渡島大沼における富栄養化とアオコの発生、および環境に優しいアオコ対策の可能性. *地形*, 40: 77-91.
- 仲村康秀・松岡敷充・今井一郎・石井健一郎・桑田 晃・河地正伸・木元克典・鈴木紀毅・佐野雅美・Jose M. Landeira・宮本洋臣・西川 淳・西田周平 (2019) プランクトンの分類・生態研究、その現状と最新知見. *日本プランクトン学会報*, 66: 22-40.
- Umetsu, S., Kanda, M., Imai, I., Sakai, R. and Fujita, M.J. (2019) Questionmycins, algicidal compounds produced by the marine bacterium *Alteromonas* sp. D and their production cue. *Molecules*, 24: 4522.

【専門分野の著作】

- 今井一郎 (2019) 魚類と海藻の複合養殖による有害赤潮の発生予防の可能性. *月間海洋*, 51 (5): 247-253.
- 山口 篤・今井一郎・平譯 亨・松野孝平 (2019) 第3章 プランクトン・微生物関係. *水産科学海洋環境科学実習*, In: 北海道大学水産学部練習船教科書編纂委員会 (編), 海文堂, 東京, pp. 77-88.

【一般向けの著作】

- 今井一郎 (2019) 第18回国際有害有毒藻類会議 (ナント2018) 参加記. *日本プランクトン学会報*, 66: 43-45.
- 今井一郎 (2019) 赤潮を引き起こすプランクトン. *Milsil (国立科学博物館)*, 12 (4): 6-8.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 今井一郎 (2019年4月18日) 水草を活用したアオコ発生制御の可能性. 太湖-琵琶湖アオコワークショップ, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- Imai, I. (2019年4月24日~27日) The occurrence mechanism of fish-killing red tides of *Chattonella* (Raphidophyceae) and successful trial of environment-friendly prevention strategies using diatoms. 2019 Annual Symposium of the Korean Society of Environmental Biology and Harmful Organisms 2019 - *New horizons in Harmful Organism Science* -, Pusan Port International Exhibition and Convention Center (Pusan, Korea) [Key Note presentation].
- Imai, I. and Inaba, N. (2019年4月24日~27日) Environment-friendly prevention strategies for harmful algal blooms using algicidal bacteria associated with seaweeds and seagrasses. 2019 Annual Symposium of the Korean Society of Environmental Biology and Harmful Organisms 2019 - *New horizons in Harmful Organism Science* -, Pusan Port International Exhibition and Convention Center (Pusan, Korea) [Oral presentation].

- Imai, I. (2019年6月12日～17日) The existence of cyanobactericidal bacteria on water plants: possible prevention strategies for nuisance cyanobacterial blooms in lake systems. SINO-JAPAN Joint Workshop on Plateau Lakes' Eutrophication and Ecosystem Restoration, SPA Dianch Spring (Yunan Province, China), [Oral presentation].
- 赤穂那海・今井一郎・中野温美・矢野諒子・小原静夏・中島吉洋・小池一彦・萩原悦子・平江 想・山本佳奈・山砥稔文・松野孝平・山口 篤 (2019年9月8日～10日) 沿岸海域において貧酸素水塊が底生珪藻と赤潮鞭毛藻に与える影響. 令和元年度日本水産学会秋季大会, 福井県立大学永平寺キャンパス (福井市), [口頭発表].
- 坂本節子・及川 寛・奥村 裕・山本圭吾・山口峰生・松岡数充・今井一郎 (2019年9月8日) 令和元年度日本水産学会水産環境保全委員会研究会. 福井県立大学永平寺キャンパス (福井市), [コンビーナー].
- 今井一郎・山本圭吾 (2019年9月8日) 環境に優しい有毒プランクトンブルームの生物学的制御. 日本水産学会令和元年度水産環境保全委員会研究会, 福井県立大学永平寺キャンパス (福井市), [シンポジウム口頭発表].
- 各務彰記・嶋田 宏・今井一郎 (2019年9月18日～21日) 函館湾における有害渦鞭毛藻 *Karenia mikimotoi* 赤潮の発生と津軽海峡における分布. 2019年度日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, B-nest 静岡市産学交流センター (静岡市), [口頭発表].
- 大洞裕貴・宮下洋平・今井一郎 (2019年9月27日～30日) 北海道渡島大沼の支湾に集積したアオコと殺藍藻細菌の挙動. 日本陸水学第84回大会金沢大会, 金沢大学角間キャンパス (金沢市), [口頭発表].
- 今井一郎 (2019年10月5日) 藻場とアマモ場の微生物による赤潮の生物的防除. エコフォーティチュード主催シンポジウム『海洋の現状と課題～温暖化・海洋酸性化・磯焼け～』, かでる2・7 (札幌市), [基調講演].
- Imai, I., Kakumu, A. and Shimada, H. (2019年11月4日～6日) Expanded occurrences of red tides by the warm-water dinoflagellate *Karenia mikimotoi* in Hakodate Bay, Hokkaido, northern Japan. The 4th Asian Marine Biology Symposium 2019 in Taipei, Taiwan National University (Taipei, Taiwan), [Oral presentation].
- Imai, I. (2019年12月11日～13日) Occurrence mechanisms of fish-killing raphidophyte red tides and proposal of prevention strategies activating diatom resting stage cells in bottom sediments. The 11th International EASTHAB Symposium and the 4th National HAB Conference, Microtel Hotel by Wyndham (Puerto Princessa, Palawan, Philippines), [Plenary presentation].
- 桑江朝比呂・川崎浩司・藤井賢彦・大越和加・今井一郎 (2020年1月11日) 沿岸分野の各学会における気候変動対応: 学会間のトレードオフとシナジー効果を明らかにする. 第36回沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイントシンポジウム, 東京海洋大学品川キャンパス (東京都), [コンビーナー].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 国際有害有毒藻類学会, 国際評議員.
- 沿岸環境関連学会連絡協議会, 代表.
- 日本プランクトン学会, 副会長.
- 日本水産学会, 水産環境保全委員会, 委員.
- 第20回国際有害有毒藻類学会, 大会委員長 (広島, 2023 予定).
- EASTHAB, 運営委員 (日本).
- 日本プランクトン学会, Plankton and Benthos Research, 査読, 1件.
- 日本藻類学会, Phycological Research, 査読, 1件.
- Harmful Algae (Elsevier), 査読, 2件.
- Dinoflagellates: Classification, Evolution, and Ecological Significance, Nova Publishers, New York, 査読, 1 Chapter.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

- 2019年9月3日～6日, 福井県立大学, 「浮遊生物学」集中講義.

2019年11月12日, 北海道大学, 「海と生命」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2019年7月20日・8月3日, 「はじめてのたんさいぼう上級編 生きた珪藻の定量法」, 琵琶湖博物館, 講師 (山本真里子氏と共同), 2回.

他の博物館・機関等主催行事

2019年6月30日 (座学)・7月15日 (座学)・7月24日 (現地水草調査, 膳所公園)・8月4日 (船上実習, 琵琶湖北湖)・11月24日 (座学)・2020年1月26日 (座学), JST ジュニアドクター育成塾 (特定認定NPO法人琵琶湖トラスト), コラボしが21・フローティングスクール (大津市), 講師, 6件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

瀬戸内海広域漁業調整委員会 (水産庁), 会長.

大阪海区漁業調整委員会 (大阪府), 委員.

大阪府海面利用協議会, 会長.

大阪府豊かな海づくり推進プラン懇話会, 座長.

公益財団法人大阪府漁業振興基金, 理事.

認定特定NPO法人びわ湖トラスト, 理事.

公益財団法人国際エメックスセンター, 主席客員研究員.

一般社団法人全日本漁港建設協会 環境維持保全工法研究会, 顧問.

温州大学 (中国), 客員教授.

雲南大学 (中国), 客員教授.

環日本海海洋環境検討委員会 (公益財団法人環日本海環境協力センター), 委員.

水産庁漁場環境改善推進事業 (赤潮被害防止対策技術の開発), 有識者委員.

有害プランクトン同定研修会 (国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所), 講師.

有害プランクトン同定研修会テキスト改訂検討委員会 (国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所), 委員.

京都大学生態学研究センター, 協力研究員.

日本政府観光局, 認定 MICE アンバサダー.

印刷物

【学術論文】

柏谷健二・糸野妙子・落合伸也・石川一真・長谷部徳子 (2019) 湖沼一流域系から推定する地球環境変動. *地形*, 40: 5-25.

福士圭介・矢部太章・糸野妙子・落合伸也・村上拓馬・長谷部徳子・柏谷健二 (2019) 北海道渡島大沼湖沼堆積物におけるヒ素の存在形態と環境動態. *地形*, 40: 57-75.

【一般向けの著作】

柏谷健二 (2019) 北海道渡島大沼の湖底に刻まれた地表環境変動 (論文解説). *日本地形学連合HP*, 日本地形学連合. <http://jgu.jp/content/files/outreach/commentary/2019TJGU40-1/01Kashiwaya2019Comm.pdf>.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

Kashiwaya, K. (2019年9月16-20日) Long- and short-term environmental information inferred from lacustrine sediments in East Eurasia (Keynote speech). The 17th International workshop on Present Earth Surface Processes and Long-term Environmental Changes in East Eurasia (Ulaanbaatar, Mongolia), [口頭発表].

Kashiwaya, K. (2019年11月6-8日) Present earth surface processes and long-term environmental changes inferred from lake-catchment systems. The 40th anniversary meeting of the founding of Japanese Geomorphological Union, Kyoto University Uji Obaku Plaza (Uji, Kyoto), [口頭発表].

柏谷健二 (2019年12月20日) 湖沼堆積物情報と地球環境変動ーバイカル湖と琵琶湖の比較. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「バイカル湖堆積物研究成果の集約・管理・公開へ向けた総合研究ーバイカル資料・研究発信センターを目指してー」(研究代表者: 柏谷健二), 研究代表者 (2019年度~2020年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

一般社団法人日本地形学連合, 理事.

Quaternary Research, 査読, 1件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2019年9月15日~21日, モンゴル ウランバートル, The 17th International workshop への参加.

印刷物

【学術論文】

- Fukuyama, Y., Omae, K., Yoshida, T. and Sako, Y. (2019) Transcriptome analysis of a thermophilic and hydrogenogenic carboxydrotroph *Carboxydotherrmus pertinax*. *Extremophiles*, 23: 389-398.
- Omae, K., Fukuyama, Y., Yasuda, H., Mise, K., Yoshida, T. and Sako, Y. (2019) Diversity and distribution of thermophilic hydrogenogenic carboxydrotrophs revealed by microbial community analysis in sediments from multiple hydrothermal environments in Japan. *Archives of Microbiology*, 201: 969-982.
- Fukuyama, Y., Tanimura, A., Inoue, M., Omae, K., Yoshida, T. and Sako, Y. (2019) Draft genome sequences of two thermophilic *Moorella* sp. strains, isolated from an acidic hot spring in Japan. *Microbiology Resource Announcements*, 8(4): e00663-19.
- Morimoto, D., Tominaga, K., Nishimura, Y., Yoshida, N., Kimura, S., Sako, Y. and Yoshida, T. (2019) Co-occurrence of broad and narrow host-range viruses infecting the toxic bloom-forming cyanobacterium *Microcystis aeruginosa*. *Applied and Environmental Microbiology*, 85(4): e01170-19.
- Yoneda, Y., Yoshida, T. and Sako, Y. (2020) *Calderihabitans*. In: Whitman, W.B., Rainey, F.A., Kämpfer, P., Trujillo, M.E., DeVos, P., Hedlund, B. & Dedysh, S. (eds) *Bergey's Manual of Systematics of Archaea and Bacteria*. Wiley, doi:10.1002/9781118960608.gbm01651.
- Fukuyama, Y., Inoue, M., Omae, K., Yoshida, T. and Sako, Y. (2020) Anaerobic and hydrogenogenic carbon monoxide-oxidizing prokaryotes: Versatile microbial conversion of a toxic gas into an available energy. *Advanced Applied Microbiology*, 110: 99-148.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表等】

- 左子芳彦 (2019年7月19日) 熱水環境に生息する好熱菌の生理・生態学的研究. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- Okamoto, S., Inoue, M., Tanimura, A., Ogami, Y., Hino, T., Okunishi, S., Maeda, H., Yoshida, T. and Sako, Y. (Sep. 2, 2019) Isolation, growth profile, and genome sequence of *Parageobacillus thermoglucosidasius* strain TG4, a thermophilic, hydrogenogenic, carboxydrotrophic bacterium, first isolated from a marine sediment. Thermophiles 2019 15th International Congress on Thermophiles, Kyusyu University (Hakata), [Poster].
- Fukuyama, Y., Omae, K., Yoshida, T. and Sako, Y. (Sep. 2, 2019) Insight into hydrogenogenic carbon monoxide metabolism in *Carboxydotherrmus pertinax* revealed by comparative genomic analysis, growth experiments and whole transcriptome analysis. Thermophiles 2019 15th International Congress on Thermophiles. Kyusyu University (Hakata), [Poster].
- Inoue, M., Izumihara, H., Fukuyama, Y., Omae, K., Yoshida, T. and Sako, Y. (Sep. 2, 2019) Redox-balancing in carbon monoxide-utilization of a thermophilic, hydrogenogenic carboxydrotroph *Calderihabitans maritimus* KKCl revealed by a comparative transcriptomic study. Thermophiles 2019 15th International Congress on Thermophiles, Kyusyu University (Hakata), [Oral].

日野太貴・井上真男・谷村あゆみ・岡元俊輔・吉田天士・左子芳彦（2019年9月10日）水素生成一酸化炭素酸化細菌 *Parageobacillus* sp. G301 株の生理性状およびゲノム解析. 日本微生物生態学会第33回大会, 山梨大学（甲府市）, [口頭発表].

足立夕花・井上真男・吉田天士・左子芳彦（2019年11月16日）*Parageobacillus thermoglucosidasius* における水素生成型一酸化炭素酸化関連酵素群の機能解明に向けた遺伝子組換え研究. 極限環境生物学会2019年度（第20回）年会, 京都大学（京都市）, [ポスター発表].

岡元俊輔・井上真男・吉田天士・左子芳彦（2019年11月16日）*Parageobacillus* 属細菌におけるH₂取り込み型ヒドロゲナーゼを介したエネルギー獲得機構に関する研究. 極限環境生物学会2019年度（第20回）年会, 京都大学（京都市）, [ポスター発表].

井上真男・日野太貴・吉田天士・左子芳彦（2019年11月16日）*Parageobacillus* 属細菌における一酸化炭素利用能の多様性. 極限環境生物学会2019年度（第20回）年会, 京都大学（京都市）, [口頭発表].

野澤理香・福山宥斗・西田志穂・奥西将之・前田広人・吉田天士・左子芳彦（2019年11月23日）海底堆積物を用いた集積培養系における一酸化炭素酸化菌の動態解析. 日本水産増殖学会第18回大会・令和元年度日本水産学会近畿支部例会, 近畿大学（奈良市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業（基盤S）「時空間的探査による一酸化炭素資化菌の包括的研究とその応用基盤の構築」（研究代表者：左子芳彦）, 研究代表者(2016年度～2020年度).

【学会等の役職・運営・論文の査読など】

マリンバイオテクノロジー学会, 理事, 2012～2019年度.

日本水産学会, 近畿支部幹事, 2012～2019年度.

公益財団法人発酵研究所, 理事, 2019年6月～.

【大学・学校の講義・実習、学生・生徒の指導など】

2019年5月25日, 近畿大学農学部, 公開シンポジウム「規海洋性好熱菌の探索とゲノム情報を用いた応用展開」, 講師.

2019年11月7日, 鹿児島大学, 知財セミナー「新規海洋性好熱菌の探索とバイオテクノロジー」, 講師.

総合研究・共同研究による印刷物

- 柏谷健二・糸野妙子・落合伸也・石川一真・長谷部徳子 (2019) 湖沼一流域系から推定する地球環境変動. *地形*, 40 : 5-25.
- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之 (2020) *ネイチャーガイド 日本の水生昆虫*. 文一総合出版, 東京, 352pp.
- Hisaoka, T., Nakanishi, K. and Nishida, T. (2019) Seasonal occurrence and habitat partitioning of two oriental weather loaches, the alien *Misgurnus dabryanus* and the endemic *M. anguillicaudatus*, in Shiga, central Japan. *Japanese Journal of Environmental Entomology and Zoology*, 30: 103-112.
- Nakanishi, K., Ueda, T., Yokomizo, H. and Hayashi, TI (2020) Effects of systemic insecticides on the population dynamics of the dragonfly *Sympetrum frequens* in Japan: statistical analyses using field census data from 2009 to 2016. *Science of the Total Environment*, 703: 134499.
- 大庭伸也 (2019) 日本の生態系における蚊の生態～特に身近な蚊の仲間たち～. *農業と園芸*, 94 (2) : 142-150.
- Ohba, S., Numata, K. and Kawano, K. (2020) Variation in flash speed of Japanese firefly, *Luciola cruciate* (Coleoptera: Lampyridae), identifies distinct southern “quick-flash” population on Goto Islands. *Entomological Science* (published online).
- Ohba, S., Suzuki, K., Sakai, Y., Shibata, J. and Okuda, N. (2019) Effects of irrigation system alterations on the trophic position of a threatened top predator in rice-field ecosystems. *Freshwater Biology*, 64: 1737-1746.
- 渡部黎也・大庭伸也 (2019) 青森県大鰐町におけるシマゲンゴロウの記録. *月刊むし*, 586 : 48.
- Yamamoto, N., Suzuki, M. and Yamamoto, M. (2019) Taxonomic notes on several Japanese chironomids (Diptera) described by Dr. M. Sasa (†) and his coauthors. *Japan. J. syst. Ent.* 25: 63-72.

*編集者注: このリストでは、印刷物を研究課題ごとに分けることなく、すべてを著者名のアルファベット順に並べた。

2019 年度の研究活動をふりかえって

琵琶湖博物館では、開館以来、研究活動は博物館の根幹であると位置づけ、「湖と人間」のテーマのもと、琵琶湖とその周辺の多面的な価値を地域の人たちと共に探る研究を行ってきた。2019 年度は、引き続き 2016 年度に策定した新琵琶湖博物館創造基本計画の研究活動方針に沿って、行動計画の研究事業を進めた。具体的には、(1) 琵琶湖地域の「湖と人間」の関係性を探る総合的な研究の推進、(2) 「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究、(3) 「木から森へ」の博物館学の追求という三つの方向性を掲げ、2020 年度までにそれらの研究を具体的に推進していくことを目指した。

新琵琶湖博物館創造基本計画の柱であり、開館以来20年以上に及ぶ研究成果の発信として、2019 年度も引き続き第3期展示リニューアル、A・B展示室の更新準備を進めた。2020年度には、全ての常設展示室が更新され、グランドオープンを迎える予定である。

2019年度は、新たな総合研究を1件スタートさせた。「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」と題して、江戸時代末期から現在までの約150年間の琵琶湖とその集水域の様々な環境変遷を収集、整理し、種類の異なる情報間の関係を明らかにすることで、未来の湖と人との関わりについて検討するための情報セットを整備するというものである。本年度は準備段階として、共同研究者同士の情報共有と既存情報の確認を行った。2023年度まで継続し、次の展示更新につながる研究成果や資料・情報の収集を目指す予定である。

研究活動方針の1つである、琵琶湖淀川水系の文化や固有種を含む生物多様性とその形成過程など、東アジア水系の中での位置づけを明らかにする研究では、MOUを締結している韓国国立洛東江生物資源館との合同セミナーを、5月に韓国で行った。今回は、合同セミナーと合わせて、調査船による洛東江の見学などを行い、現地環境や調査方法などを実際に目にする事ができた。また今回は、企画展示「海を忘れたサケビワマスの謎に迫る」に関する展示や資料の交流についての打合せも行き、実際に企画展示では洛東江生物資源館から借用した韓国のサケマス類の標本や資料、画像などを展示することができた。

研究発信のひとつである第27回企画展示「海を忘れたサケビワマスの謎に迫る」は、7月20日から11月24日まで開催した。その関連行事として、一般財団法人全国科学博物館振興財団の助成を受け、9月14日にシンポジウム「ビワマスとその仲間たちをもっと身近に」も開催した。このシンポジウムでは、ビワマス関わる様々なジャンルの専門家の他、台湾海洋大学や国立台湾博物館の研究者も招いて開催され、すでに述べた韓国のサケマス類の展示とあわせて、国際的な視野から琵琶湖固有種ビワマスの位置づけや研究成果を比較することができた。

その他の研究発信としては、引き続き中日新聞連載コラム「湖岸より」への執筆や、琵琶湖博物館ブックレットシリーズの刊行を継続している。ブックレットについては、今年度は第10号「琵琶湖のまわりの昆虫」と第11号「ナマズの世界へようこそ」を発刊した。新琵琶湖学セミナーについては、リニューアルオープンするA展示室の新しいテーマ「湖の400万年と私たち—変わる大地・気候・生き物—」をセミナーのタイトルとし、琵琶湖の生き物・大地・気候というテーマで最新の研究成果を紹介するとともに、現在の私たちの暮らしとの関係性についても伝えるセミナーとした。セミナーは、1月、2月、3月の3回に渡って、学芸員や外部研究者による6本の発表を行う予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、残念ながら第3回は中止となった。第1回と第2回の参加者は、のべ130名だった。これ以外に、首都圏での発信として、東京・日本橋の滋賀県アンテナショップ「ここ滋賀」において、琵琶湖博物館サイエンスセミナーを、昨年度に引き続き2回実施した。

データで見ると、今年度の研究発信は、学術論文17件、専門分野の著述52件、一般向けの著述127件、学会発表は133件であった。研究成果の発信数は、ここ数年展示リニューアルに時間と労力がかかっているためか、論文数は低い水準にとどまっている。次年度のグランドオープン後は、研究環境を整

え、次の展示更新や博物館活動への活用のために、より一層研究を推進していく必要がある。そのため、各学芸職員が研究専念日を週1日確保できるよう、年度初めに各自曜日を設定して実施できるようにしている。また、老朽化と故障により分析を行うことが難しくなっている大型研究備品について、新規購入の予算確保に努めた結果、故障し使えなくなったDNAシーケンサーを新たに購入することができた。引き続き、研究棟の空調設備の老朽化や故障などの課題も、改善の方向を探りたい。

県費による研究費が年々厳しくなる中で、文部科学省科学研究費補助金などの外部資金の獲得について、組織的に進めてきたが、今年度の科学研究費では3件の新規採択があり、継続を合わせて10件という結果となった。科学研究費以外の外部助成にも、引き続き積極的に応募し、研究費の確保を行っていく必要がある。また、今年度も21名の特別研究員を受け入れ、科研費申請も含めて学芸職員だけでは取り組めない幅広い分野の研究にも取り組むことができた。ただし、スペースの問題や、科学研究費への申請が可能な研究者番号の取得基準、博物館への研究成果の還元の仕方などについては、さらに検討を進めて行く必要がある。

館外との研究交流については、県立の試験研究機関同士の連絡会議において交流が進み、各機関の研究者が関心を持つテーマの勉強会の開催が定着してきている。このような交流をきっかけとして、新たな共同研究の発展が期待される。

研究部長 亀田佳代子

琵琶湖博物館業績目録 第24号

2019年度

令和2年(2020年)8月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091
電話 077-568-4811(代)